

松本市文化財調査報告 No.151

長野県松本市

MOMOSE

百瀬遺跡 IV

—緊急発掘調査報告書—



2001.3

松本市教育委員会

長野県松本市

MOMOSE

百瀬遺跡 IV

—緊急発掘調査報告書—

2001.3

松本市教育委員会

序

百瀬遺跡は松本市の南部、寿地区に位置します。平成9年に第3次調査が行われており、今回が第4次調査となります。

このたび当地にアップルランド豊丘店の建設が計画されたため、松本市では株式会社アイディール及び松電商事株式会社から発掘調査の委託を受け、埋蔵文化財を記録する目的で緊急発掘調査を実施することとなりました。

発掘調査は市教育委員会によって、平成11年5月から同年7月にかけて行われました。梅雨時の調査であり、天候に恵まれない日もありましたが、関係の皆様のご御尽力により無事終了することができました。発掘調査の結果、弥生時代から中世に至るまで、幅広い時代の生活の跡を発見することができました。これらは今後、地域の歴史を解明するうえで、大変役に立つ資料になることと思われまます。

しかしながら、開発事業に先立って行われる発掘調査は、記録保存という遺跡の破壊を前提とする側面があることも事実です。開発により私たちの生活が豊かになる一方、それにともない歴史遺産が失われてしまうのは残念なことです。発掘調査により当時の生活が明らかとなり、私たちの郷土松本が歩んできた歴史が一つずつでも解き明かされることは大変貴重なことだと考えます。

最後になってしまいましたが、今回の発掘調査に多大な御理解と御協力をいただいた株式会社アイディール、松電商事株式会社の皆様、地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成13年3月

松本市教育委員会 教育長 竹 淵 公 章

例言

- 1 本書は平成11年5月13日～7月10日に実施された長野県松本市寿豊丘118-2-1他に所在する百瀬遺跡4次調査の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は株式会社アイディール、松電商事株式会社による店舗建設事業に伴う緊急発掘調査であり、同社より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査を実施、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書執筆はI：事務局、V-1(2)：直井雅尚、V-2：赤羽裕幸、V-4：太田圭都、その他を荒木 龍が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。
遺物洗浄：百瀬二三子 遺物保存処理・復原：五十嵐周子、内澤紀代子 遺構図整理：石合英子
遺物実測：菊池直哉、太田圭都、竹内直美、竹平悦子、洞沢文江、松尾明恵、望月 映
トレース：太田圭都、窪田瑞恵、櫻井 了、田多井用章、洞沢文江、 版 組：石合英子、林 和子
写真撮影：赤羽裕幸、荒木 龍（遺構）、宮嶋洋一（遺物）
総括・編集：荒木 龍
- 5 本書で使用した遺構の略称は次のとおりである。 竪穴住居址→住、建物址→建、溝址→溝、土坑→土、ピット→P
- 6 図中で用いた方位記号は全て真北方向を用いている。
- 7 調査実施及び本報告書作成にあたり、以下の方々から協力・教示を得ました。記して感謝を申し上げます。（敬称略）
野村一寿、市川隆之（中世遺物）、森 義直（自然遺物）
- 8 遺構・遺物の記述で用いた時期区分や遺構・遺物の分類、用語などの多くは下記文献に拠っている。
奈良・平安及び中世：(財)長野県埋蔵文化財センター1990『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内1-総論編』
金属製品：同上 1989『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3-塩尻市内その2-吉田川西遺跡』
- 9 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市中山3738-1 TEL0263-86-4710 FAX0263-86-9189）に収蔵されている。

目次

本文目次

序文

例言・目次

I 調査の経緯

- 1 調査に至る経緯……………1
- 2 調査体制……………1

II 遺跡の位置と歴史的環境

- 1 百瀬遺跡の過去の調査…4
- 2 周辺遺跡……………4

III 調査の概要

- 1 調査の概要……………7
- 2 調査地の土層……………7

IV 遺構

- 1 弥生時代の遺構……………8
- 2 古墳時代の遺構……………8
- 3 平安時代の遺構……………8
- 4 中世の遺構……………8

V 遺物

- 1 土器・陶磁器……………16
(1) 縄紋時代の土器……………16
(2) 弥生時代の土器……………16
(3) 古墳時代の土器……………18
(4) 平安時代の土器……………18
(5) 中世の土器……………18
- 2 金属器……………19
- 3 木材・自然遺物……………20
- 4 石器……………44

VI まとめ……………50

写真図版1～8……………51～58

抄録

図目次

- 第1図 土層概略図……………1
- 第2図 調査地点と周辺の遺跡……………2
- 第3図 百瀬遺跡各調査地点の位置…3
- 第4図 弥生時代・古墳時代の遺構…5
- 第5図 平安時代・中世の遺構……………6
- 第6～10図 遺構(1)～(5)…11～15

- 第11～20図 遺物(縄紋・弥生土器)……………21～30
- 第21・22図 遺物(古墳～中世の土器)…31・32
- 第23図 遺物(金属器)……………42
- 第24図 石器母岩別資料分布図……………45
- 第25・26図 石器実測図……………48・49

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

百瀬遺跡は松本市街地の南東、寿地区に位置する遺跡である。昭和26年に1次発掘調査が行われてから3次にわたって発掘調査が実施されており、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世を中心とした集落址が確認されている。そうした中、3次調査地点に近接した地点で店舗建設事業が計画され、事業地が周知の遺跡である百瀬遺跡の範囲に近接しており、埋蔵文化財を包蔵する可能性があった。このため事業者と埋蔵文化財の保護について協議を行い、試掘調査を実施して埋蔵文化財の有無を確認することとし、その結果を踏まえ再度協議を行うことになった。

試掘調査は平成11年4月26～28日に松本市教育委員会が実施し、弥生時代を中心とした遺構、遺物を確認した。この結果を踏まえ、再度遺跡の保護協議を行い、店舗建設により埋蔵文化財が破壊される範囲について発掘調査を行って遺跡の記録保存を図ることとなった。発掘調査及びこれに係る事務処理については松本市教育委員会が実施することとし、事業者である株式会社アイディール、松電商事株式会社と松本市の間に平成11年5月1日付けで発掘調査業務の委託契約書が締結された。現地での発掘調査は平成11年5月13日～7月10日まで行われた。発掘調査終了後は、引き続き考古博物館において、整理作業および本報告書の作成を行った。

2 調査体制

調査団長 松本市教育長 竹淵公章

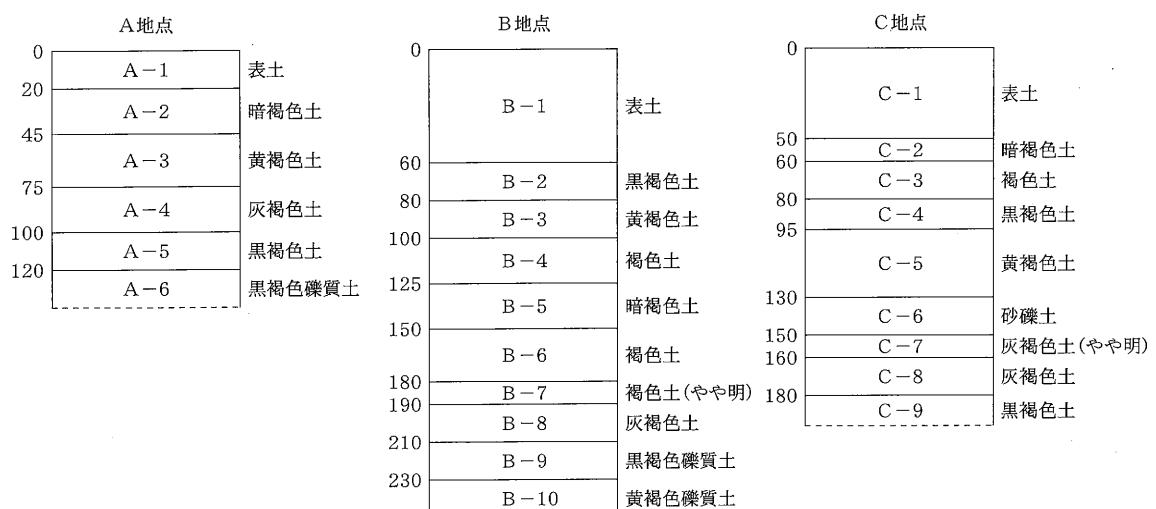
調査担当者 赤羽裕幸 荒木 龍（文化課文化財担当）

調査員 今村 克 太田守夫

協力者 浅井信興 飯島由次 五十嵐周子 白井秀明 遠藤美穂 大月八十喜 久保田登子 小松正子 斎藤政雄 芝田とり子 清水陽子 鈴木幸子 鷺見昇司 高橋登喜雄 高橋昭雄 寺島 実 中上昇一 林 和子 藤本利子 洞沢文江 畑 茂 前澤保亀 丸山喜和子 宮田美智子 村山牧枝 甕 国成 百瀬二三子 米山禎興

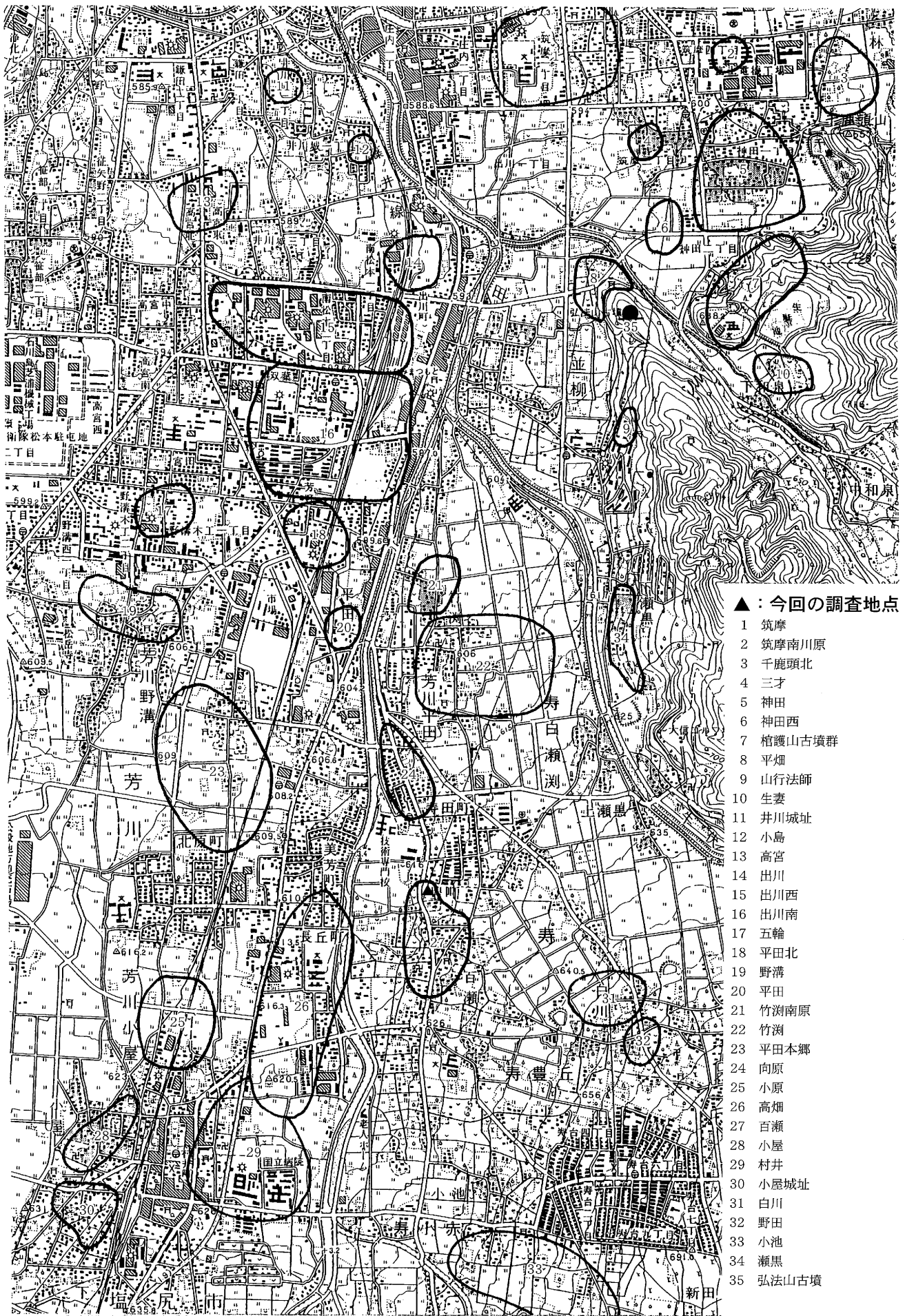
事務局 松本市教育委員会文化課

木下雅文（課長）、熊谷康治（課長補佐）、松井敬治（同）、直井雅尚（主査）、武井義正（主任）、久保田剛（主任）、酒井まゆみ（嘱託）、渡邊陽子（同）、塚原祐一（同）



単位：cm

第1図 土層概略図



第2図 調査地点と周辺の遺跡 (1:25,000)



第3図 各調査地点の位置(1:2,500)

II 遺跡の位置と歴史的環境

百瀬遺跡は松本市街地南東の寿地区豊丘の百瀬に所在する。周辺には諏訪藩の代官所跡である百瀬陣屋跡（市史跡）、市重要文化財の阿弥陀如来座像のある正念寺、古墳跡といわれる耳塚などが知られている。また昭和26年の発掘調査によって弥生時代中期末の竪穴住居址と遺物が出土し「百瀬式土器」の標式遺跡としても知られている。遺跡内では計5回（約3,000㎡）の発掘調査が実施され、弥生時代中期末だけでなく縄紋時代から中世に至る多くの遺構と遺物が検出されている。地形的には牛伏川の扇状地の末端を南北に流れる田川が浸食することで形成された田川右岸段丘上に位置する。この田川兩岸の段丘上や微高地上には各時期の多くの遺跡がみられる。牛伏川は度々氾濫したことが知られ当地域の遺跡の中には牛伏川の氾濫により消滅したものもあると考えられている。以下では当遺跡の概要と近年実施した周辺遺跡の発掘調査の成果を概観する。

1 百瀬遺跡の過去の調査（第3図）

1次調査 昭和26～27年実施。4回にわたる調査。正念寺の西側に位置する。藤澤宗平氏が担当して弥生時代中期末の竪穴住居址1軒を検出し多くの遺物が出土した。検出した竪穴住居址は松本平で最初に調査された弥生時代の竪穴住居址である。出土土器群は弥生時代中期末の良好な組成がみられ中南信地方の当該期の標式土器として「百瀬式土器」が設定された。

2次調査 平成4年実施。正念寺の南側に位置する。土地区画整理事業に伴う緊急調査。調査面積1211㎡。縄紋時代、弥生時代、古墳時代、平安時代、中世の遺構と遺物を検出した。弥生時代中期末の集落の南限、西限を確認したこと、縄紋時代早～晩期の土器、後期の土坑、古墳時代後期の竪穴住居址、中世の竪穴状遺構などの弥生時代以外の遺構と遺物を確認したこと、同時に実施した地質調査では牛伏川氾濫の痕跡を確認したことなどが特記事項である。平成4年度報告書刊行。

3次調査 平成9年実施。共同住宅建設に伴う緊急調査。調査面積730㎡。弥生、平安、中世の遺構と遺物を検出した。弥生時代中期末～後期の竪穴住居址14軒や松本市内では初となる弥生時代後期の環濠を検出したこと、平安期の集落を確認したこと（竪穴住居址19軒）などが特記事項である。未報告。

5次調査 平成11年実施。共同住宅建設に伴う緊急調査。3次調査地点の東側に隣接する。調査面積333㎡。攪乱を受けて残存状況が良くなかったが弥生時代中期末、奈良時代末～平安時代前期の竪穴住居址などの遺構や遺物を確認した。弥生期と平安期の集落の東側へ広がりを確認できたことが特記事項である。未報告。

藤澤宗平 1951「長野県東筑摩郡寿村百瀬弥生式遺跡調査概報」『信濃』3—8

松本市教育委員会 1993『松本市文化財調査報告No137 松本市百瀬遺跡II』

2 周辺遺跡（第2図 ※松本市内のみ）

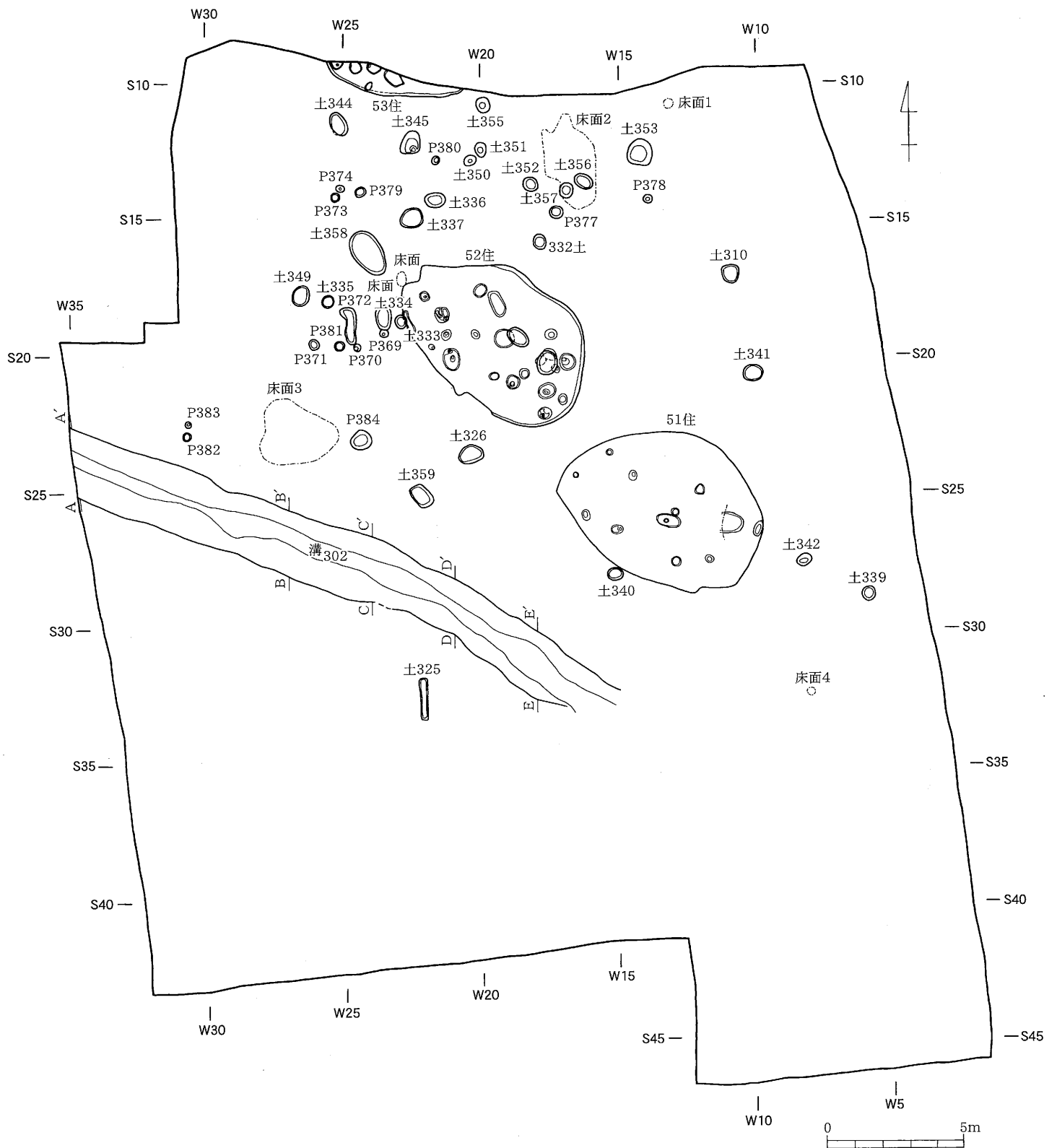
縄紋時代 2次調査で後期の土坑と早期～晩期の土器を検出しているものの遺跡分布ははっきりしていない。4次調査でも中期の土器が検出されている。

弥生時代 中期の集落に百瀬遺跡（1～5次：中期末～後期）、出川西遺跡（中期末）、平畑遺跡（中期末）、後期の集落に竹淵遺跡（後期初頭～前半）、出川南遺跡（後期初頭～前半）、竹淵南原遺跡（後期末～古墳前期）がある。竹淵遺跡では竪穴住居址の他に多くの建物址が検出されている。

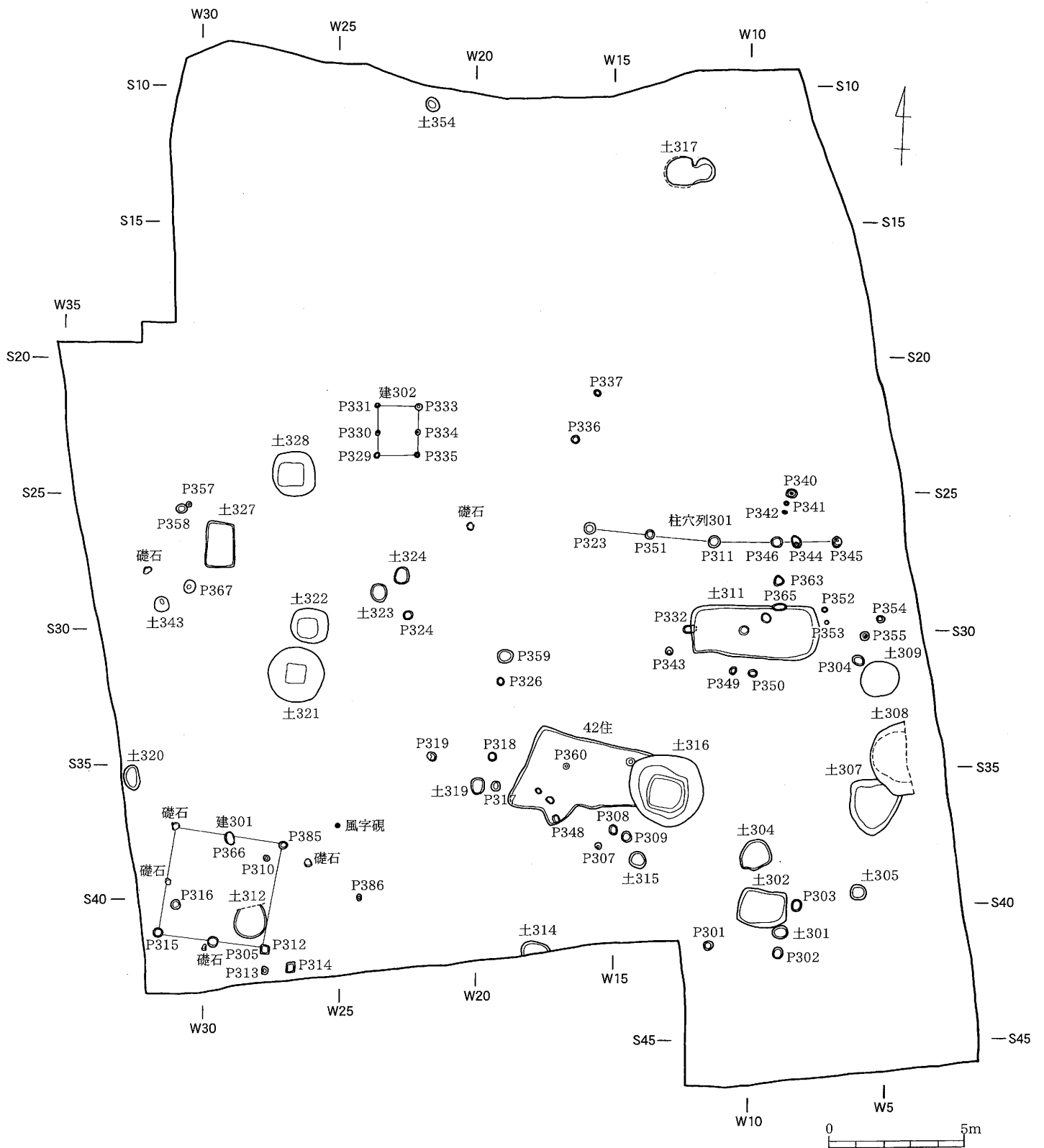
古墳時代 前期の集落に出川南遺跡、出川西遺跡、竹淵南原遺跡がある。向原遺跡の下層には前期の包含層がみられている。古墳には北東の丘陵上に東日本最古級の前方後方墳である弘法山古墳がある。中期の集落に高宮遺跡、平田北遺跡がある。高宮遺跡と出川西遺跡には中期の祭祀遺構、古墳には出川南遺跡に平田里1、2号墳がある。後期の集落に出川南遺跡、高畑遺跡、百瀬遺跡（2次）がある。出川南遺跡は松本市内最大の後期集落址である。古墳には東方の丘陵上に中山古墳群がある。

奈良・平安時代 出川南遺跡、平田北遺跡、平田本郷遺跡、高畑遺跡、小原遺跡、向原遺跡、百瀬遺跡（2～5次）などで集落が確認されている。田川右岸では近年、百瀬遺跡、向原遺跡など集落址の調査が増えている。向原遺跡で円面硯、鉈尾（帯飾り）、百瀬遺跡（4次）で風字硯が出土している。

中世 百瀬遺跡（13世紀）、竹淵遺跡（15～16世紀）、竹淵南原遺跡（13～15世紀）、小原遺跡（13世紀）などで集落が確認されている。竹淵遺跡では残存状態の良好な柱根がみられた他、内耳鍋片が多く出土している。竹淵南原遺跡では13～14世紀代の残存状態の良好な井戸址が検出されている。小原遺跡では14世紀前半代に属すると考えられる多量の埋納銭（2701枚）が出土している。



第4図 弥生時代・古墳時代遺構図



第5図 平安時代・中世遺構図

Ⅲ 調査の概要

1 調査の概要

今回の調査地点は松本市寿豊丘118-2-1他に所在する。百瀬遺跡ではこれまでに5次にわたる発掘調査が実施され、弥生時代から中世までの集落址が確認されている。今回の調査地点は遺跡の北端に位置する。発掘調査の結果、弥生時代中期末と中世に属する遺構とともに、当遺跡では初めて検出された古墳時代中期と平安時代後期の遺構がみられた。出土遺物には土器、陶磁器、石器、金属器、自然遺物などがみられる。特にS9W6地点で出土した弥生時代中期末の人面付土器やS36W24地点で出土した平安時代の風字硯、土328出土の中世の鉄鍋は類例の少ない遺物である。

調査にあたっては重機により遺構検出面までの表土除去を行った後、人力により検出・遺構掘り下げを行い、調査終了後重機による埋め戻しを行った。遺構などの測量記録は真北方向に沿って任意の3m方眼を設定して行った。遺構以外の遺物出土については「検出面」または遺物の出土した3m方眼の北東隅に当たる座標を出土地点名として用いた。遺物一覧表において出土地点に座標名が付いている遺物は、出土遺構の種類がグリッド扱いとなっているものである。

調査期間 平成11年5月13日～同年7月10日（延べ40日間）

調査面積 973m²

検出遺構 弥生中期末 竪穴住居址3、土坑26、ピット14

古墳中期 溝址1

弥生～古墳 土坑1

平安末期 竪穴住居址1、土坑3

中世 建物址2、柱穴列1、竪穴状遺構3、井戸址7、土坑1、ピット37

平安～中世 土坑9、ピット17

出土遺物 縄紋～中世 土器・陶磁器（弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、青磁、陶器）

平安～中世 金属器（鍋、刀子、釘、鎌、銭貨）、鉄滓

縄紋～中世 石器・石製品（鎌、磨製鎌、打製斧、磨製斧、磨製包丁、錐、砥石、原石、石核、礫石器、白玉）

弥生～中世 自然遺物（木片、炭化材、炭化物、ベンガラ状遺物）

2 調査地の土層

百瀬遺跡は牛伏川扇状地の末端が田川に浸食されて形成された右岸段丘上の標高615～622m付近に位置する。調査地点は塩尻市方面から松本市方面へ北に延びる段丘が消滅する付近に位置する。当地域の地質的環境は牛伏川の影響が強い。文献では中世末から近世にかけて数度の氾濫のあったことが記されており2次調査における地質調査では氾濫の痕跡が観察されている。

調査地の3箇所ですら土層を観察した。なお、紙面の都合により土層概略図は1頁（I 調査に至る経緯）に掲載した。A地点はS30W06付近（中央部東側）、B地点は建301付近（南西隅）、C地点はS09W27（北西隅）付近に位置する。基本的な層序は表土、暗褐色土～褐色土、黄褐色土、暗褐色土～褐色土、黒褐色土、黒褐色礫質土、黄褐色礫質土である。黄褐色土～黒褐色土までに弥生～中世の遺物がみられた。基盤土は黒褐色礫質土と黄褐色礫質土である。

A地点ではA-3～4層、B地点ではB-3～8層、C地点ではC-5～9層が遺物包含層である。B地点ではこれらの土層中に弥生～中世までの遺物が混在してみられ、A地点とC地点では黒褐色土層中に弥生時代の遺物が多くみられた。調査では平安～中世の遺構検出面をA地点ではA-5層上面、B地点ではB-6層中、C地点ではC-9層上面に設定した。遺構の覆土には黄褐色土と灰褐色土、暗褐色土がみられ井戸址は黄褐色礫質土中（B-10）まで掘削が及んでいた。弥生～古墳期の検出面は平安～中世の検出面と同じ高さでは捉えられず、各3m方眼を人力で掘り下げ遺構検出を行った。遺構は黒褐色礫質土（A-6、B-9）の上面で終わるか、もしくはこの土層を切り込んでいた。特に弥生期の遺構は遺構底面が黒褐色礫質土上面である場合が多く、平面形の確認が困難だった。遺構の覆土には黒褐色土が多くみられ溝302には茶褐色土がみられた。

IV 遺構

今回の調査では弥生時代中期末、古墳時代中期、平安時代後期、中世（13世紀代）に属すると考えられる遺構を検出した。遺構分布は調査地中央に古墳時代中期の溝（溝302）、北側に弥生時代中期末の竪穴住居址や土坑、南側に平安時代末期の竪穴住居址と中世の竪穴状遺構や井戸址、建物址などがある。

1 弥生時代の遺構

竪穴住居址、土坑、ピットがある。

51住（第6図、第1表） 調査地中ほどに位置する。黒褐色礫質土に掘り込まれておらず平面形の確定が困難だった。床面と炉址、ピットの存在から竪穴住居址とし、平面形はピットの配置と遺物の分布から推定した。覆土の厚さは約40～50cm、黒褐色土の単層で土器、焼土、炭化物がみられる。床面は地山直床で硬く、炉址の周辺8.3㎡が非常に硬い。炉址はほぼ中央に位置し、埋甕炉（甕：第11図24）である。正位に設置されている。床面でピットを11基確認した。支柱穴はP3、P5、P7、P8などであろう。床面上には炭化木材（放射性炭素年代測定結果及び問題は遺物の章を参照）があり樹種はコナラである。出土遺物群は弥生時代中期末の様相である。

52住（第7図、第1表） 調査地中ほどに位置する。黒褐色礫質土上面から掘り込まれている。楕円形を呈する。北壁中央付近から東壁、南壁中央付近まで壁がみられ、それ以外の部分は堅い面の広がりやピットの配置から平面形を推定した。西側に隣接する2つの硬い床面もおそらく52住に属するだろう。覆土の厚さは約50～60cm、黒褐色土の単層で土器、焼土、炭化物がみられる。地山直床で硬く、非常に硬い面も一部にみられる。炉址はほぼ中央に位置し、西側と北側に礫の設置された石囲炉である。床面でピットを20基確認した。P3、P5、P15、P17、P18、などが支柱穴であろう。出土遺物群は弥生時代中期末の様相である。

53住（第6図、第1表） 調査地北側、北壁際に位置する。遺構の北側は大半が調査地外にかかり、全容は窺えない。黒褐色礫質土上面から切り込まれている。覆土の厚さは約50cm、黒褐色土の単層で土器がみられる。床面は地山直床で硬い。床面でピットを4基確認した。出土遺物群は弥生時代中期末の様相である。

竪穴住居址以外の状況 竪穴住居址以外の場所からも多くの遺物が出土している。S09W12(床面1)、S12W15～S15W15(床面2)、S21W24～S21W27(床面3)、S30W06(床面4)の4箇所には51住や52住の床面でみられるような、他より非常に硬化した底面があり、上部の覆土からは多くの遺物が出土した。これらの場所は何らかの遺構であった可能性がある。特にS12W15～S15W15の一带は周囲に土坑、ピットがあることから竪穴住居址であった可能性がある。

S12W15～S15W15および周辺(床面2) 約4.6㎡の硬い面があり、硬化面上で計13基の土坑、ピットを確認した（土345・350～353・355・356、P374・377～380）。位置と覆土の状況から土356は炉址、それ以外は柱穴の可能性があり。覆土の厚さは約50cm、黒褐色土の単層で遺物を多く含む。

2 古墳時代の遺構

古墳時代に属すると考えられる遺構は溝302のみである。

溝302（第8図） 調査地のほぼ中央に位置する。東西方向に延びており、断面形状はV字形を呈する。覆土はⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの5層に区分できる。出土遺物は大半がⅡ層より上位にあり古墳時代中期（5世紀代）の様相である。土316以東は不明瞭になり、西側は西壁に達し調査地外になる。

3 平安時代の遺構

土坑、ピット、竪穴住居址がある。土304、土317、土324、42住などの遺構がみられる。

42住（第9図、第1表） 調査地南東に位置する。土316に切られている。竪穴住居址としたが、カマドの痕跡がなく平面形は不整形を呈し性格不明である。床面上で5基のピットを確認した。覆土は黄褐色土の単層で炭化物粒を多く含んでいる。北壁中央付近から内側にかけての床面上には炭化材がみられ、樹種はスギが大半を占める。西壁際には平安時代後期（14期）の土師器杯A、椀、灰釉陶器広口瓶、鉄滓などがみられる。

4 中世の遺構

建物址、竪穴状遺構、井戸址、土坑、ピットがある。検出遺構は主軸方向がほぼ同じであること、遺構間の切り合いが少ないこと、出土遺物の時期幅などから同時期もしくは近い時期に存在していたと考えられる。時期は13世紀代に属するとおもわれる。

建物址（第9図、第2表）

計3軒検出した。これ以外にも捉え切れなかったが土302周辺、土317周辺にも建物址があるとおもわれる。建物址には柱穴等からの遺物出土がないものの周囲の井戸址や堅穴状遺構などと同じ13世紀代に属するだろう。

建301 調査地南西に位置する。4基のピット、礎石を持つ5基のピット、4個の礎石で構成される礎石建物址である。西側区域外に延びる可能性がある。土312は覆土の状況から建301には伴わないと判断した。主軸方向はN-9° -Eを向く。

建302 調査地中ほどに位置する。6基のピットで構成される南北2間、東西1間の掘立柱建物址である。小規模で主軸方向はN-0° を向く。

柱穴列301（第5図、第2表） 調査地中ほどに位置する。調査段階では捉え切れなかった遺構である。6基のピットで構成される。主軸方向はN-4° -Eを向く。南側の土311や周囲にあるピットと同一の遺構を形成していた可能性がある。

堅穴状遺構（第9図、第3表）

計3基を検出した。調査時には土坑として把握したが、規模等から堅穴状遺構として扱う。

土302 調査地南東に位置する。長方形を呈する。礫が多数投棄されており東海系捏鉢、釘が出土している。隣接する土301内に礎石がみられることから建物址内の堅穴状遺構であるかもしれない。

土311 調査地中央やや東よりに位置する。長方形を呈する。覆土は礫をほとんど含まない黄褐色土の単層。床面は検出面から40cmの深さで平坦。床面上でピット2基を確認した。床面積7.1m²。覆土中より青磁碗（第22図12）、山茶碗碗（同図11）が出土し13世紀半ばの様相である。周辺に20基のピット（柱穴列301）がみられることからこれらと同一の遺構を形成していた可能性がある。

土327 調査地中ほどやや西よりに位置する。長方形を呈する。覆土中に炭化物みられる。金属器が2点（第23図16・17）出土している。

井戸址（第10図、第3表）

土316、土321、土322、土328などがある。土307、土308、土309は未完掘だが同じく井戸址の可能性もある。完掘した井戸址ではいずれも覆土中に礫を多く含み、遺物も比較的多く出土した。土316、土321、土322、土328は黄褐色礫質土中まで掘り込まれ調査時にも湧水がみられた。

土316 調査地南東に位置する。平面形は円形を呈し検出面下90cmで方形を呈する。覆土は4層に分かれ掘方と井側の区別ができる。覆土中に多数の礫が投棄されていた。覆土中や底面には木片（スギ材、スギ樹皮）がみられる。土器・陶磁器類は中世の遺構では最も多く23点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器6点出土。

土321 調査地の中ほど西よりに位置する。平面形は円形を呈し底面では方形を呈する。覆土は3層に分かれ掘方と井側の区別ができる。覆土中には多数の礫が投棄されていた。木片（スギ樹皮）がみられる。土器・陶磁器類は10点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器5点出土。

土322 調査地の中ほど西よりに位置する。土321に隣接する。平面形は隅丸方形を呈する。覆土は3層に分かれる。覆土中に多数の礫が投棄されている。土321に比べて底面までが浅く木片などもみられない。土器・陶磁器類は6点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器5点出土。

土328 調査地の中ほど西よりに位置する。覆土中に多数の礫が投棄されていた。平面形は隅丸長方形を呈する。覆土は2層に分かれるが掘方と井側の区別はできない。覆土中には多数の礫が投棄されていた。また木片（スギ樹皮）がみられる。土器・陶磁器類は9点出土しており13世紀半ばから後半の様相である。金属器は13点出土し鉄鍋口辺部（第23図28）がみられる。

中世遺構に関する若干の考察（井戸址について）

中世遺構のうち、井戸址は未完掘分を含めて7基検出されている。同様に、平成11年度に実施した竹淵南原遺跡（松本市寿）では13～14世紀代に属する井戸址が検出されたが、井側木枠が良好に残存しており木組方形井戸（木組方形縦板組隅柱横棧型井戸）であることがわかった。本調査で完掘した井戸址に木枠はみられなかったものの底面形がほぼ方形を呈することから、おそらく素掘りではなく竹淵南原遺跡と同じ木組方形井戸であっただろうと思われる。覆土中から出土したスギ木片は木枠の一部だった可能性がある。これらは土307と土308を除いて切り合い関係がみられず出土陶磁器の年代もほとんど変わらないことから、同時期もしくは近接した時期に存在していた可能性がある。扇状地の末端にある集落の特徴であろうか。これらの井戸の覆土には遺物と礫が多くみられ、埋め戻し時に投棄したものと推定される。今回出土した中世遺物の大半を井戸址からのものが占めている。ただし、竹などを埋設する抜き穴の痕跡はみとめられなかった。

第1表 住居址一覧表

No.	図No.	平面形	規模(cm)	床面積(m ²)	主軸方向	炉種類	炉位置	時期	備考
42	9	不整長方形	384×338×20	10.2	N-12°-E	なし	なし	平安末(14期)	土316に切られる。竪穴住居址?
51	6	不整楕円形	752×560×24	31.9	N-29°-E	埋甕炉	中央	弥生中期末	
52	7	不整楕円形	732×464×36	27.3	N-37°-E	石囲炉	中央	弥生中期末	
53	6	不明	504×104×24	2.8	不明	不明	不明	弥生中期末	

第2表 建物址一覧表

No.	図No.	平面図	規模(cm)	柱配り	桁行(cm)	梁間(cm)	床面積(m ²)	主軸方向	柱穴規模(cm)	時期	備考
建301	9	長方形	400×388(2×1間)	側柱式?	200~224	338	15.9	N-9°-E	径24~44・深さ0~24	中世	礎石建物址
建302	9	長方形	184×152(2×1間)	側柱式	80~100	148	2.7	N-0°	径16~24・深さ6~16	中世	掘立柱建物址
柱穴列301	—	—	916(5間)	—	—	—	—	N-4°-E	径30~44・深さ5~29	中世	

第3表 土坑一覧表 ※欠番・未掘は非掲載。備考欄遺物名の()内数字は各種遺物観察表内のNo.または遺物No.に対応。

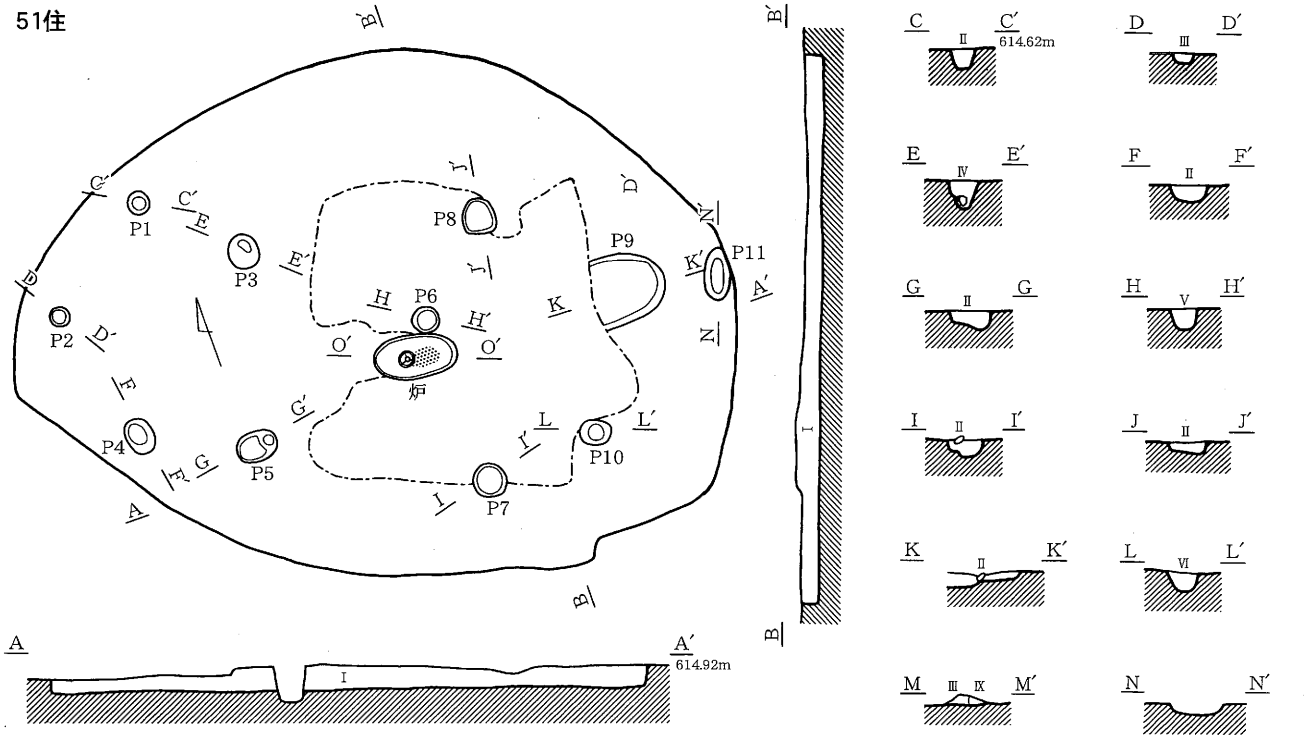
土坑No.	図No.	平面図	規模(cm)	時期	備考						
土301	10	楕円形	54×44×14	中世	礎石						
土302	9	隅丸長方形	180×132×28	中世	竪穴状遺構、東海系埋鉢(22)						
土304	9	不整円形	116×108×24	平安	黒色土器A杯(22)						
土305	10	円形	56×52×28	平安・中世							
土307	10	三角形	204×184×136	中世	土308に切られる。木片(スギ)、東海系埋鉢(23~25)、金属器3点(2)						
土308	10	不明	272×128×88	中世	井戸址か?、土307を切り一部区域外、未完掘、鉄滓2点						
土309	—	円形	—	中世	井戸址か?、未完掘、東海系埋鉢(26~28)、常滑系壺(29・30)、金属器1点(3)、鉄滓1点						
土310	7	円形	64×60×8	弥生							
土311	9	隅丸長方形	472×200×28	中世	竪穴状遺構、床面積7.1m ² 、主軸方向N-4-E、P332を切る、P2基、青磁碗(31・33)、山茶碗碗(32)						
土312	10	楕円形	136×116×12	平安・中世	トレンチに切られる。						
土314	10	不明	104×46×52	平安・中世	一部区域外、鉄鏃(4)						
土315	10	円形	60×56×14	平安・中世	炭化材(スギ)						
土316	10	円形	272×262×184	中世	井戸址、42住を切る、木片(スギ樹皮)、陶磁器30点(34~55)、金属器5点(5~7)、鉄滓1点						
土317	9	瓢箪形	176×104×52	平安	一部P着、須恵器杯(23~25)、灰釉碗、刀子(8)						
土319	10	楕円形	60×48×10	平安・中世							
土320	10	楕円形	88×56×14	平安・中世							
土321	10	円形	202×202×188	中世	井戸址、木片(スギ樹皮)、陶磁器13点(56~64)、金属器5点(9~11)						
土322	10	隅丸方形	138×128×118	中世	井戸址か?、陶磁器7点(65~70)、金属器5点(12~15)						
土323	10	楕円形	64×58×8	平安・中世	溝302を切る						
土324	9	円形	54×52×6	平安	土師器杯AⅡ(26)						
土325	7	隅丸長方形	156×28×8	弥生・古墳							
土326	7	楕円形	88×64×14	弥生	平安・中世の検出面						
土327	9	長方形	168×106×12	中世	溝302を切る、金属器2点、炭化物(スギ)						
土328	10	隅丸長方形	160×148×146	中世	井戸址、木片(スギ樹皮)、陶磁器10点(71~79)、金属器11点(18~28)、鉄滓2点						
土坑No.	図No.	平面図	規模(cm)	時期	備考	土坑No.	図No.	平面図	規模(cm)	時期	備考
土330	7	楕円形	90×72×16	弥生	52住覆土?	土344	8	楕円形	88×56×40	弥生	
土331	7	楕円形	84×54×6	弥生	52住覆土?	土345	8	隅丸方形	84×68×24	弥生	
土332	7	楕円形	56×44×12	弥生	平安中世の検出面	土349	8	楕円形	72×60×8	弥生	
土333	7	楕円形	52×40×16	弥生	52住覆土?	土350	8	楕円形	52×36×28	弥生	焼土
土334	7	楕円形	92×56×12	弥生	平安中世の検出面	土351	8	楕円形	52×44×30	弥生	焼土
土335	7	円形	42×42×6	弥生	平安中世の検出面、焼土	土352	8	円形	52×48×24	弥生	床面2
土336	7	楕円形	72×56×20	弥生	平安中世の検出面	土353	8	楕円形	94×84×18	弥生	床面2
土337	7	隅丸方形	80×72×16	弥生	平安中世の検出面	土354	10	楕円形	52×44×16	平安・中世	
土339	7	円形	48×46×28	弥生	平安中世の検出面	土355	8	隅丸方形	56×48×12	弥生	
土340	8	楕円形	58×46×6	弥生	平安中世の検出面	土356	8	楕円形	68×50×22	弥生	炉址? 床面2
土341	8	楕円形	72×60×15	弥生		土357	8	隅丸長方形	52×46×24	弥生	床面2
土342	8	楕円形	56×42×12	弥生		土358	8	楕円形	176×104×8	弥生	
土343	10	円形	54×52×55	平安・中世	土327周辺	土359	8	隅丸方形	88×60×4	弥生	

第4表 ピット一覧表 ※欠番・未掘は非掲載。備考欄遺物名の()内数字は各種遺物観察表内のNo.または遺物No.に対応。

No.	平面形	時期	備考	No.	平面形	時期	備考	No.	平面形	時期	備考
301	円形	平安・中世	土302周辺	329	円形	中世	建302	357	円形	平安・中世	土327周辺
302	円形	平安・中世		330	円形	中世	建302	358	円形	平安・中世	土327周辺
303	円形	平安・中世	土302周辺	331	円形	中世	建302	359	円形	平安・中世	
304	円形	中世	土311周辺	332	円形	中世	土311周辺	363	円形	中世	土311周辺
305	円形	中世	建301。礎石	333	円形	中世	建302	365	円形	中世	土311周辺
307	円形	平安・中世		334	円形	中世	建302	366	円形	中世	建301。礎石
308	円形	中世	常滑系壺甕類(1)	335	円形	中世	建302	367	円形	平安・中世	土327周辺。甕混入
309	円形	平安・中世		336	円形	平安・中世		369	円形	弥生	
310	円形	中世	建301	337	円形	平安・中世		370	円形	弥生	
311	円形	中世	土311周辺、柱穴列301	338	—	弥生	旧47住焼土範囲	371	円形	弥生	
312	方形	中世	建301。礎石	340	円形	中世	土311周辺	372	不定形	弥生	
313	方形	中世	建301	341	円形	中世	土311周辺	373	円形	弥生	
314	方形	中世	建301	342	円形	中世	土311周辺	374	円形	弥生	
315	円形	中世	建301。礎石	343	円形	中世	土311周辺	377	円形	弥生	床面2
316	円形	中世	建301	344	円形	中世	土311周辺、柱穴列301	378	円形	弥生	床面2
317	円形	平安・中世		345	円形	中世	土311周辺、柱穴列301	379	円形	弥生	
318	円形	平安・中世		346	円形	中世	土311周辺、柱穴列301	380	円形	弥生	
319	円形	平安・中世		347	—	弥生	旧47住焼土範囲	381	円形	弥生	
320	—	弥生	旧47住焼土範囲	349	円形	中世	土311周辺	382	円形	弥生	
321	—	弥生	旧47住焼土範囲	350	円形	中世	土311周辺	383	円形	弥生	
323	円形	中世	土311周辺、柱穴列301	351	円形	中世	土311周辺、柱穴列301	384	円形	弥生	床面3
324	円形	平安・中世		352	円形	中世	土311周辺	385	円形	中世	建301。礎石
325	円形	平安・中世		353	円形	中世	土311周辺	386	円形	中世	建301
326	円形	平安・中世		354	円形	中世	土311周辺				
327	—	弥生	旧47住焼土範囲	355	円形	中世	土311周辺				

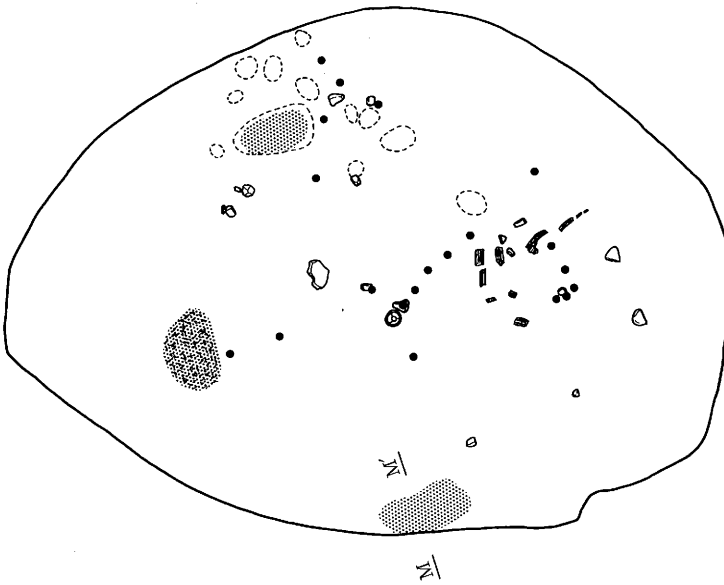
弥生時代の遺構

51住



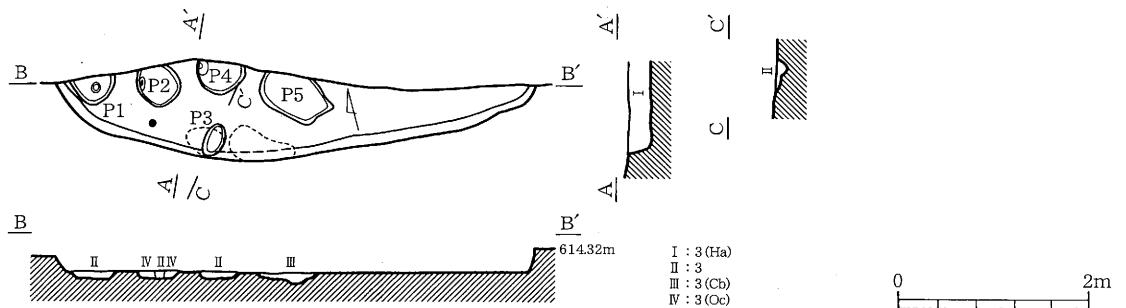
- I : 3 (Dc)
- II : 3 (Ha)
- III : 3
- IV : 3 (Ha,Db)
- V : 3 (Ca)
- VI : 3 (Aa,Ha)
- VII : 3 (Aa,Cb,Ha)
- VIII : 3 (Cc)
- IX : 20

51住 遺物出土状況図



記号	土色	記号	混入物	記号	混入物の量	記号	特徴
2	暗褐色土	A	小礫	a	微量	d	砂質
3	黒褐色土	B	礫	b	少量	e	粘質
6	黄褐色土	C	焼土粒	c	多量		
7	茶褐色土	D	焼土塊				
8	灰褐色土	E	炭化物粒				
11	暗灰色土	F	炭化物塊				
17	暗黄褐色土	H	黄色土粒				
20	焼土	I	黄色土塊				
		L	黄色土塊				
		O	茶褐色土塊				

53住

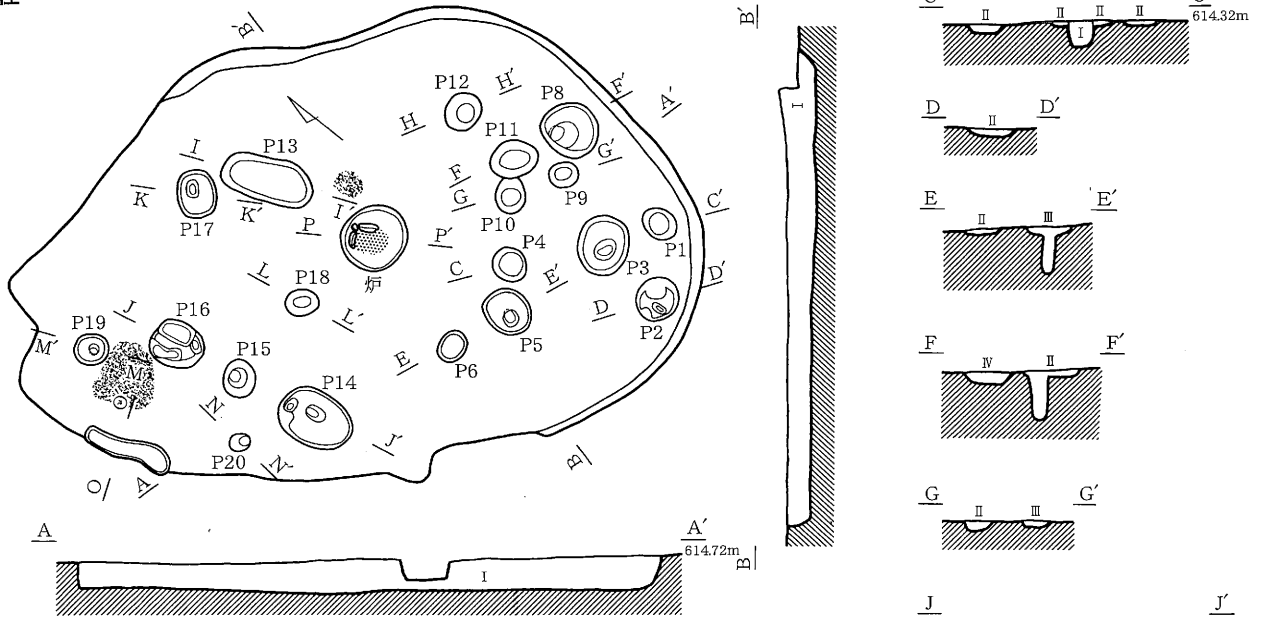


- I : 3 (Ha)
- II : 3
- III : 3 (Cb)
- IV : 3 (Oc)

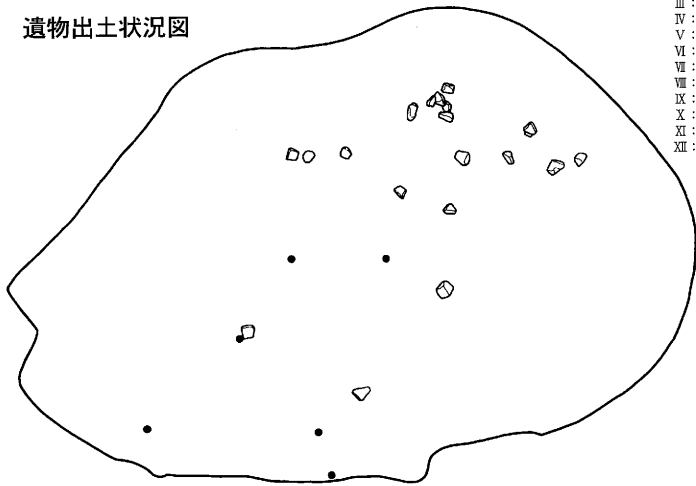
第6図 遺構 (1)

弥生時代の遺構

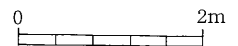
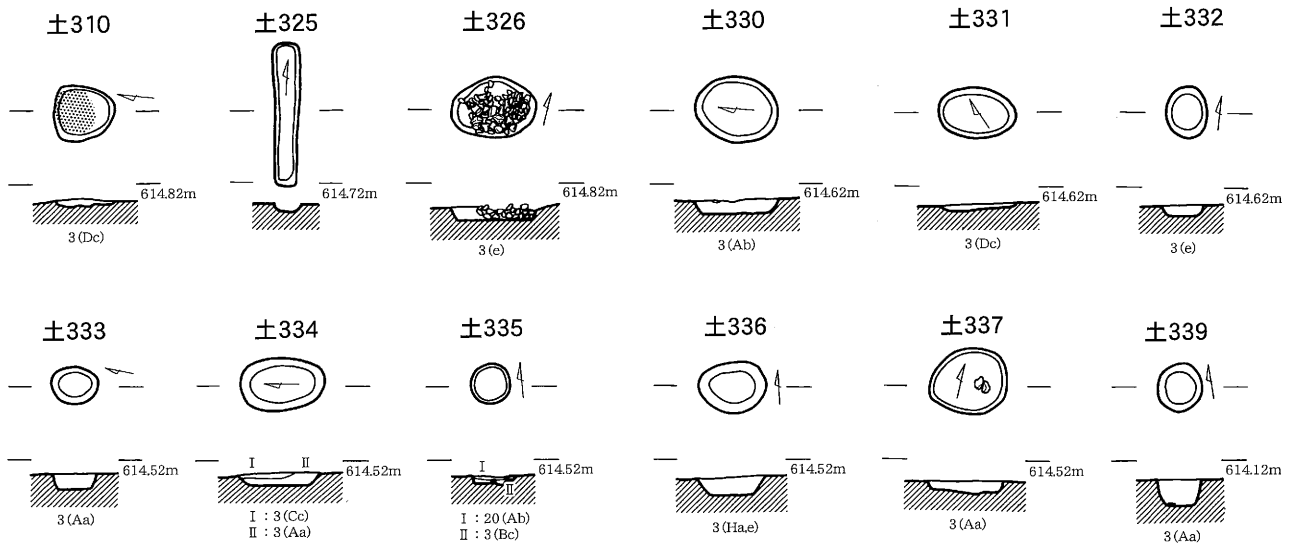
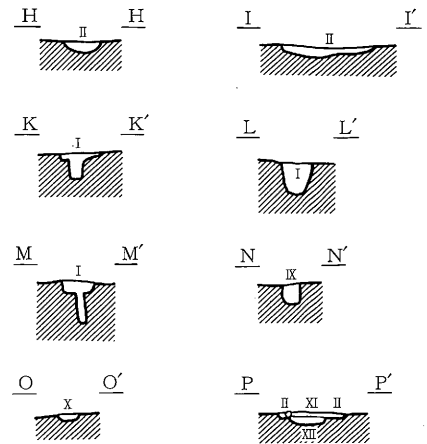
52住



52住 遺物出土状況図

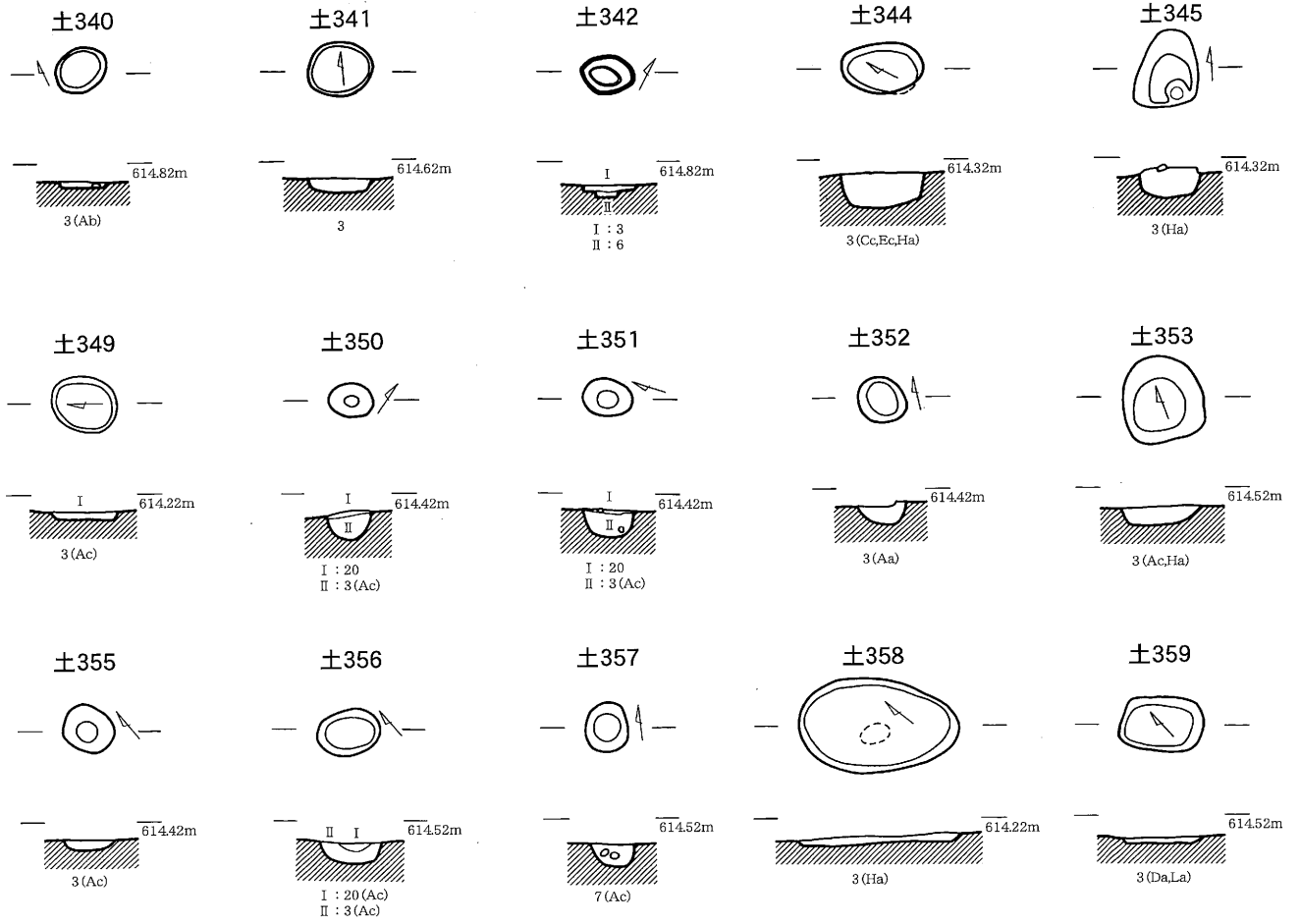


- I : 3 (Ha)
- II : 3
- III : 3 (Ca)
- IV : 3 (Ac, Hc)
- V : 3 (Hc)
- VI : 3 (Ba)
- VII : 3 (Aa)
- VIII : 6
- IX : 3 (La)
- X : 3 (Hb)
- XI : 3 (Dc)
- XII : 20

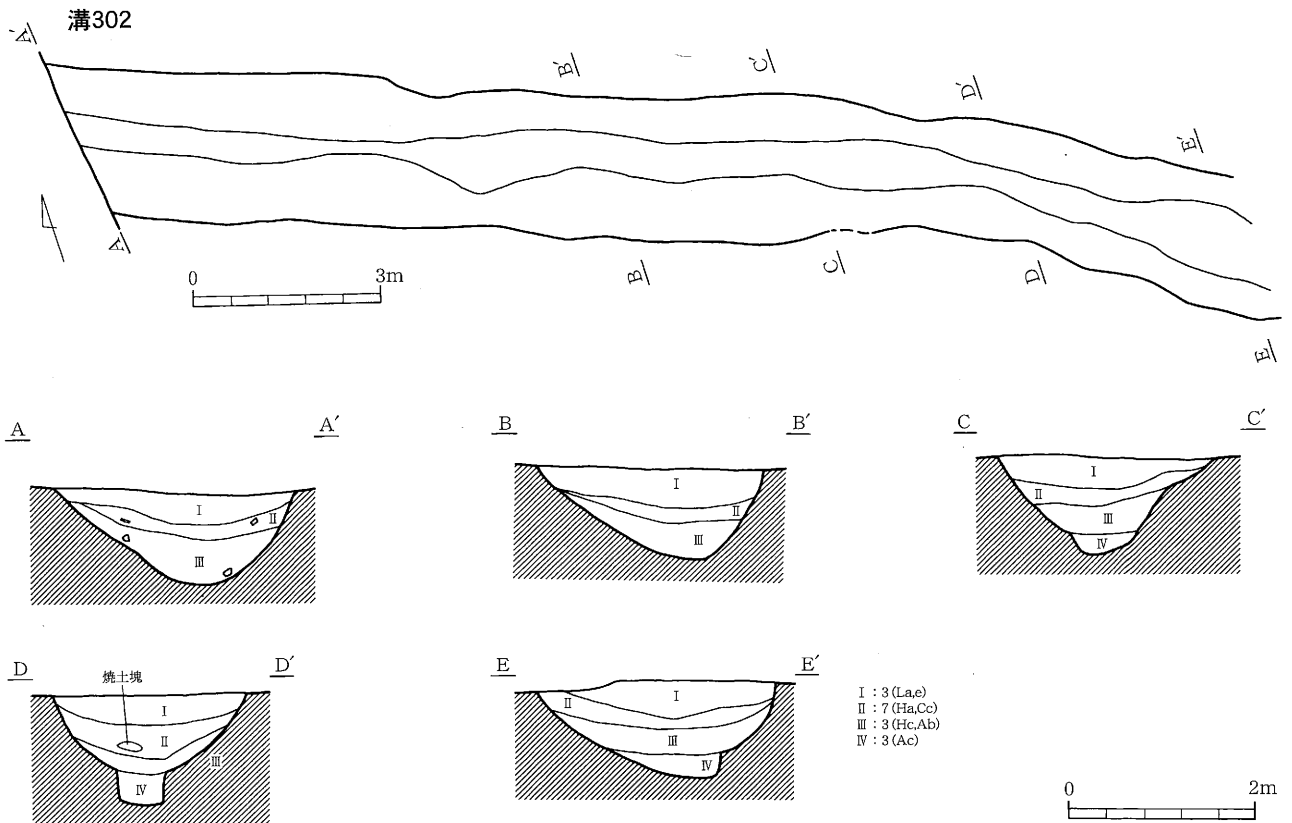


第7図 遺構 (2)

弥生時代の遺構

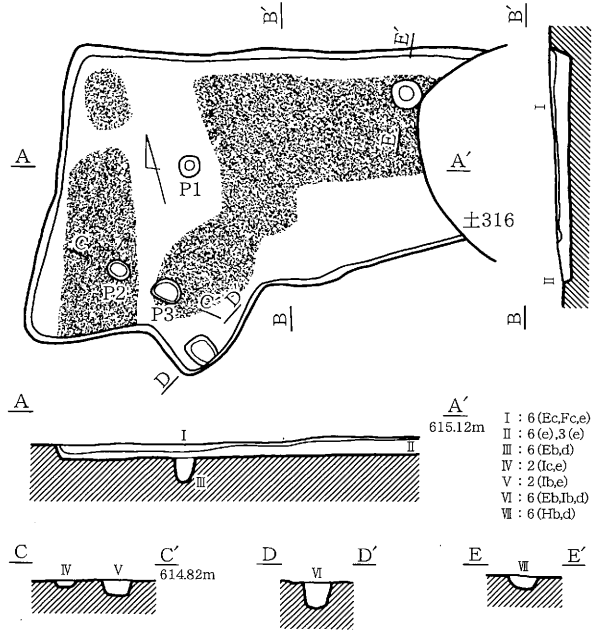


古墳時代の遺構



第8図 遺構 (3)

42住

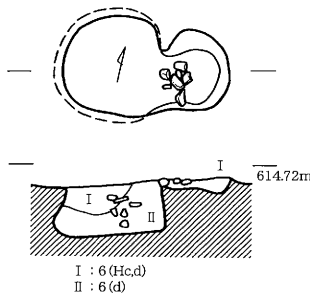


- I : 6 (E_c, F_c, e)
- II : 6 (e), 3 (e)
- III : 6 (E_b, d)
- IV : 2 (I_c, e)
- V : 2 (I_b, e)
- VI : 6 (E_b, I_b, d)
- VII : 6 (H_b, d)

42住 遺物出土状況図

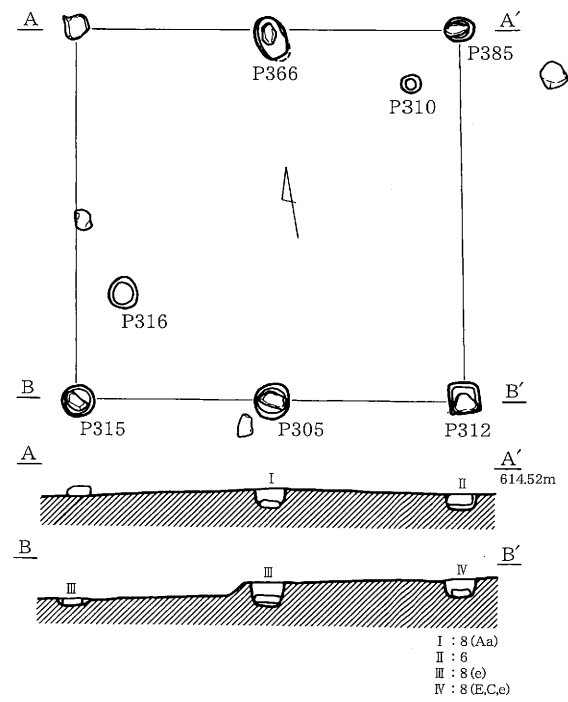


±317



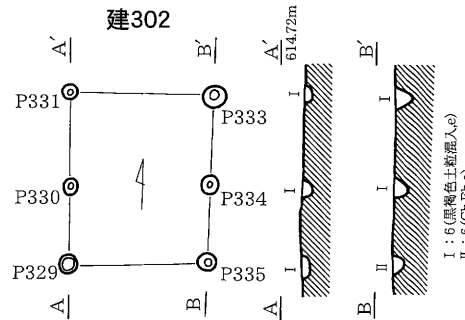
- I : 6 (H_c, d)
- II : 6 (d)

建301



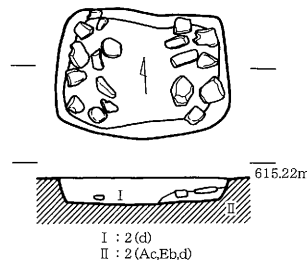
- I : 8 (A_a)
- II : 6
- III : 8 (e)
- IV : 8 (E, C, e)

建302



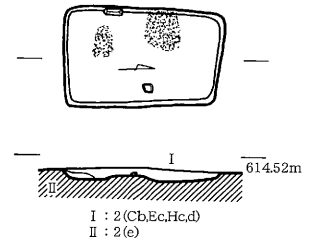
- I : 6 (黒褐色土新流入)
- II : 6 (C_b, B_b, e)

±302



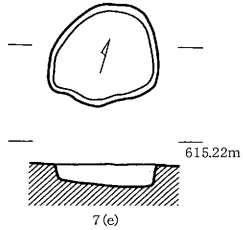
- I : 2 (d)
- II : 2 (A_c, E_b, d)

±327



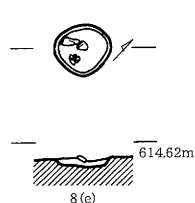
- I : 2 (C_b, E_c, H_c, d)
- II : 2 (e)

±304



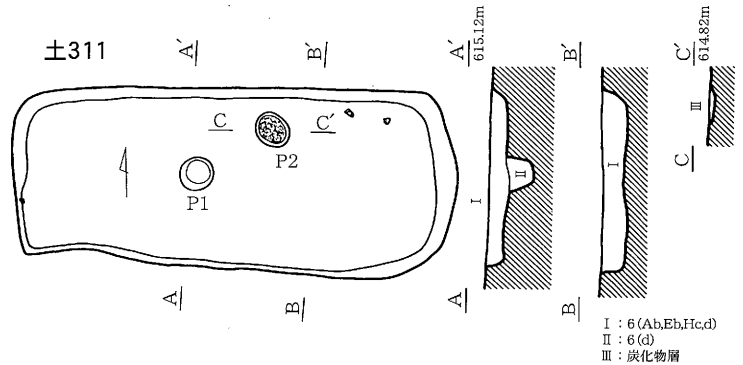
7 (e)

±324

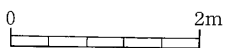


8 (e)

±311

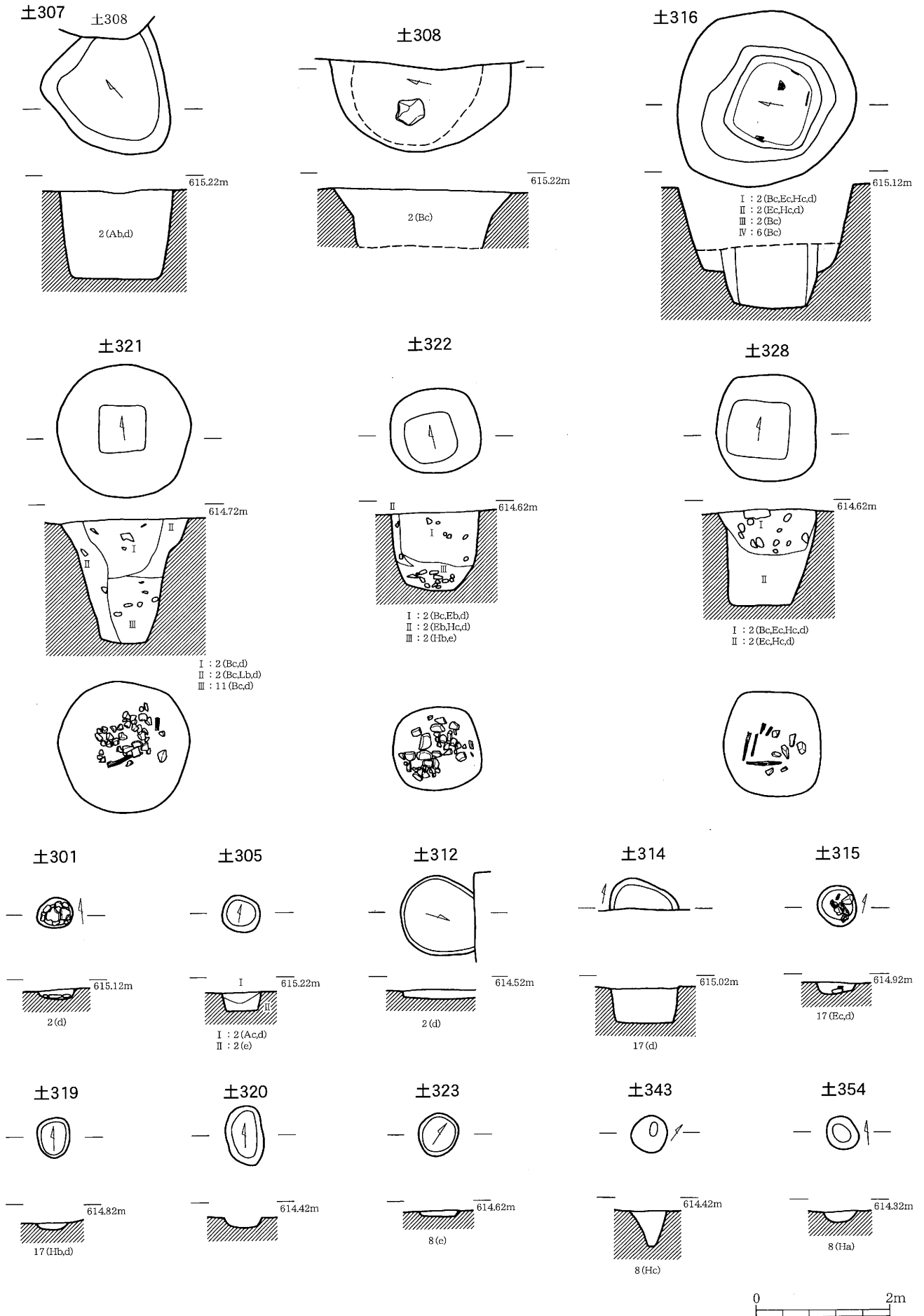


- I : 6 (A_b, E_b, H_c, d)
- II : 6 (d)
- III : 炭化物層



第9図 遺構 (4)

中世の遺構



第10図 遺構 (5)

V 遺物

1 土器・陶磁器

(1) 縄紋時代の土器（第20図559～565、第5表）

遺構の発見はなかったが、少量が弥生時代の遺構や包含層から他の時代の遺物に混じって出土している。いずれも破片で、7点を拓影で示した。559は中期初頭、562～564は中期中葉、561・565は中期後葉の深鉢胴部である。560は晩期の無文土器の口縁部と考えられる。当遺跡は過去の調査で縄紋期の遺構や遺物が少数ではあるが検出されており、本調査地点の周辺にも縄紋中期や晩期の小規模な遺構が存在する可能性がある。

(2) 弥生時代の土器（第11～20図、第5表）

① 概要

竪穴住居址やその他の遺構、及びグリッドから多量に出土した。総量は整理用コンテナ約30箱に達する。そのうち167点を実測図で、388点を拓影で示した。時期は、弥生中期末に属するものがほとんどで、これに後続する後期初頭のものがわずかに伴う。

② 器種・器形と特徴

大別して壺形土器（以下、「〇〇形土器」は略す。）・甕・台付甕・高杯・鉢・甑の各器種がみられる。壺と甕の器形分類は基本的に文献1に従う。

壺は全形がわかるものは158の1点のみである。器形を把握できるものはすべて壺Aで、施紋上から壺A1（頸部以外にも主紋様をもつもの：34・107・114・156）と壺A2（頸部に主紋様が集中するもの：51・54・65・123・158）に分けられる。その他の特徴として、口縁部に有段・受け口・外反の3形態を認めることができ、第5表ではa・b・cで示した。無頸壺はわずかにみられる（141）。

甕は全形がわかるものは26・39・41・120などがある。最大径の位置（口縁部・胴部）と胴部の張り具合、口縁部の外反・受け口・有段の3形態などを指標にし、甕A1（18・22・41・104・129など）・甕A2（17・87・120など）・甕A3（26）・甕B1（39・106など）・甕B2（38）・甕C（86）の分類が認められる。また、容量は大形から小形のものまで各種があり、特に小形の底部周辺を欠くものは台付甕の可能性もあろう。

台付甕は全形を知り得るものが1点（42）ある。脚部を欠くものは紋様の種類から判別した。また、脚部のみ残存の個体は赤彩がないものや、わずかに残る胴部内面にミガキがないものを含めた。このため、甕や高杯との誤認もあろう。甕と同様、口縁部に有段・受け口・外反の3形態があり、胴部も丸いもの（42）と「く」の字形に張る（27・37）ものの2形態がみられる。

高杯は全形を知り得るものがない。杯部は鉢と見分けがつかないが、直線的か、ふくらみながら開き、口縁部は水平になるくらい強く屈曲外反する。脚部は付部に比して短い。杯部内外面と脚部外面にミガキと赤彩が施されるものが多い。杯部と脚部の接合部外面に凸帯を持ち（79）、その凸帯上に刻みが行われるもの（2・110・165・166）もある。台付甕の脚部と形態で分別できにくいものは、赤彩や前記の凸帯のあるもので区分した。

鉢は全形がわかるものは33の1点のみである。胴部はふくらみながら開き、口縁部はそのまま立ち上がって収まる形態のもの（33・61・62・78・93）と、高杯と同じに強く屈曲外反するもの（92）がある。前者には片口のつくものが混じる（115）。内外面にミガキと赤彩が施されるものが多く、口縁部に2個一組の小孔が穿たれるものがある（92・93）。また、外形は甕と同じだが紋様を持たず、全面に赤彩が施される甕形鉢もわずかにみられる（14）。

甑は全形がわかるものはない。逆台形の鉢形を呈すと考えられ、底面に1個所の円孔を有す（29・91）。

ミニチュア土器は壺形（155・160）、鉢形（50・121・122）、高杯形（10・75）がある。雑な成形だが、ミガキが行われるものも認められる。

③ 紋様の特徴（第5表中では紋の字を省略表記した場合がある。）

縄紋・篋描紋・櫛描紋・貼付紋（浮紋）が用いられている。また、赤彩も一種の紋様として扱うことができる。このうち縄紋は、甕の口縁部、壺の口唇・口縁（まれに口縁内側：476・477）・頸・胴の各部の地紋に使われるのが一般的で、紋様の主体となっているものは少ない（159）。貼付紋は甕や台付甕の円形浮紋、鉢の突起など一部の器種にみられる。

篋描紋は棒状または多截竹管凸面などの工具によって、刻み・刺突・沈線が施紋される。刻みは壺・甕の口唇部に限って行われ、刺突は壺の頸部・胴部紋様に副次的に伴う。篋描紋で最も多用されるのは沈線で、単純な横走沈線や

それを重ねた平行沈線、波状紋、山形紋、重山形紋、連弧紋、鋸齒紋、複合鋸齒紋、懸垂紋、懸垂横帯紋、コの字重ね紋など多様な紋様（紋様帯）が描かれる。ただし、器種によって出現頻度が偏向しており、壺ではほとんどの種類の匏描紋が使われるのに対し、甕では口縁部に山形紋や波状紋が少なめに認められるのみである。コの字重ね紋は台付甕に限られる。

櫛描紋は直径1mm前後の細い棒を数本、一列に並べ束ねたと推定される工具によって描かれる平行沈線で、横線紋、斜走紋、縦や横の斜走羽状紋（羽状条痕紋）、波状紋、簾状紋、横や斜の短線紋、円弧紋などがある。口唇部への刻みに使われることも稀にある。器種による出現頻度は匏描紋ほどの偏向はないが、甕に多く壺に少ない。甕の頸部・胴部紋様はほとんどすべてが櫛描紋である。

赤彩は高杯と鉢の全面に最も多用されるが、内面のみの場合もある（97・124・137）。次いで壺の口縁部内外面に行われる例が散見される（7・40・94）。まれに壺の胴部にも認められ（44・46・108）、108の壺は赤彩と貼付紋のみで施紋される珍しい例である。

④ 人面付土器（第15図167）

S9W6グリッドから出土した破片である。土器焼成前に貫通孔を穿ち、貼付をして人面を表したもので、両目、鼻、上唇の部分が残存している。目は周囲に沈線の縁取りを行い、鼻孔は1穴のみ穿たれている。両目の孔は外側からあけられている。内面調整のハケメを残す点から、壺の胴部か瓢箪形の壺上半部と推定される。

⑤ 出土土器群

弥生土器は調査地全体にわたって出土し、特に溝302以北で出土の密度が高かった。51～53住とそれに該当するグリッド、溝、及び一部の土坑・ピットからの出土品以外については、遺構確認が困難であったため何らかの遺構に帰属するものか否か判然としないものが多く、グリッドでの取り上げとなっている。したがって、以下では、遺構の項の記述に沿って、遺構及びそれ以外の出土地点毎に土器群に分けて述べる。

51住出土土器群（第11図1～32・第15～17図171～286）出土量は多く32点を実測図化、116点を拓影で示した。床面や覆土からかましまとまって出土したが、遺構掘り下げの当初は本址のプランを明確に捉えておらず、最終的に本址が属するグリッド出土品も加えたため、一括性はあまり高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2・3、甕B1・2、台付甕、高杯、鉢、甗がみられる。24の甕胴部下半は炉体として埋設されていたものである。出土土器は全般的に弥生中期末の様相を示すが、22の甕は胴部に櫛描短線紋が描かれており、弥生後期初頭に下る要素があると考えられる。

52住出土土器群（第12図33～50・第17～18図287～394）出土量は多く18点を実測図化、108点を拓影で示した。前記51住と同様の理由により、出土品の一括性は高くないと考える。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2・3、甕B1・2、台付甕、鉢、ミニチュア土器がある。出土土器は全般的に弥生中期末の様相を示すが、36の壺頸部紋様は匏描横線による区画がなく櫛描紋だけで施紋されており、別の時期または地域の要素を含んでいる可能性がある。

53住出土土器群（第12図51～54・第18図395・396）本址調査部分が少なかつたため量的には多くないが、まとまった資料といえる。4点を図化、2点を拓影で示した。器種・器形には壺A2、甕、台付甕がみられる。出土土器は全般的に弥生中期末の様相を示す。

S09W12(床面1) 出土土器群（第13図78～91・第19図452～475）14点を実測図化、24点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A2、甕B、甕C、台付甕、高杯、鉢、甗、ミニチュア土器がみられる。全形のわかる個体はないが、全般的に弥生中期末の様相を示す。ただし、87の甕と459の壺は弥生後期に下る可能性もある。

S12W15～S15W15(床面2) 出土土器群（第13～14図92～106・第19図476～492）16点を実測図化、17点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2、甕B1・2、台付甕、高杯、鉢がみられる。全形のわかる個体はないが、全般的に弥生中期末の様相を示す。

S21W24～27(床面3) 出土土器群（第14図107・108・第19図493～495）2点を実測図化、3点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A、甕Bがみられる。全形のわかる個体はないが、全般的に弥生中期末の様相を示す。

S30W06(床面4) 出土土器群（第14図109～120・第20図496～498）12点を実測図化、3点を拓影で示した。遺構の調査状況からみて一括性は高くない。器種・器形は壺A1・2、甕A1・2・3、甕B、高杯、鉢がみられる。全般的に弥生中期末の様相を示す。

その他の土器群 古墳時代の遺構と考えられている溝302の覆土中と上層のグリッドから多量の弥生土器が出土している（第13図61～77・第18～19図401～451）。いずれも溝の埋没時に入り込んだものであろう。壺A2、甕、高杯、鉢が出土している。67の甕は弥生後期に下る可能性がある。

S15W24～S18W27のグリッド一帯でも多数の出土があり、**旧43**住名で取り上げを行っている。最終的に床面状のものはなかったが、何らかの遺構に類する可能性があるため、他のグリッド出土品とは分け、まとめて提示した(第14～15図121～133・第20図499～527)。一括性は低いと考える。壺A1・2、甕A1・2、甕B2、台付甕、高杯、鉢、ミニチュア土器が出土している。

⑥ 弥生土器の時代的特徴

各土器群でも触れたとおり、全般的に見て弥生中期末の土器として捉えられ、器種・器形や紋様構成など、従来「百瀬式土器」として昭和26年に本遺跡から出土した土器を基に型式設定されていたものにはほぼ等しい。大局的には栗林式土器様式の範囲に含まれると考えられ、文献1では中期3期古段階に相当しよう。

ただし、次期の後期初頭に属すると考えられている紋様構成を持つものがわずかに混じっている。具体的には、壺では404のT字紋B、甕では66・85の頸部から口縁部へ屈曲が少なく伸びる形態や22・422・433・450の櫛描短線紋などが該当する。これらは弥生中期末の中での次期へ新しい要素と解釈するよりは、今回の調査状況における各土器群の一括性の低さに原因があり、調査で十分に把握できなかった後期初頭の小規模遺構の存在、あるいは包含層への混入として理解したい。

(3) 古墳時代の土器(第21図、第6表)

土師器・須恵器が出土している。遺構に伴う遺物は溝302出土遺物のみで、他は溝302以南の検出面上や中世の遺構に混入している。土師器には台付甕・高杯・杯・甕・小型丸底壺・埴・甑・ミニチュアがある。中期(5世紀代)に属するものが多いが、前期(4世紀代)の台付甕脚部もみられる。須恵器には杯蓋(第21図32)がある。壺甕類もあると思われるが小破片なので奈良・平安期の壺甕類と区別できない。杯蓋の窯式はMT15型式である。6世紀前葉に属すると思われる。

溝302出土土器群(第21図4～15) 土師器の高杯・杯・高杯または杯・甕・小形壺・ミニチュア土器などがみられる。溝302のⅡ層上部より出土したもので、5世紀代に属する。

(4) 奈良・平安時代の土器・陶器(第22図、第7表)

土師器・須恵器・黒色土器・灰釉陶器と土製品が出土している。9点を図化した。紙面の都合上、図および表には一部を掲載したのみである。遺構に伴う遺物は42住出土遺物などで、他は溝302以南の検出面上や中世の遺構に混入している。時期は大きく分けると奈良時代後期から平安時代前期(8世紀末～9世紀代)と平安時代後期(11世紀後半)に属する。特記事項は風字硯の出土が挙げられる。器種名称、時期区分などは文献2に従う。

土師器 杯A・盤A・椀・甕がある。杯Aには42住出土土器群などに杯AⅡと杯AⅢの2法量みられる。

須恵器 杯A・杯蓋・壺甕類・風字硯がある。杯A底部には回転糸切痕を持つものが大半を占める。奈良時代後期～平安時代前期に属するだろう。美濃須衛窯産の杯・蓋が出土している。壺甕類については全体の分かる資料はない。

風字硯(第22図8) S36W24から出土した。帰属時期は不明である。周囲から出土する須恵器杯Aの時期である奈良時代後期～平安時代前期、42住の時期の平安時代後期のいずれかに属すると考えられる。松本市内および周辺からは三の宮遺跡、県町遺跡、吉田川西遺跡(塩尻市)、上ノ山窯跡群(豊科町)で1点ずつ出土している。これらの出土例から前者に属する可能性が高い。全体の形状と周縁帯が手前以外を巡る点では通常の風字硯と同様であるが、中央部にV字状の突帯が設けられ穿孔された穴が一孔みられる点の特徴であり、松本市周辺の出土例にはみられない。中央突帯手前は墨を擦った痕跡があるため陸部と考えられる。突帯奥は陸部より低くされている点、突帯がV字状をしていて奥から陸部への水や墨汁の移動に適していることから海部とみられる。

黒色土器 内面のみを黒色処理しミガキを施した黒色土器Aがみられる。杯Aと椀がみられる。

灰釉陶器 椀・皿・広口瓶がある。広口瓶は42住で1点出土している(7)。

土製品 鞆羽口が2点出土している(10・11)。

42住出土土器群(第22図1～7) 土師器杯AⅡ・AⅢ・椀・灰釉陶器広口瓶が出土している。ロクロ成形の土師器杯AⅡの法量が口径平均9.55cm、器高平均2.0cmであり、体部の直線的な小形の土師器椀(5)があることから平安時代後期(14期:文献2)の様相である。須恵器蓋と杯など、他時期の混入もみられる。

(5) 中世の土器・陶磁器(第22図、第7表)

土師器・磁器・陶器が出土している。79点出土し10点図化した。

土師器: 皿が4点出土している。手捏ね成形である。在地産。小破片で全形のわかるものはなく、図化提示はできな

かった。

磁器 (第22図12) : 青磁が8点出土している。1点のみを図示できた。すべて龍泉窯産。幅の広い鎬蓮弁紋を持つものがみられる。これらは13世紀半ばに属するが、うち2点は13世紀後半～14世紀初頭に属する可能性がある。

陶器 (第22図10・11・13～19) : 東海系施釉陶器 (古瀬戸系陶器) ・東海系無釉陶器・須恵質陶器がある。

東海系施釉陶器 (古瀬戸系陶器) : 3点出土したが、いずれも破片で図化できたものはない。灰釉が施釉されている。四耳壺肩部、卸皿または洗、卸皿または折縁深皿の底部破片である。

東海系無釉陶器 : 壺甕類と捏鉢、山茶碗がみられる。

壺甕類 (第22図13) 口縁部と体部の破片がみられるが全形のわかるものはない。14点出土している。13は常滑系甕の口縁部。器面にナデ痕がみられる。13世紀半ばに属する。

捏鉢 (第22図10・14～17・19) 破片数としては最も多く41点出土している。胎土と口縁部断面形で分類できる。胎土には精胎のものと粗胎のものがみられる。なお精胎には内面に自然釉がみられ外面が褐色から赤褐色を呈するものと内外面灰白色を呈するもの (15) がある。器面にはロクロナデ痕、外面下半にはヘラケズリ痕などがみられる。口縁部断面形は肥厚させずに面取りするもの (16・17)、肥厚し口唇部に溝を持つもの (14・15)、口縁部下を押さえるものなどがみられ、前者が13世紀前半、後2者が13世紀後半に属する。10は口縁部断面形が口縁下を強く押さえた玉縁状になる。粗胎。東海系ではない可能性がある。

山茶碗碗 (第22図11) 土311から出土している。薄手で精胎であり高台底部には靱殻圧痕がみられる。東濃産。

須恵質陶器 (第22図18) : 在地産の須恵質播鉢。器面はナデ調整され口縁部には内面を一周するナデ痕がみられる。口唇部は面取りされている。珠洲産播鉢の模倣品。

中世の出土土器・陶磁器群 (第22図10～19) : 出土した土器・陶磁器はほぼ13世紀代に属する。遺構覆土中からの出土が多く、特に井戸址と考えられる遺構から比較的多く出土している (土311 : 3点、土316 : 23点、土321 : 10点、土322 : 6点、土328 : 9点)。これらはいずれも13世紀半ば～後半の様相である。ただし、土316に13世紀前半の捏鉢 (16・17)、土321・土322に13世紀末～14世紀初頭の可能性のある青磁碗などもみられ、若干時期幅があるかもしれない。器種別、用途別にみると土師器皿・青磁碗・山茶碗碗・古瀬戸系陶器などの食器、東海系捏鉢・須恵質播鉢などの調理具、常滑系壺甕類・古瀬戸系陶器などの貯蔵具があり、破片数では調理具の割合が多い。中世前期の基本的な組み合わせが出土土器・陶磁器群にみられる。

特記事項として須恵質播鉢が13世紀半ば～後半の出土土器・陶磁器群にみられること、土器・陶磁器類に煮炊具はみられないが土328では鉄鍋口辺部 (28) が1点出土しており当該期の煮炊具を考える上で貴重な資料といえることなどがあげられる。

2 金属器 (第23図、第8表)

総計56点出土し、30点を図化した。銅銭1点を除き全て鉄製である。器種は釘・刀子・鏃・鍋等が見られる。平安時代または中世に属する土坑から出土する場合が多く、中でも井戸址から出土の場合が多かった。遺構別に出土点数を見ると土328で13点と最も多く、次いで土316の6点、土321・322の5点となる。以下で器種別に詳述する。なお分類は文献4に従った。

釘 釘は19点出土し、うち15点を図化した (1・5・7・10・14・15・19～23・25～27・29)。土328から9点出土している。井戸址から出土する場合が多い。

刀子 土317から出土し図化した (8)。身部の背は直線で、刃は中央部が欠落しているが、切先から緩い曲線を描きつつ茎部へ至る。関がはっきりせず、身部から茎部への移行はなだらかなのが特徴である。

鉄鏃 土314から出土し図化した (4)。基部を中心に平たい部分が約90度折れ曲がった状態で出土した。

鉄鍋 土328から出土し図化した (28)。共伴遺物から13世紀半ば～後半に属するものと思われる。口径33cm。器形は松本市中山千石で出土したとされる内耳鉄鍋の口辺部によく似ており、口径の値は同じである (文献3 : 松本市立考古博物館所蔵)。口唇端部に面を持ち内側に稜を持つ。耳部はみられない。松本市千石例のように体部は口辺部にくらべて立ち上がる形態になるとと思われる。

銅銭 土321付近の検出面より出土し図化した (30)。「嘉祐通宝」(北宋銭。初鑄年1056)の銘がある。

不明品 19点出土し、そのうち11点を図化した (2・3・6・9・11～13・16～18・24)。形状から板状不明品、棒状不明品、塊状不明品に分けられる。このうち16・17が特徴的である。16は楕円の板状で一部に柄のような突出部がある。17は棒状不明品が枝分かれしたような形状である。2本の釘が錆によって癒着したものではないかと思われる。

鉄滓 17点出土した。総重量1349g。検出面、42住、土328で出土している。

3 出土木材および自然遺物

(1) 樹種・種別（第9表）

木片、炭化物、ベンガラが出土している。

木片および炭化物は検出面・堅穴住居址・井戸址・土坑・溝址などで合計37点出土している。樹種にはコナラ、スギがある。51住（弥生時代中期末）、42住（平安時代末期）、土316・321・328などの井戸址（13世紀代）で多く出土している。弥生期の遺構や遺物がみられる箇所（S30W06地点）にはコナラがみられ、平安期と中世にはスギがみられる特徴がある。当時の周辺環境を反映していた可能性がある。

S18W27地点でベンガラが2点出土している。分析した結果、酸に溶解後、チオシアン酸カリウム溶液で赤色を呈し、フェロシアン化カリウム溶液で青色を呈した。従って鉄の酸化物であることがわかる。問題は①ベンガラとして持ち込む、②ここで黄色の沈殿物を焼いてベンガラを作る（目的）③焼土ができるときに偶然鉄分の多い褐色沈殿物が焼けてベンガラ化したものという点だが、黄褐色部分もあるので②か③であり、焼土である関係上③かもしれない。

(2) 放射性炭素年代測定

51住出土の炭化材1点（調査取り上げ時は50住出土品として扱う）について、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託して放射性炭素年代測定を行った。以下にその報告の一部を抜粋し掲載する。ただし、6世紀代という測定結果は、長野県下における弥生中期末が畿内第4様式に併行するという従来の土器編年上の解釈と大幅にずれるものである。報文で指摘されているような可能性として解釈すれば、今回の出土土器の中に少数ではあるが6世紀代に位置付けられるものがあり、51住覆土中に検出できなかった小規模な同期遺構が存在したか、または一帯の包含層の形成にあたってその時期に炭化材が紛れ込むような何らかの変動があったと想定する。

百瀬遺跡の放射性炭素年代測定（抜粋）

パリノ・サーヴェイ株式会社

3 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。炭化材の測定年代値は約1400年前である。

表1 放射性炭素年代測定および樹種同定結果

遺構	樹種	年代測定BP	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$	Code No.
50住 No.11	コナラ属コナラ亜種コナラ節	1430±80	-30.2	Gak-20771

(2) 樹種同定

炭化材は、落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織とがある。

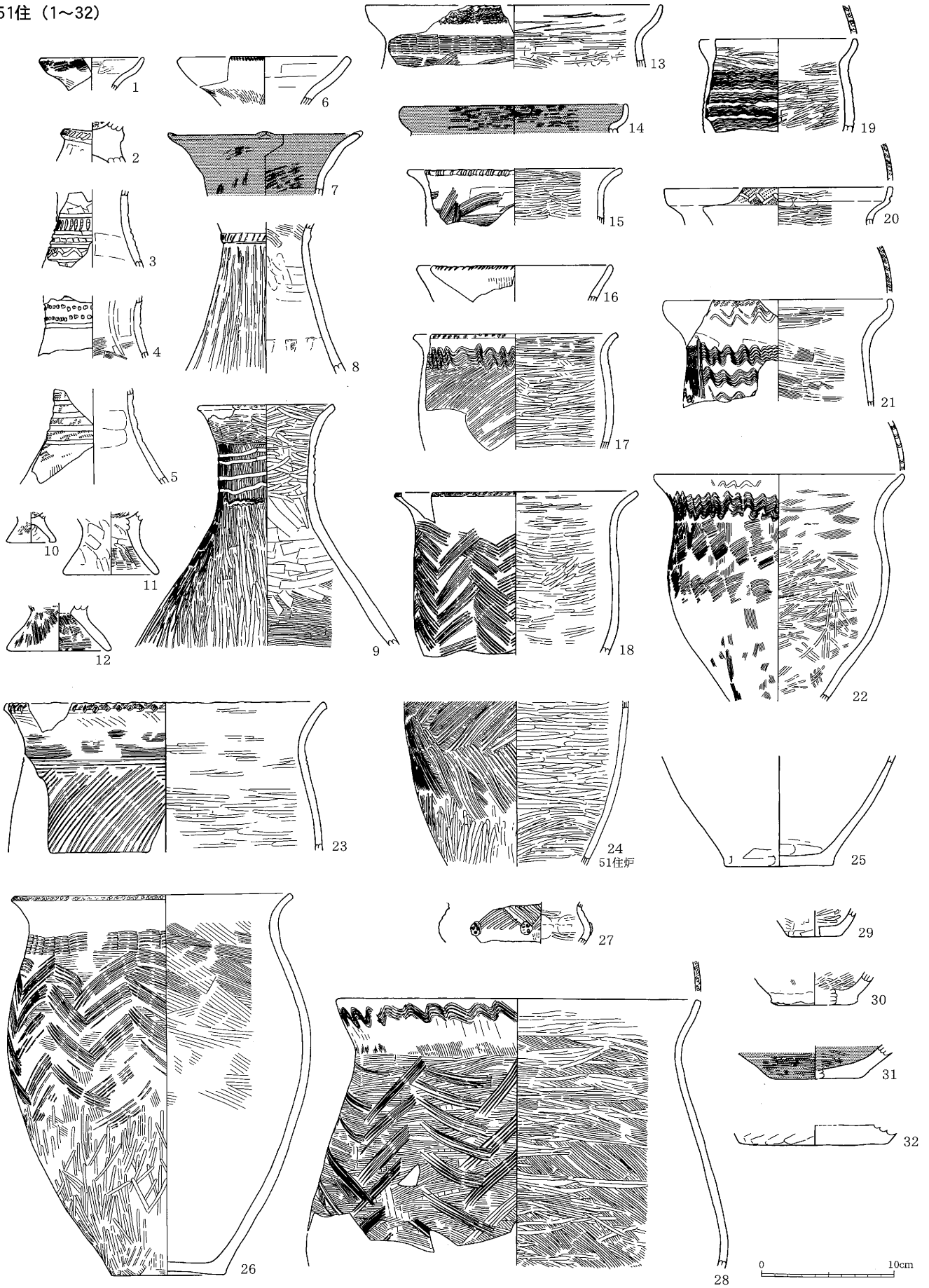
4 考察

炭化材の測定年代値は約1400年前であり、6世紀の古墳時代に相当する値である。出土土器の年代より、住居址は弥生時代中期末のものと考えられており、年代値はこれよりやや新しい。年代測定試料の炭化材が床上に多数まとまって出土していないことから、測定試料の遺構との関連性が低い可能性がある。また、本遺跡は弥生時代・古墳時代・平安時代・中世の複合遺跡であることから、時期の異なる遺物が混入する可能性もあると考えられる。よって、測定試料の炭化材は後代のものが混入した可能性がある。今後は、同一遺構から出土した複数試料の年代測定を実施することにより、遺構の詳細な年代を把握できると考えられる。

V章 1 参考文献

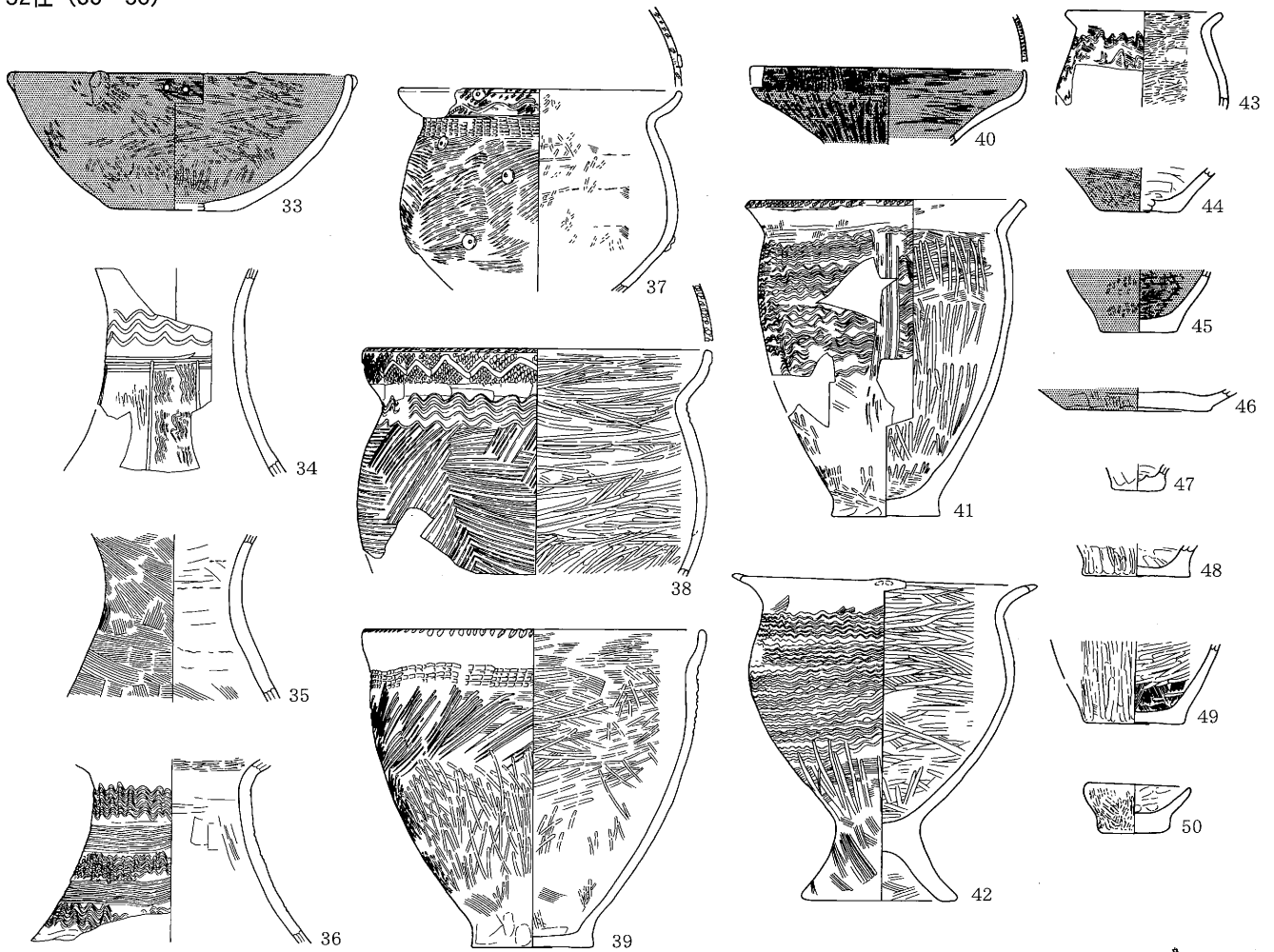
- 文献1 直井雅尚1999「松本盆地南部における弥生中期末後半~後期の土器編年」『99シンポジウム長野県の弥生土器編年発表要旨』長野県考古学会弥生部会
文献2 小平和夫1990「第5節 古代の土器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編』長野県教育委員会
文献3 野村一寿1990「第6節 中世土器・陶磁器」『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編』長野県教育委員会
文献4 (財)長野県埋蔵文化財センター1989「中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3-塩尻市内その2-吉田川西遺跡」

51住 (1~32)

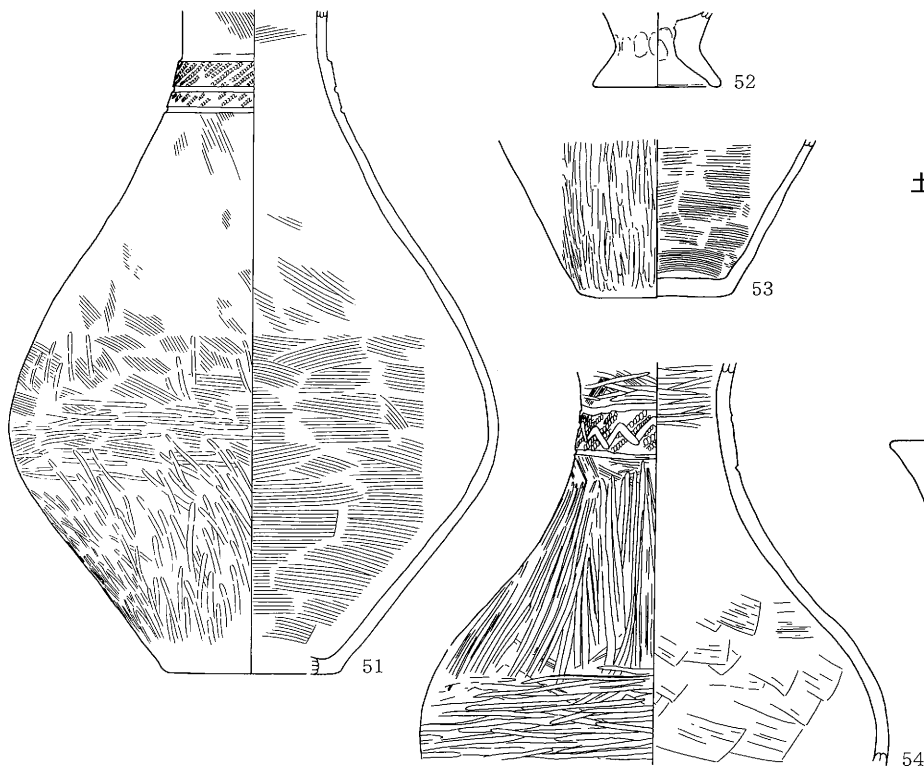


第11图 弥生土器 (1) 実測図

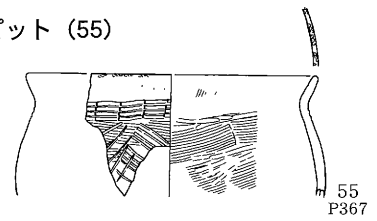
52住 (33~50)



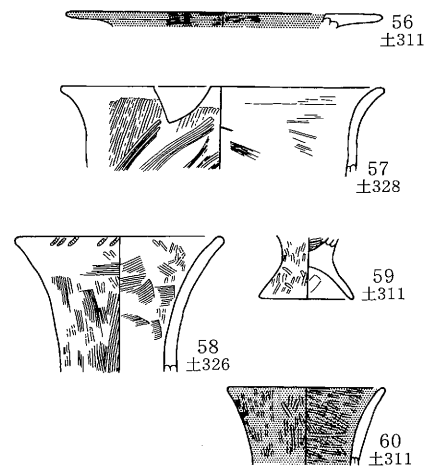
53住 (51~54)



ピット (55)

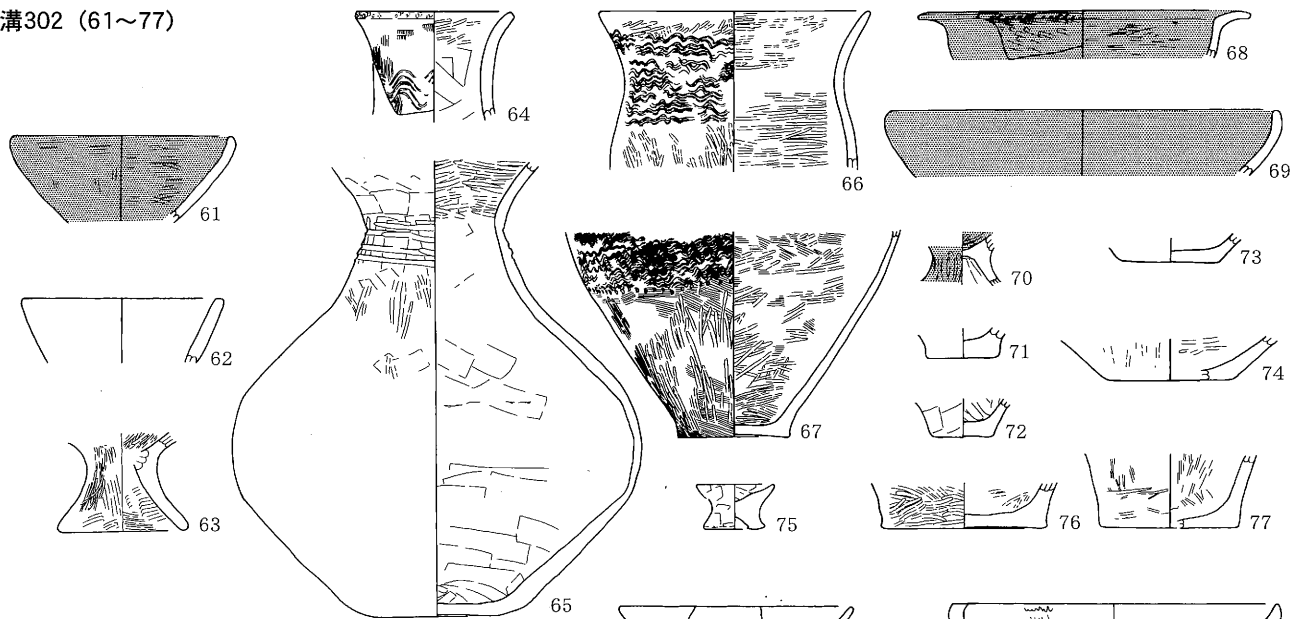


土坑 (56~60)

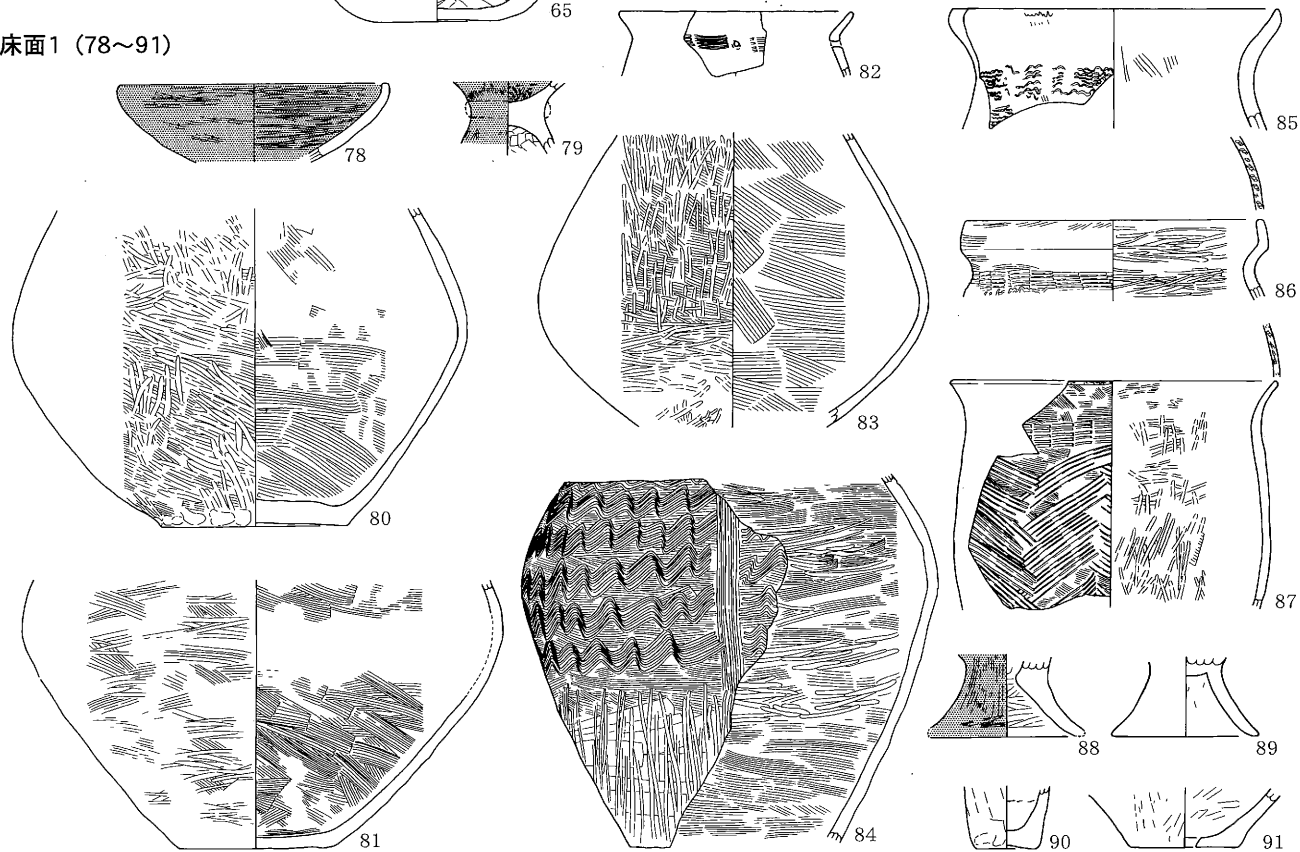


第12図 弥生土器 (2) 実測図

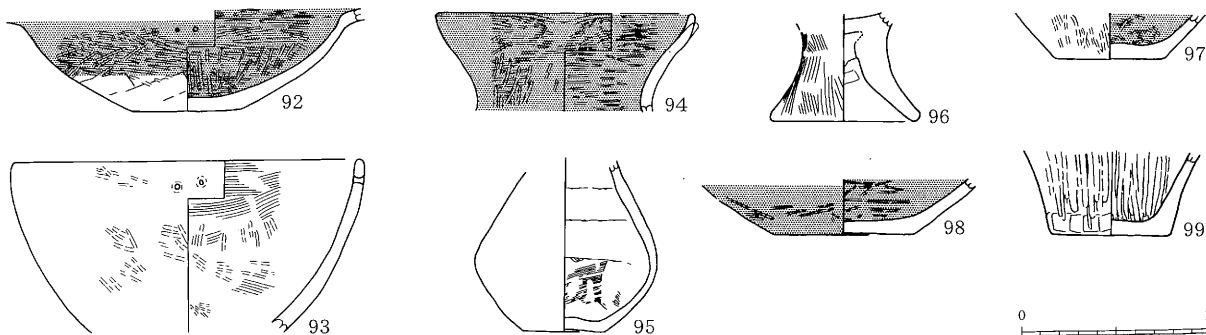
溝302 (61~77)



床面1 (78~91)

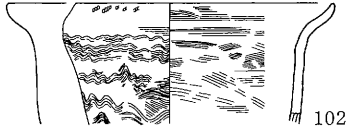
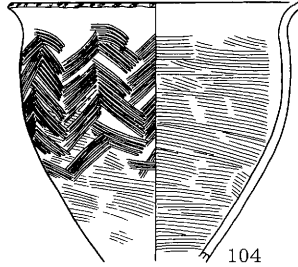
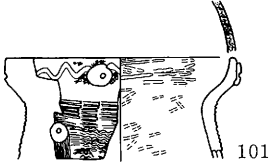
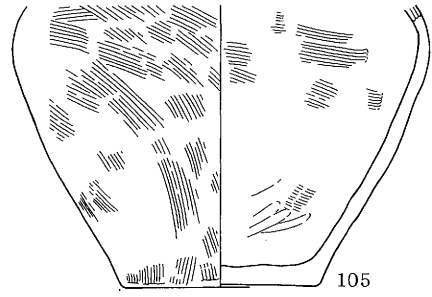
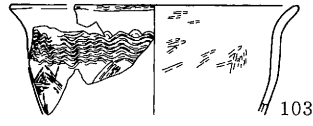
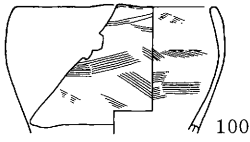


床面2 (92~106)

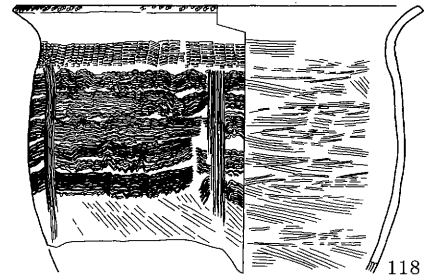
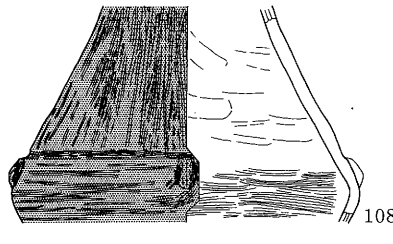
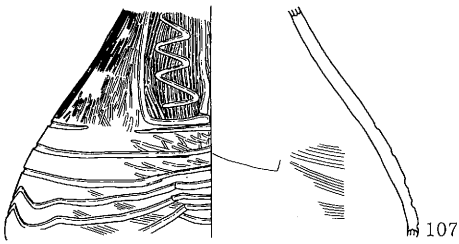


0 10cm

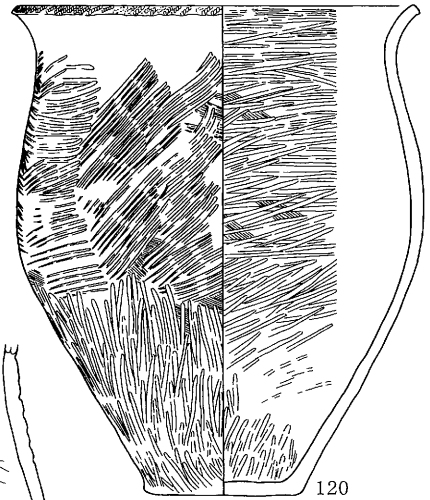
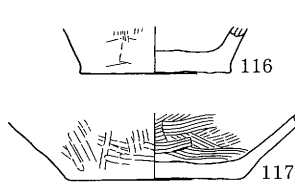
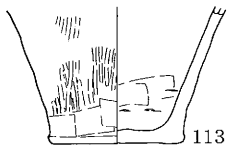
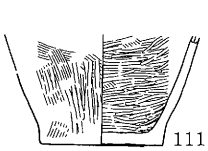
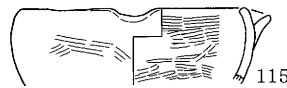
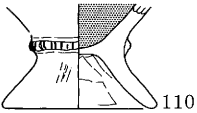
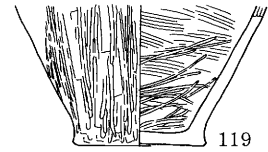
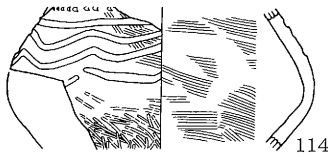
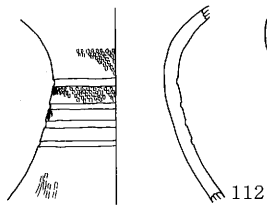
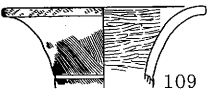
第13图 弥生土器 (3) 実測図



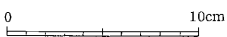
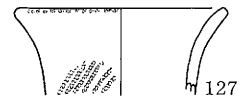
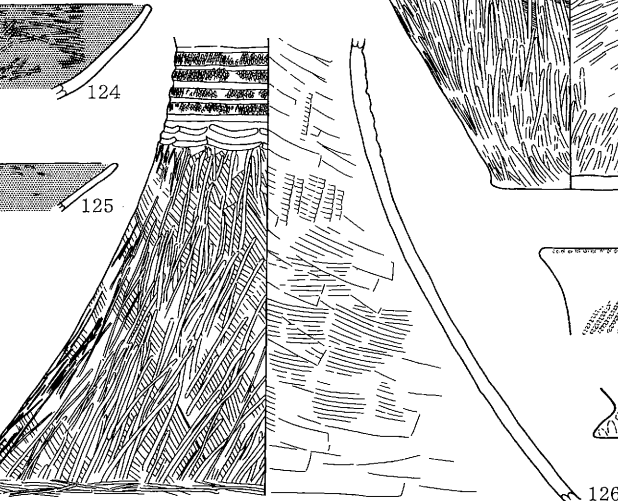
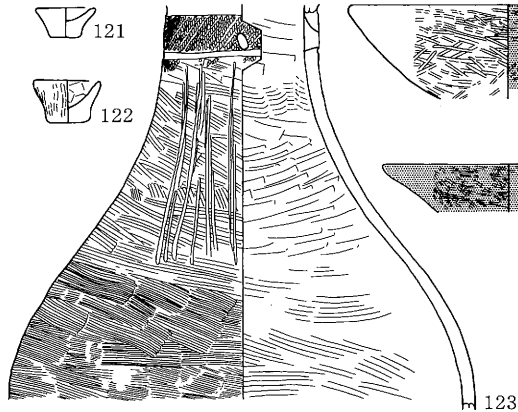
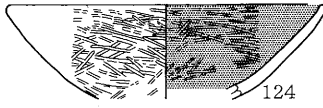
床面3 (107~108)



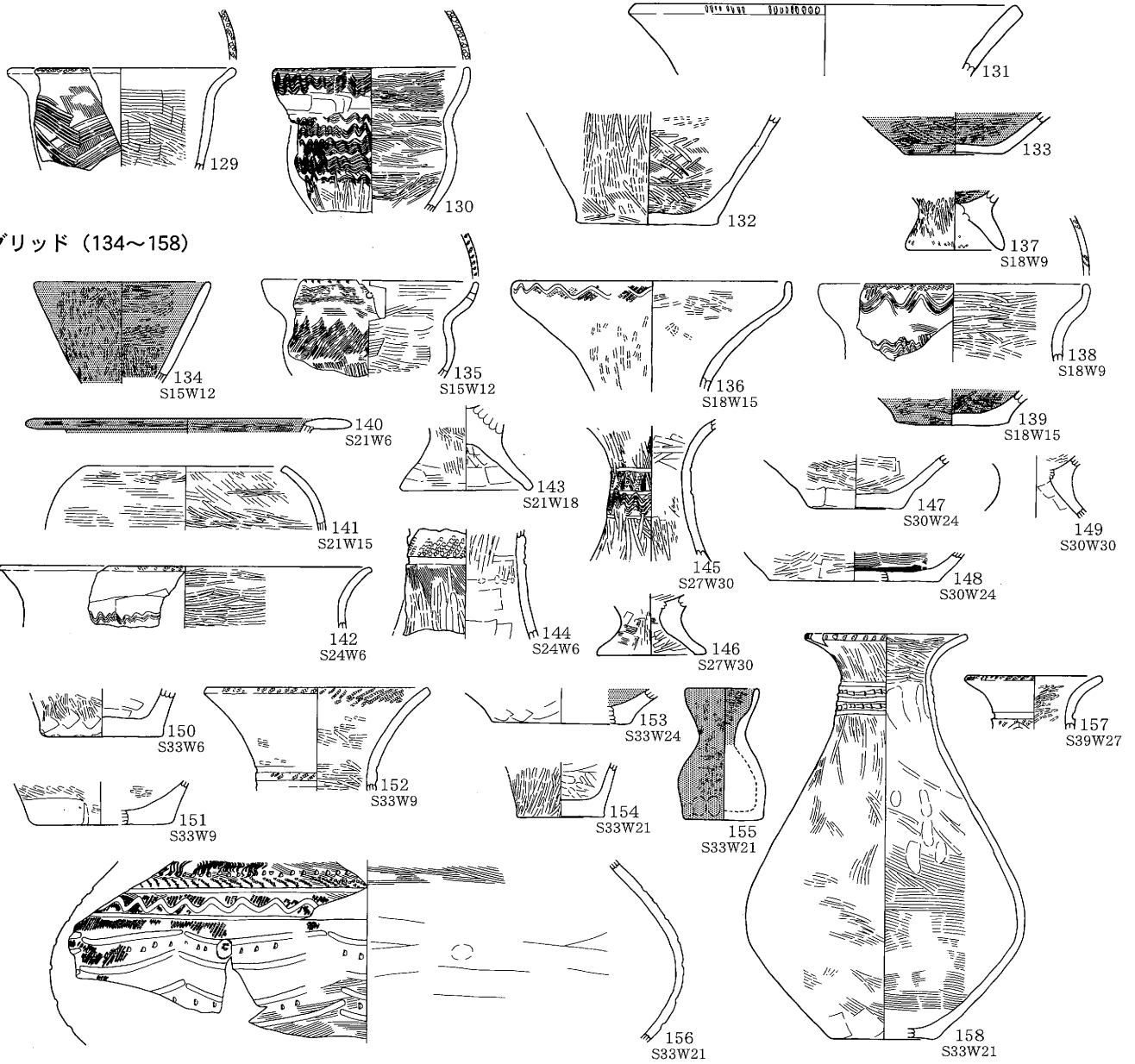
床面4 (109~120)



旧43住 S15W24~S18W27 (121~133)

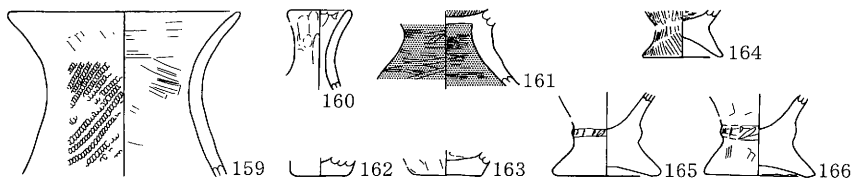


第14図 弥生土器(4) 実測図

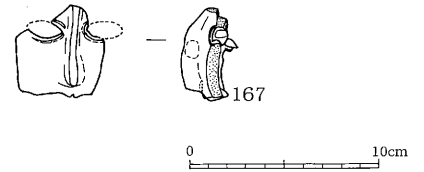


グリッド (134~158)

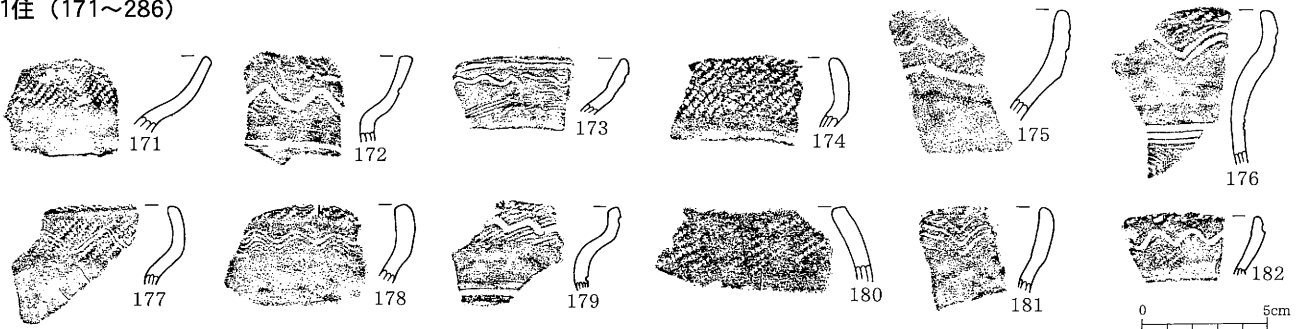
検出面 (159~166)



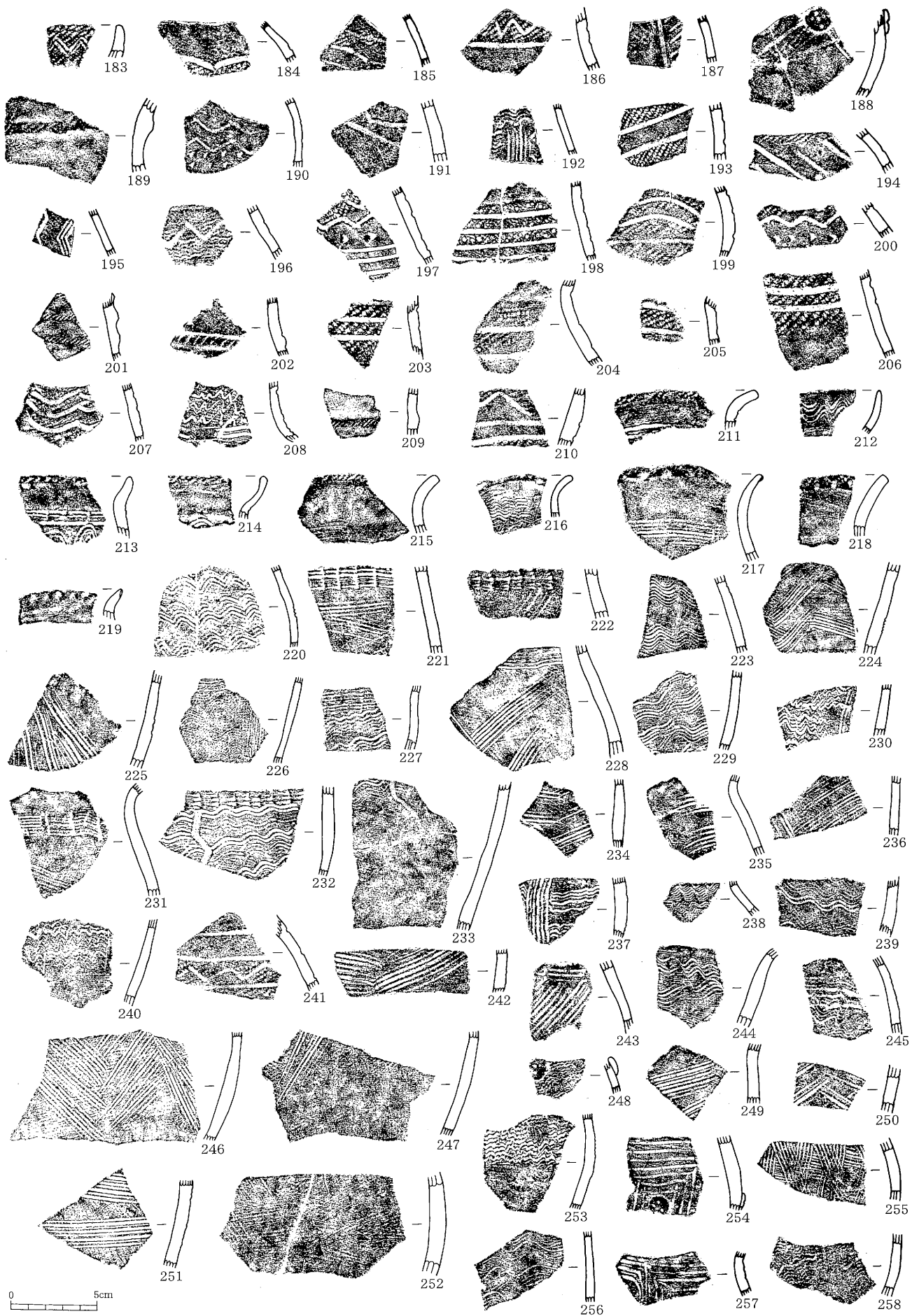
人面付土器 (S9W6グリッド)



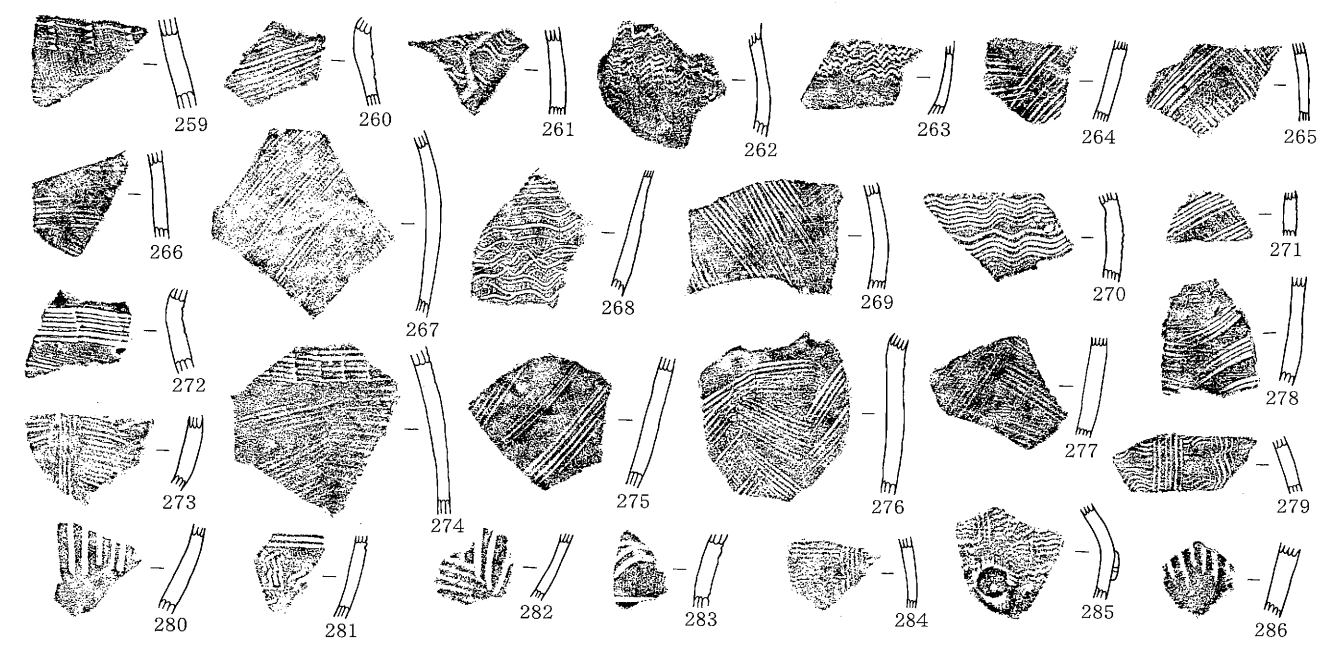
51住 (171~286)



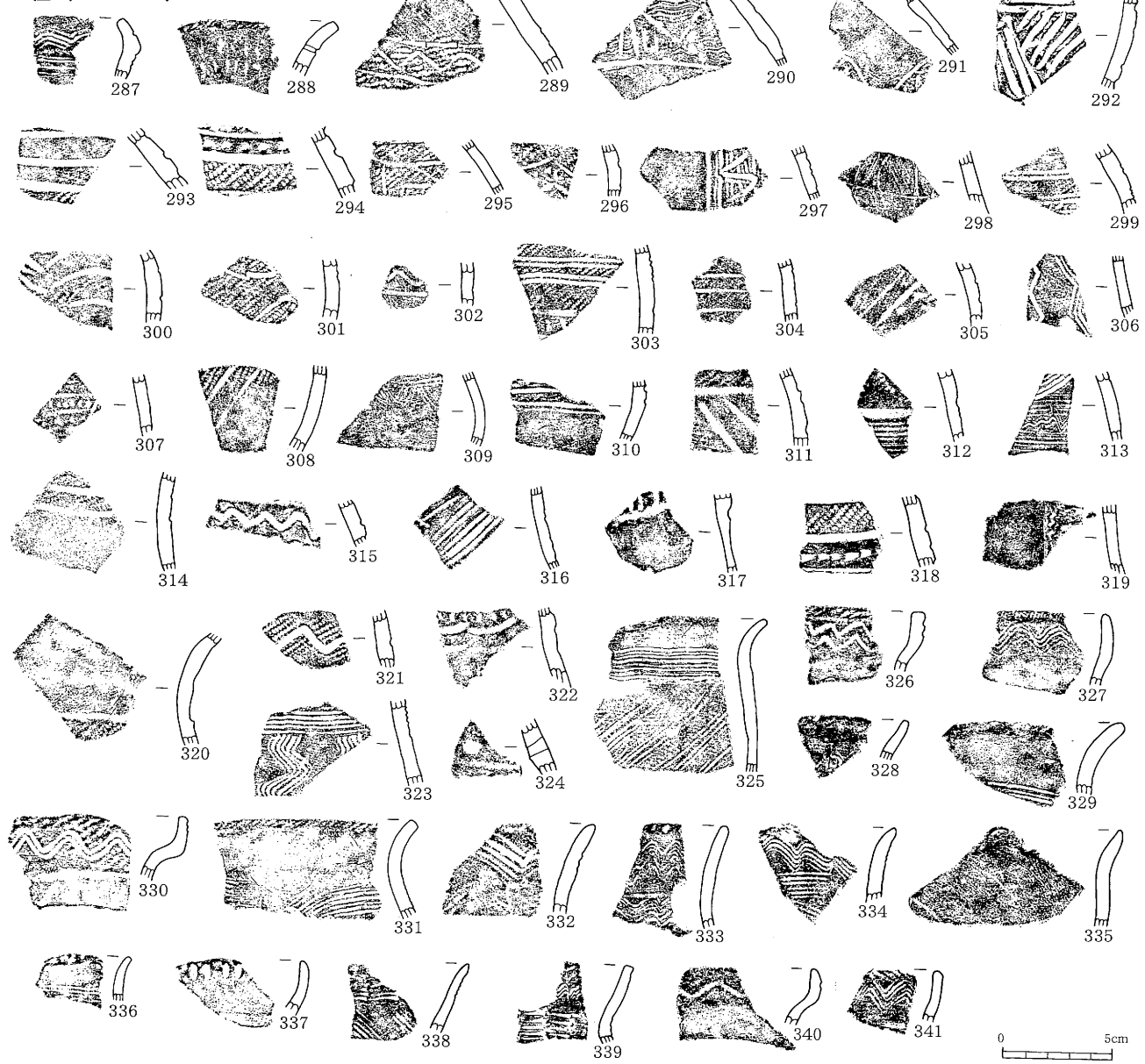
第15図 弥生土器 (5) 実測図・拓影



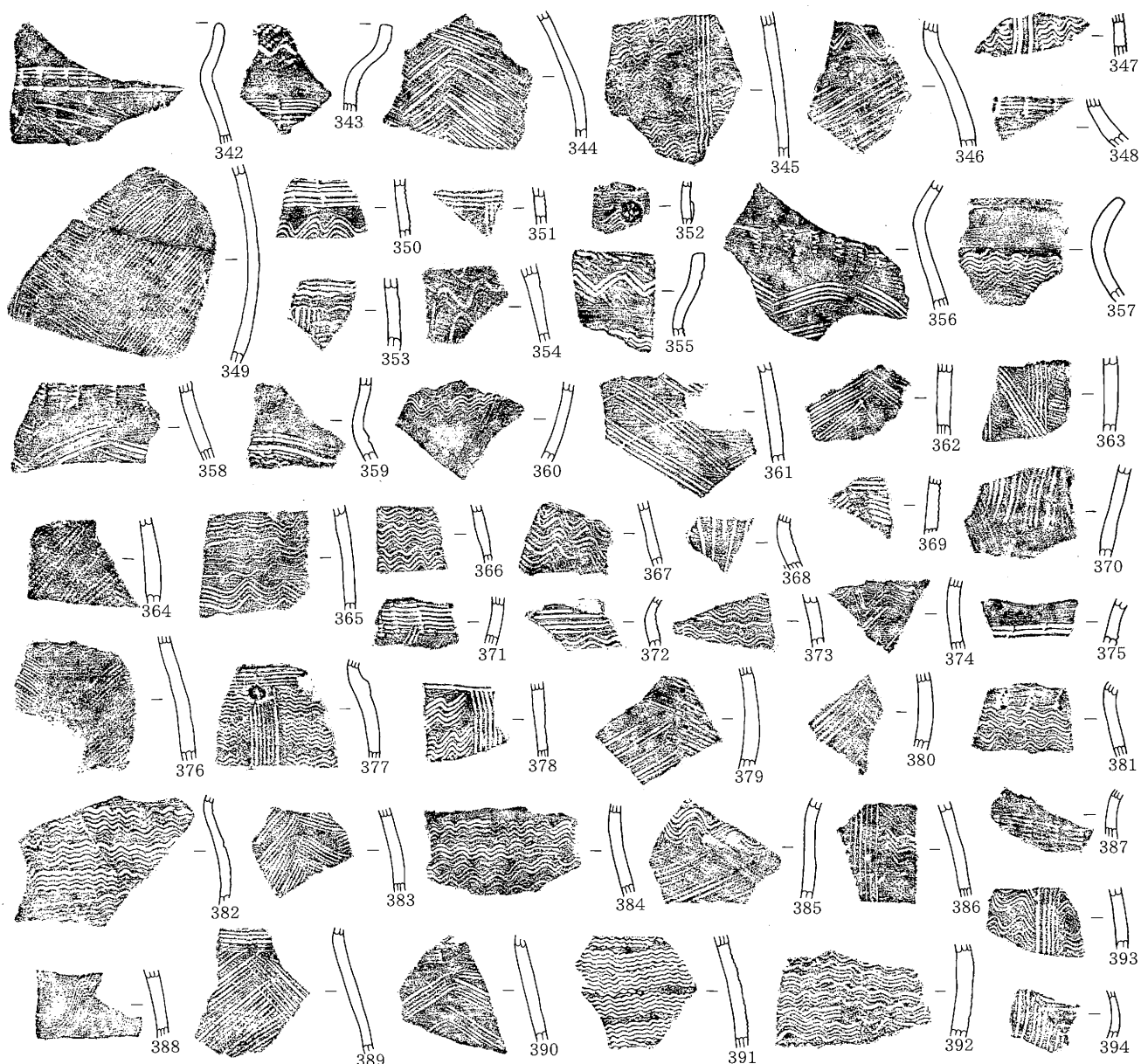
第16图 弥生土器 (6) 拓影



52住 (287~394)

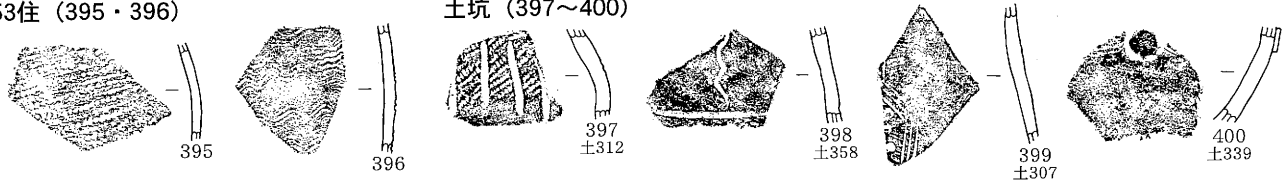


第17图 弥生土器 (7) 拓影

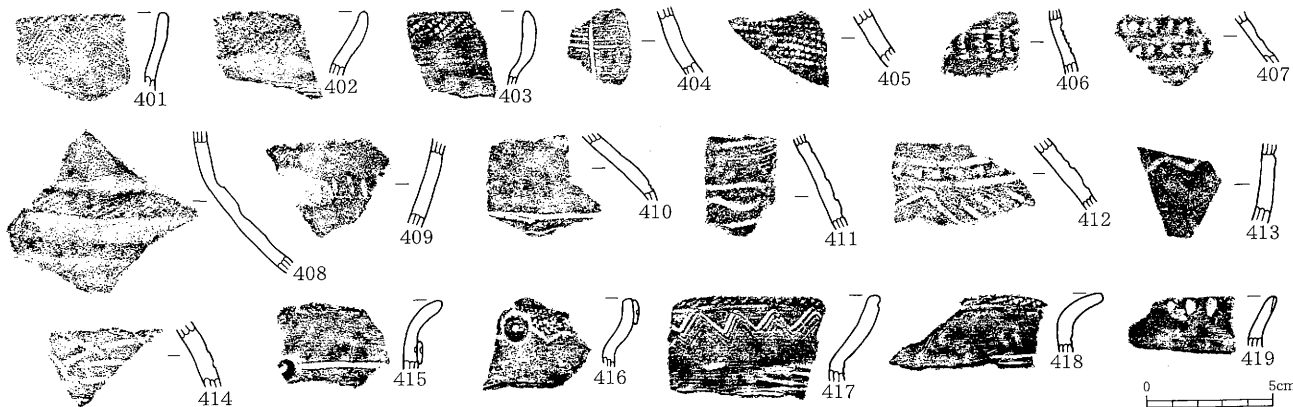


53住 (395・396)

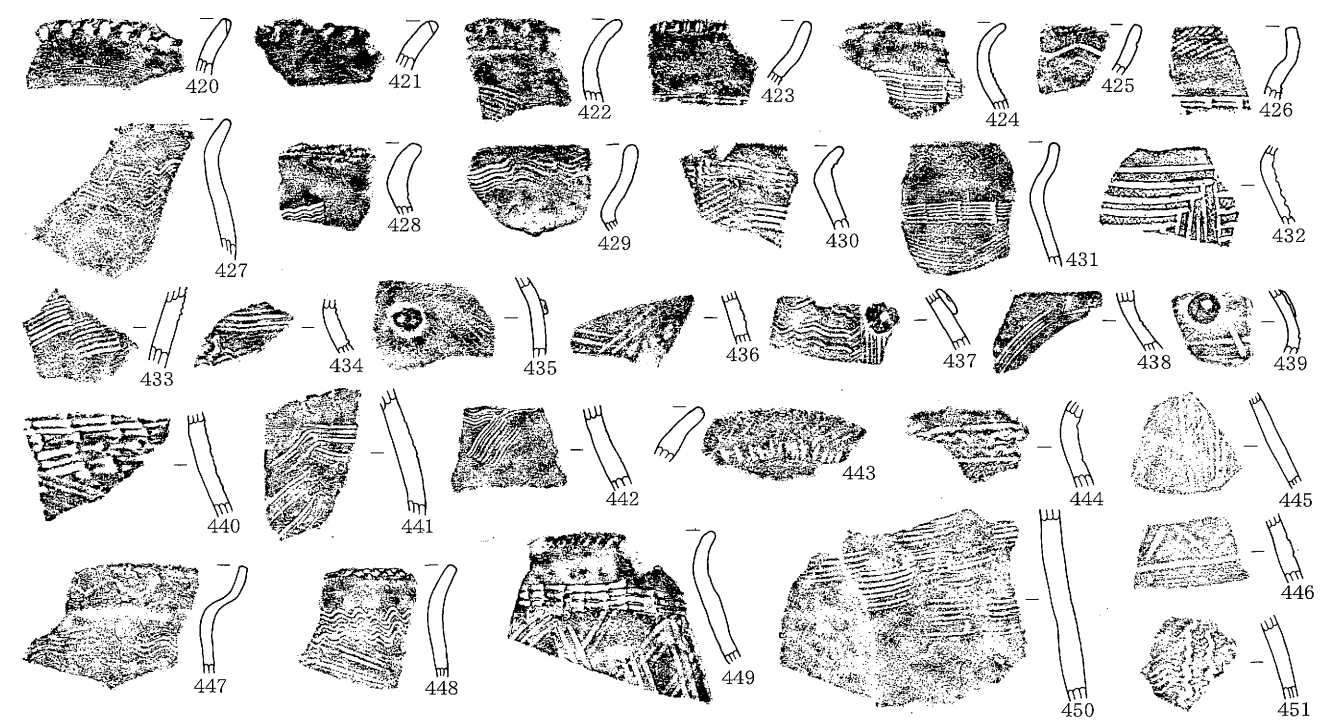
土坑 (397~400)



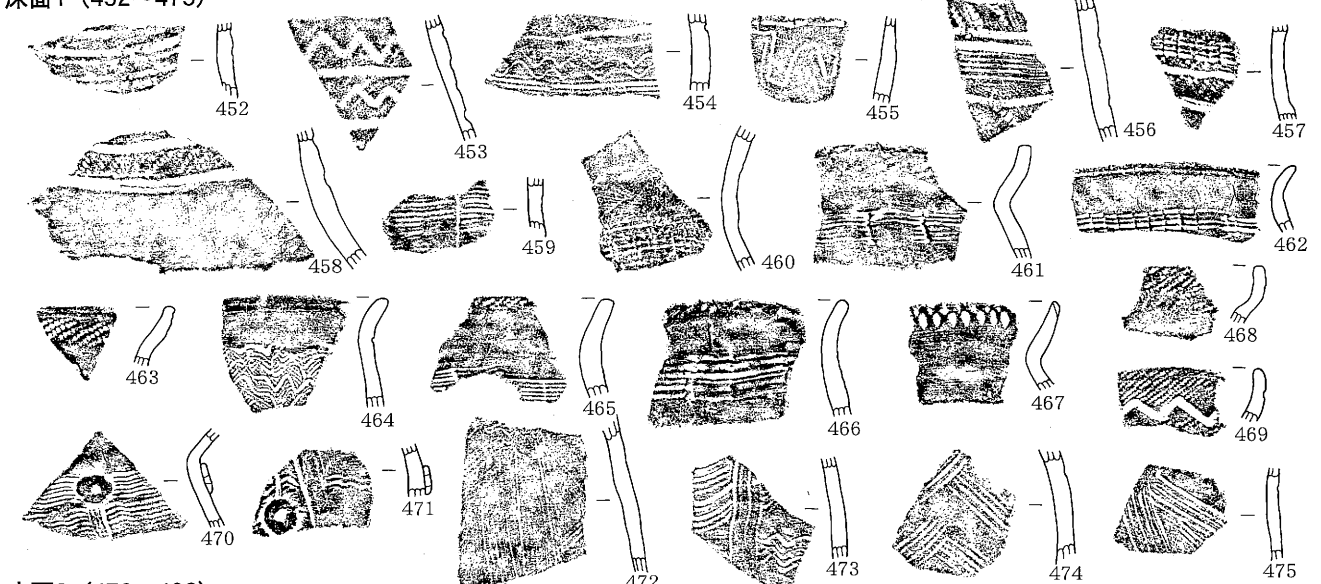
溝302 (401~451)



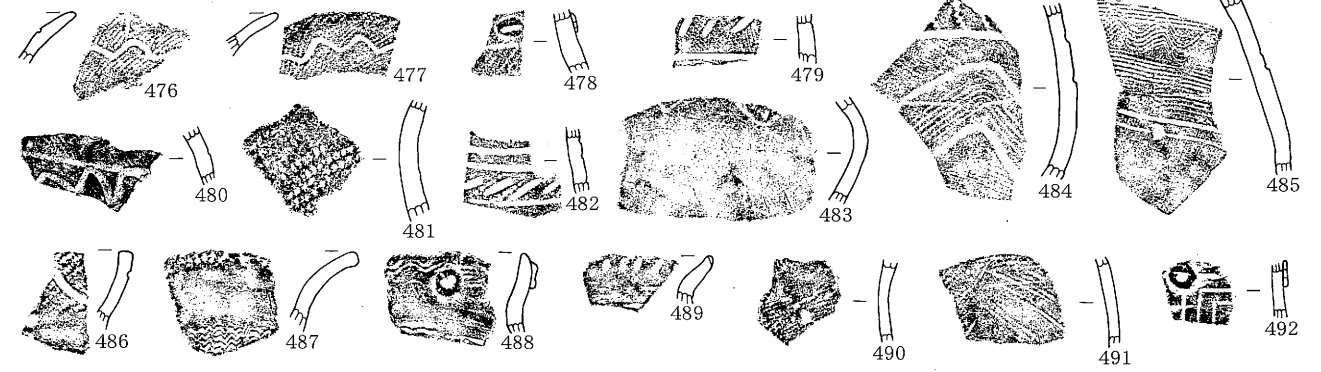
第18図 弥生土器 (8) 拓影



床面1 (452~475)



床面2 (476~492)

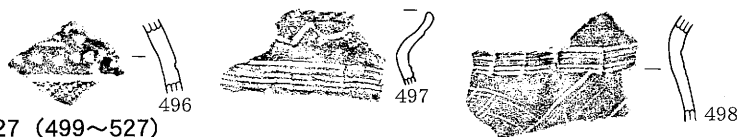


床面3 (493~495)

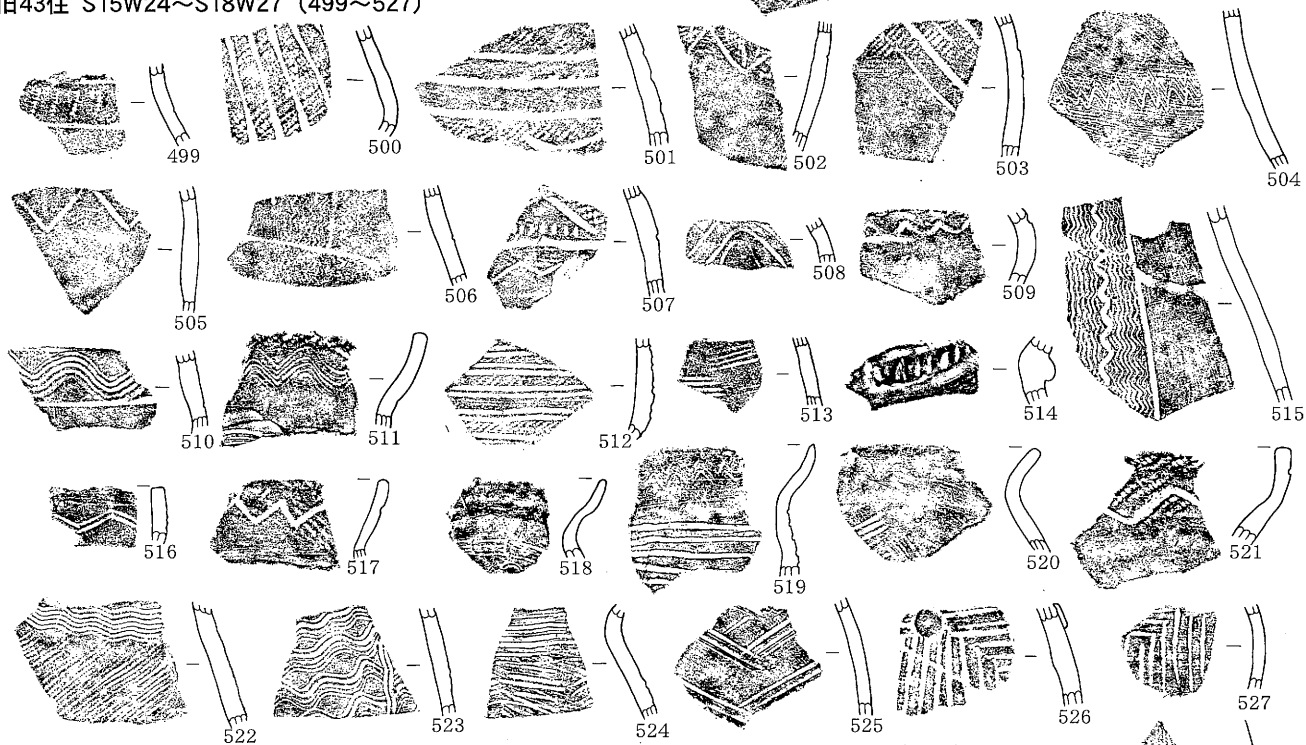


第19图 弥生土器(9) 拓影

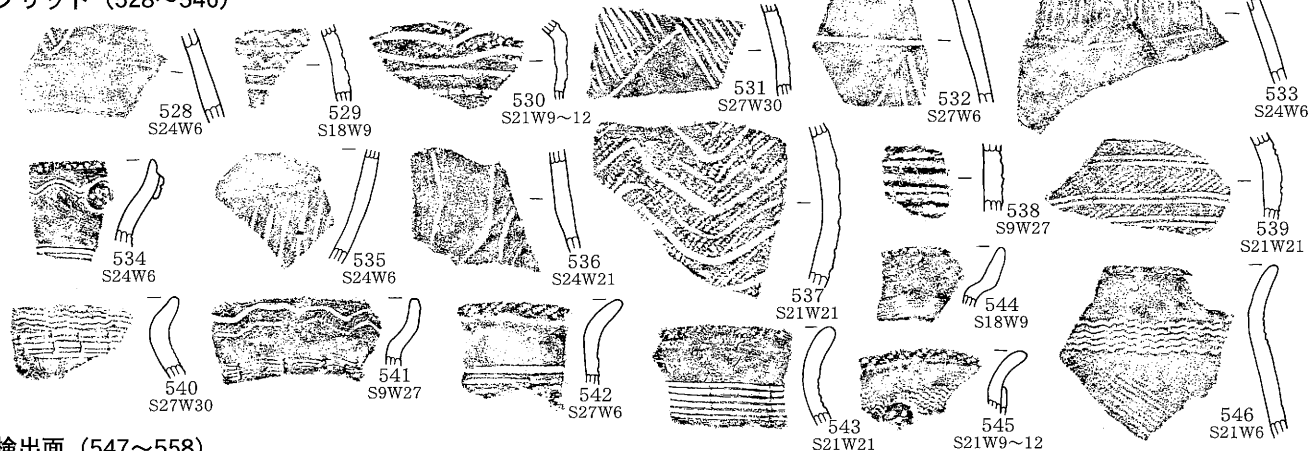
床面4 (496~498)



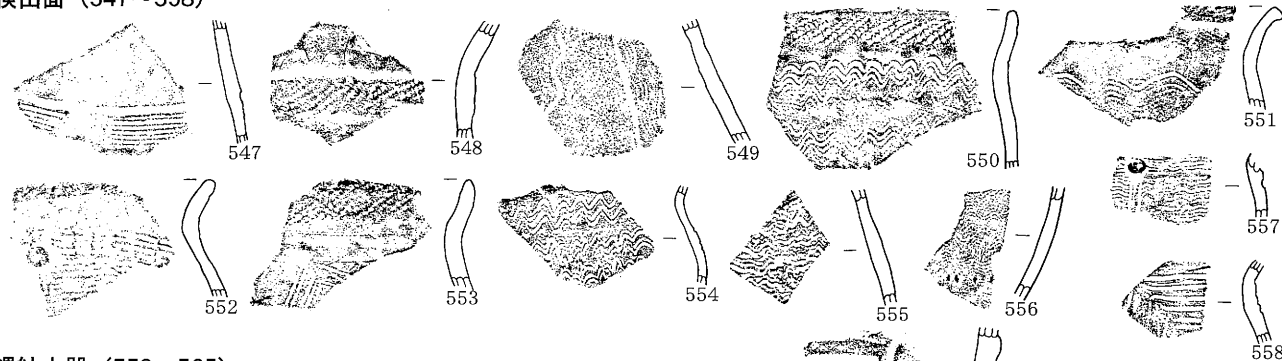
旧43住 S15W24~S18W27 (499~527)



グリッド (528~546)



検出面 (547~558)



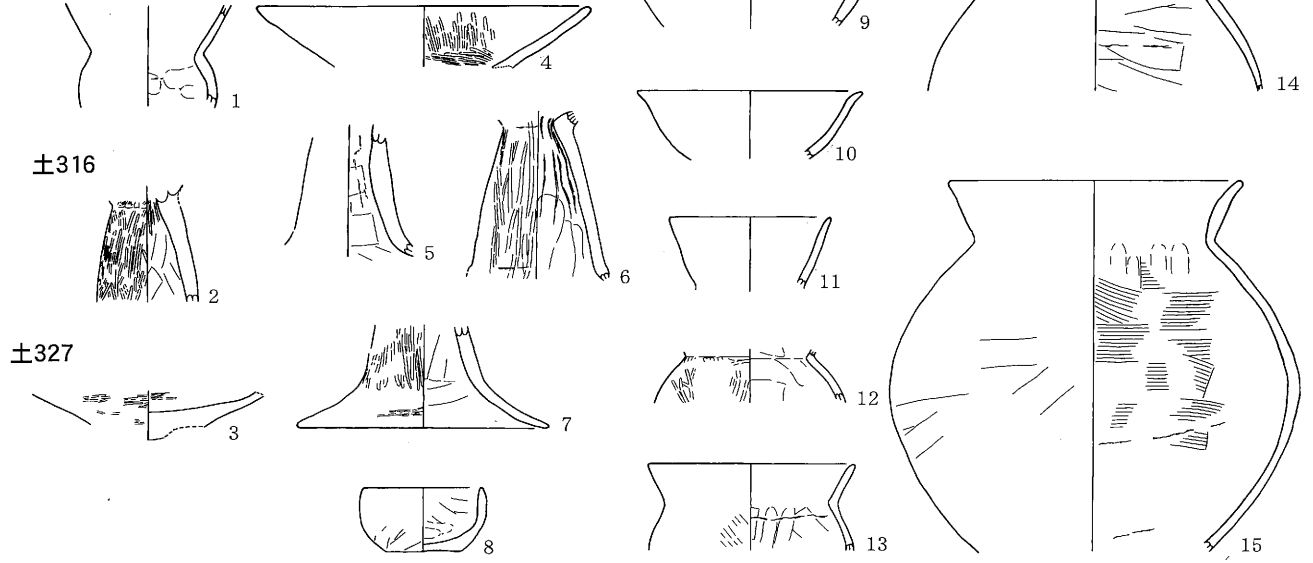
縄紋土器 (559~565)



第20図 弥生土器 (10) 縄紋土器 拓影

検出面

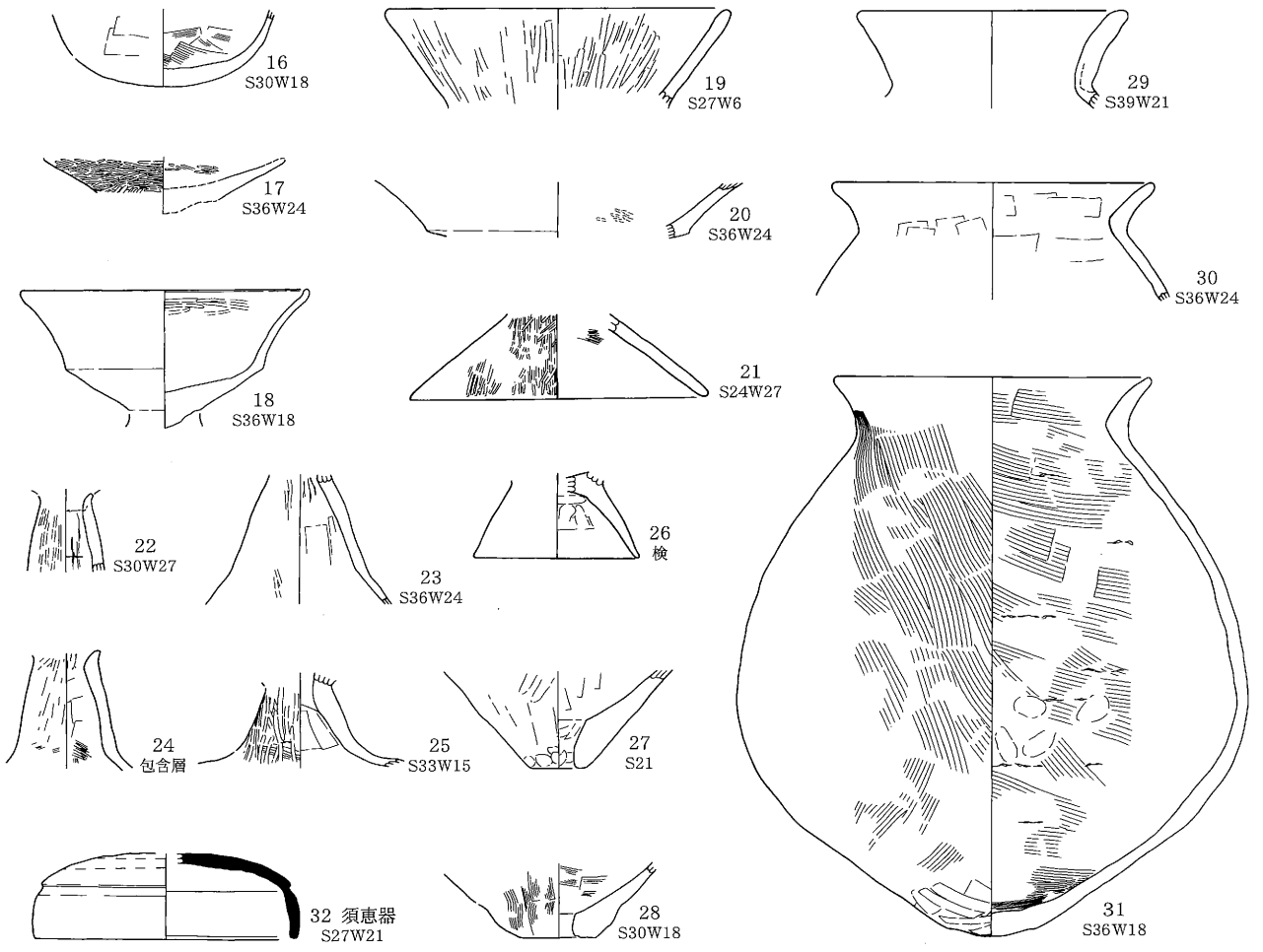
溝302 (4~15)



土316

土327

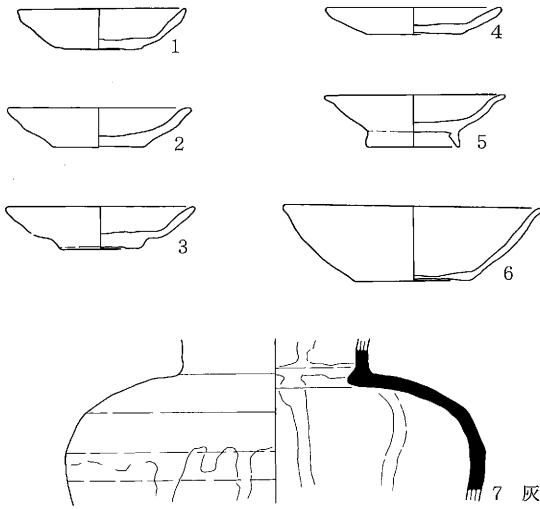
グリッド・検出面 (16~32)



第21図 古墳時代の土器

奈良・平安時代 (1~9)

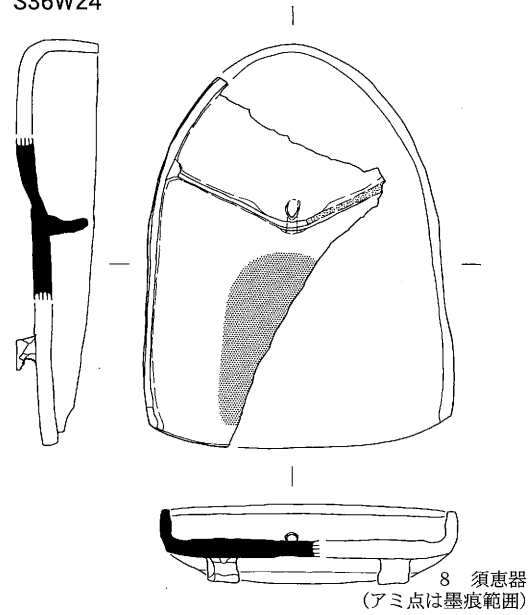
42住 (1~7)



土324

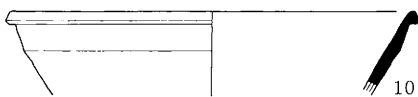


S36W24

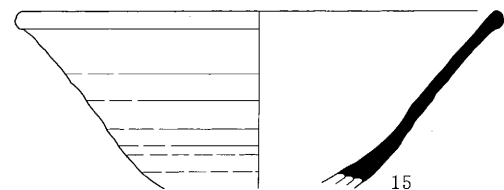


中世 (10~19)

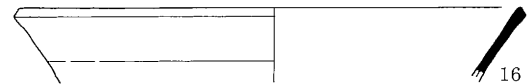
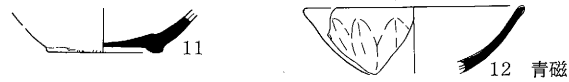
土307



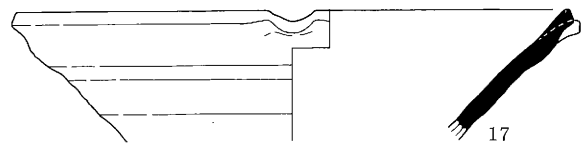
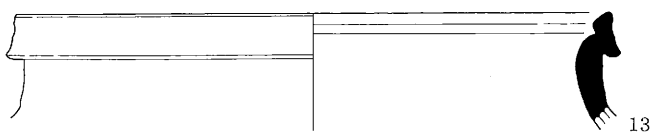
土316 (15~19)



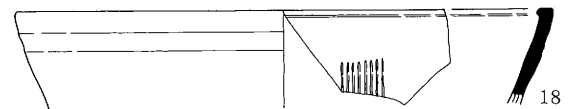
土311



土321



土328



0 10cm

第22図 平安時代・中世の土器陶磁器・土製品

第5表 弥生土器観察表 (1~167は実測図, 171~565は拓影, うち559~565は縄紋土器。「〇〇紋」は略記)

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外	内			
1	51住	壺			(8.0)		口1/5	淡褐~黒褐	雲母、長石、白・灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・波状、ハケメ摩滅?	工具ナデのちミガキ	50-6	G508	
2	51住	高杯					杯脚上部	橙褐	雲母、白色粒	凸帯貼付のちキザミ・工具ナデ	工具ナデ	G-112	G238	
3	51住	壺					頸部片	暗褐	雲母、灰・褐色粒	笠描横線・山形・押引、櫛描刺突	工具ナデ	47-2	G471	
4	51住	壺					頸部片	淡褐~淡灰褐	雲母、灰・褐色粒	笠描横線・刺突、ナデ摩滅	ナデ、ハケメ	47-1	G470	
5	51住	壺					頸部片	黄褐~淡灰褐	灰・褐色粒	LR縄摩滅・笠描横線4段、一部ハケメ	ナデ	47-3	G466	
6	51住	壺			(13.2)		口1/5	暗橙褐	長石、灰色粒	口唇LR縄、口縁ヨコナデ、頸部ナデ・ハケメ	ナデ	47-4	G475	
7	51住	壺			(14.4)		口1/3	赤~橙褐	灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・4単位の突起、ミガキ摩滅	ミガキ摩滅	G-81	G121	内外赤彩
8	51住	壺					頸部片	暗褐	雲母、灰・褐色粒	頸部凸帯貼付のちキザミ・ミガキ	ハケメ、ナデ	50-8	G492・493・511	
9	51住	壺			10.5		口1/10	暗褐~灰褐	灰・褐色粒	口唇縄、口縁・胴上部ハケメのちミガキ、頸部笠描横線4段・櫛描波状	工具ナデ、ミガキ、ハケメ	G-123	G128	
10	51住	ミナブ	高杯		(3.8)		底1/2	暗褐~橙褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ摩滅・ヨコナデ・ナデ	ミガキ摩滅	50-7	50住509	
11	51住	台付甕			(7.4)		底1/4	濃橙褐	雲母、灰色粒	ナデ・一部ケズリ・ヨコナデ・ハケメ	ミガキ	47-7	G458	
12	51住	台付甕			(8.0)		底1/8	暗褐	雲母、灰・褐色粒	ハケメ・ヨコナデ	ナデ	49-4	49住	
13	51住	甕	B2		(22.6)		口一部	暗褐	灰色粒	口唇笠キザミ、口縁波状、頸部簾状、ハケメのち縦羽状条痕	ミガキ・一部指圧痕	47-5	G470・474	
14	51住	甕形鉢			(17.2)		口1/8	暗赤褐	雲母、灰・褐色粒	口縁ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	G-121	G183	内外赤彩
15	51住	甕	A1		(16.3)		口1/5	淡褐~灰褐	雲母、灰・褐色粒	口唇笠キザミ、口縁工具ナデ、斜行条痕	ハケメのちミガキ	50-1	G500	
16	51住	甕			(14.9)		口1/7	暗褐	雲母、灰・褐色粒	口唇キザミ、口縁ヨコナデ・ハケメ摩滅	ナデ	50-2	G511	壺の可能性
17	51住	甕	A2		(15.6)		口1/8	暗褐	雲母、灰色粒	口唇LR縄、口縁ヨコナデ、頸部波状、胴部斜行条痕	ハケメのちミガキ	G-67	G126・132	
18	51住	甕	A1		(18.6)		口1/4	暗~橙褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁ヨコナデ、胴部縦羽状条痕	ハケメのちミガキ	50-12	G181・182・234・237・503・504・513	
19	51住	甕	B2		(11.8)		口1/4	褐~暗褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁ヨコナデ・ハケメ、胴上部波状	ケズリのちミガキ	50-11	G496・511	
20	51住	甕	B		(17.3)		口1/16	暗褐~黒褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁LR縄のち山形、ミガキ摩滅?	ミガキ	50-4	G512	
21	51住	甕	B1		(17.4)		口1/12	淡褐~黒褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁波状、胴上部垂下ろち櫛描(縦線)	ハケメのちミガキ	49-3	G481	
22	51住	甕	A1		(19.0)		口1/2	淡褐~暗褐	雲母、灰・褐色粒	口唇キザミ、頸部波状、ハケメのち胴上部斜走短線・胴下部ミガキ摩滅?	ハケメのちミガキ	G-28	G028・029・030・031	
23	51住	甕	A2		(24.6)		口1/6	暗橙褐	雲母、灰・褐色粒	口唇笠キザミのちLR縄、頸部細い横ハケメ・櫛描横線、胴上部斜行条痕	横方向のミガキ摩滅	50-10	G495	
24	51住	甕					暗~橙褐	雲母、灰・褐色粒	胴上部ハケメのち横羽状条痕、胴下部ミガキ	ミガキ	51-1	検728	灰体埋設土器、炭化物付着	
25	51住	甕			(8.4)		底2/3	黒~暗褐	雲母、灰色粒	ミガキ摩滅?・ナデ、底部ナデ	ナデ摩滅	47-6	G462・464	
26	51住	甕	A3	29.1	21.5	8.9	口1/3底一部欠	暗褐~黒	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、頸部簾状、胴上部ハケメのち縦羽状条痕、胴下部ミガキ	ハケメのちミガキ?	G-127	G126・128・134・135・136・137・139・141、口縁ゆがみ	
27	51住	台付甕					淡褐~灰褐	雲母、灰・褐色粒	複合鋸歯・円形浮・ミガキ摩滅?	工具ナデのちミガキ	50-5	G507		
28	51住	甕	B3		27.8		口3/4	暗褐~黒褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁波状、頸部縦ハケメ、胴部横ハケメのち縦羽状条痕	ハケメのちミガキ	G-128	G125・127・140	
29	51住	甕			4.1		底1/2	暗褐	白色粒	工具ナデ・ケズリ、底部ナデ、底面より穿孔	工具ナデのちミガキ	G-95	G235	
30	51住	鉢			(6.6)		底1/4	淡灰~黒褐	白・灰・褐色粒	ミガキ摩滅?、底部ナデ	ミガキ	50-3	G512	
31	51住	鉢			(6.4)		底2/5	朱、淡褐	雲母、白・褐色粒	ミガキ摩滅、底部ナデ	ミガキ摩滅	G-96	G237	内外赤彩
32	51住	壺?			11.2		底3/4	暗褐	石英、灰・褐色粒	ケズリ、底部一部ケズリ・ナデ	ナデ	50-9	G497・506	
33	52住	鉢		8.65	18.7	7.6	口2/3底2/3	淡褐~赤褐	灰・褐色粒	口縁6単位の突起、ミガキ・ケズリ摩滅、底部ケズリ摩滅	ミガキ摩滅	44-2	G094・106・404・405・541	内外赤彩、口縁2孔
34	52住	壺	A1				頸部片	橙褐	灰・淡灰色粒	頸部笠描波状・横線各3本、縦線間に櫛描波状懸垂充填・一部ミガキ残	工具ナデ摩滅	G-78	G004・011・104	
35	52住	壺					頸部片	暗褐~黒	灰・褐色粒	頸部ハケメ	ナデ、ハケメ	44-6	44住410	
36	52住	壺					頸部片	黒~褐	雲母、灰・褐色粒	頸・胴部工具ナデのち櫛描波状・横線	ミガキ・工具ナデ摩滅	G-71	G135・137・138	
37	52住	台付甕			(15.8)		口1/10	暗褐~黒	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄・ボタン状貼付、口縁LR縄文のち波状、頸部簾状、胴部縦羽状条痕・ボタン状貼付、胴下部ミガキ摩滅?	ハケメのちミガキ摩滅	45-3	45住422、G095	
38	52住	甕	B2		(19.4)		口3/4	暗褐	雲母、灰色粒	口唇LR縄、口縁LR縄のち笠描山形、頸部波状、胴部縦羽状条痕	ハケメのちミガキ	52-1	G103・104・105・115・539	
39	52住	甕	B1	18.8	(19.2)	(6.8)	口1/3	暗褐	灰・褐色粒	口唇笠キザミ、頸部簾状、胴上部ハケメのち斜行条痕・下部ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメのちミガキ	G-31	G104・105	
40	52住	壺			(15.4)		口1/4	赤褐		口唇LR縄、口縁ヨコナデ・ミガキのちLR縄・ケズリ、粗ハケメのちミガキ	粗ハケメのちミガキ摩滅	52-5	G093・532	内外赤彩
41	52住	甕	A1	(17.7)	(15.6)	6.0	口5/8底完	暗褐	灰・褐色粒	口唇LR縄、胴上部ハケメのち波状・櫛描垂下3単位、胴下部ミガキ、底部ナデ	ハケメのちミガキ	G-58	G100・101・103・104・105	
42	52住	台付甕		18.0	(17.0)	8.7	口1/3底9/10	橙褐~暗褐	長石、白色粒	口縁突起4単位、胴部ハケメのち波状・ミガキ、脚部ハケメ摩滅	ハケメのちミガキ	G-125	G102・104・105	
43	52住	甕	A3		(8.6)		口1/8	暗褐~黒	雲母、灰・褐色粒	口縁ヨコナデ、頸~胴部ハケメのち波状	ミガキ・指頭圧痕	45-2	45住421	
44	52住	壺			(4.8)		底1/2	赤褐~淡褐	灰・褐色粒	ミガキ、底部ナデ	工具ナデ	G-101	G066	外面赤彩
45	52住	鉢			(4.2)		底5/8	褐~赤褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ摩滅、底部ナデ	ミガキ	44-3	44住407	内外赤彩
46	52住	壺			8.0		底完	赤褐	雲母、黒・灰色粒	ナデのちミガキ摩滅、底部ナデ(ややケズリ状の部分有り)	ナデ	52-4	G531	外・底赤彩
47	52住	ミナブ?	甕		2.9		底完	暗褐	雲母、灰・褐色粒	ナデ、底部ナデ	ナデ	45-1	45住423	内面に未貫通孔有り
48	52住	甕?			6.0		底3/4	暗褐	雲母、灰色粒	指ナデのち一部ミガキ、底部ナデ	工具によるナデ	52-3	G542	
49	52住	甕			5.6		底一部欠	暗褐	雲母、灰色粒	ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメのちミガキ	52-2	G540	
50	52住	ミナブ?	鉢	2.7	5.9	3.9	口1/2底完	褐~暗橙褐	灰・褐色粒	口縁ヨコナデ(一部ケズリのち?)ミガキ、底部ナデ(ケズリ?)	ナデ	G-74	G105、±593・333	
51	53住	壺	A2		(9.6)		胴部片底一部	淡褐~暗褐	雲母、灰・褐色粒	頸部ハケメのちミガキ摩滅・沈線・LR縄、胴部ハケメのちミガキ・摩滅剥離	ハケメ	53-1	G016・018・019・020・552、検729	
52	53住	台付甕					底1/4	暗~橙褐	灰色粒	ナデ、ヨコナデ、指オサエ	ナデ摩滅	53-3	G553	
53	53住	壺			(8.2)		底1/2	褐~暗褐	雲母、灰色粒	ミガキ、底部ナデ	ハケメ	53-2	G551	
54	53住	壺					頸部片	淡褐~暗褐	長石、白・黒色粒	頸部ハケメのちミガキ・沈線・縄充填のち山形、胴部ハケメのちミガキ	頸部ミガキ、工具ナデ	検-12	検729・730	外面赤彩・一部黒変

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様調整			実測No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外		内面			
55	ピット	甕	A3		(15.4)		口1/12	暗褐～黒褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縷、頸部籐状、胴上部ハケメのち縦羽状条痕	ハケメのちミガキ	P-1	P636・637		
56	土311	高杯			16.8		口1/12	褐～赤褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ	ミガキ	±18	±571・311	内外赤彩	
57	土328	甕	A1				口1/4	暗褐	白色粒	口縁ヨコナデ、ハケメのち斜行条痕	ハケメのちミガキ	±12	±589		
58	土326	壺			(11.2)		口1/10	暗褐	灰・褐色粒	口唇櫛描列点、ハケメ、ミガキ摩滅	ミガキ摩滅、ハケメ	±20	±583・326		
59	土311	高杯				(5.0)	底1/10	淡褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ・ヨコナデ・ナデ	ミガキ	±16	±572		
60	土311	壺			(8.4)		口一部	褐～赤褐	灰・褐色粒	ミガキ	ミガキ	±17	±572	内外赤彩	
61	溝302	鉢			(11.8)		口1/4	朱	白色粒	口縁横・以下は縦ミガキ摩滅	ミガキ摩滅	G-83	G246	内外赤彩・一部黒色付着物	
62	溝302	壺			(11.0)		口3/8	暗褐	長石、灰・褐色粒	ヨコナデ	ヨコナデ	G-118	G211		
63	溝302	台付甕				(7.0)	底1/3	暗橙褐	雲母、灰色粒	ハケメのちミガキ摩滅、ハケメ	ミガキ	G-64	G162		
64	溝302	壺			(8.6)		口2/3	暗褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縷、口縁～頸部ハケメのち波状	ミガキ摩滅、工具ナデ	G-120	G146・206		
65	溝302	壺	A2			8.9	頸胴片底完	褐～灰褐	石英、灰・褐色粒	口縁工具ナデのちミガキ摩滅、頸部沈線4本、胴上部工具ナデのちミガキ摩滅	ミガキ・工具ナデ	G-126	G164		
66	溝302	甕	D		(14.6)		口1/4	暗褐	灰・褐色粒	口唇ヨコナデのちミガキ、頸部～胴上部波状、胴下部ミガキ	ミガキ	G-116	G160		
67	溝302	壺				(6.0)	底2/3	暗褐	灰・褐色粒	胴上部ハケメのち波状・刺突、胴下部ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメのちミガキ	G-60	G249・305、検706		
68	溝302	高杯			(17.8)		口1/10	朱	長石、白色粒	口唇縷、ミガキ	ミガキ摩滅	G-82	G250	内外赤彩	
69	溝302	鉢?			(20.9)		口1/10	朱	白色粒	ミガキ摩滅	ミガキ摩滅	G-89	G256	内外赤彩、高杯の可能性	
70	溝302	高杯					杯脚部片	茶褐～淡灰褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ・ナデ	ミガキ	G-44	G290	内外赤彩	
71	溝302	甕?			(4.0)		底1/3	暗褐～淡褐	白色粒	ナデ、底部ナデ	工具ナデ	G-92	G256	内外鉄分付着	
72	溝302	ミニフ?	甕			3.4	底完	暗橙褐	灰・褐色粒	ケズリ	ナデ	G-76	G290		
73	溝302	壺?				5.2	底1/2	淡褐	長石、白色粒	摩滅	摩滅	G-87	G255		
74	溝302	鉢?			(7.0)		底1/5	暗褐	雲母、石英、白色粒	ミガキ摩滅、底部ミガキ摩滅?	ミガキ摩滅	G-90	G256		
75	溝302	ミニフ?	高杯	(2.4)	(4.2)	3.3	口一部底完	暗褐	雲母、灰・褐色粒	工具ナデ、ヨコナデ・ナデ	工具ナデ	G-77	G209		
76	溝302	甕			(8.9)		底2/5	暗褐～灰褐	雲母、長石、灰・褐色粒	ミガキ、底部ナデのちミガキ摩滅	ミガキ摩滅	G-45	G290		
77	溝302	甕			(7.4)		底1/5	褐	長石、白色粒	ミガキ	ミガキ	G-91	G252		
78	床1	高杯			(14.4)		口1/12	赤褐	淡褐色粒	ミガキ摩滅	ミガキ	G-79	G003	内外赤彩	
79	床1	高杯					杯脚部	淡褐～赤褐	灰・褐色粒	ミガキ、工具ナデ、貼付凸帯剥離	ミガキ	G-114	G053	内外赤彩(摩滅)	
80	床1	壺			(10.1)		底完	褐～黒褐	雲母、灰・褐色粒	胴部ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメ	G-115	G026・027・053		
81	床1	壺				9.0	底3/4	淡褐～黒	雲母、白色粒	胴部ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメ	G-122	G026・027・053	外面一部黒変	
82	床1	甕	A		(12.6)		口1/12	褐	雲母、灰・褐色粒	口縁ヨコナデ、頸部籐状、外面より穿孔(単位不明)	ハケメ	G-108	G025		
83	床1	壺					胴部片底一部	褐～暗褐	雲母、灰・褐色粒	ハケメのちミガキ	ハケメ	G-102	G026・027・053		
84	床1	甕						褐～暗褐	雲母、淡褐色粒	胴上部ハケメのち櫛描垂下・波状、胴下部ハケメのちケズリ・ミガキ	横ハケメのち粗なミガキ	G-29	G005	外面一部黒変	
85	床1	甕	B		(17.6)		口1/5	淡褐～橙褐	雲母、灰・褐色粒	口唇波状、胴・頸部波状摩滅	ナデ・ハケメ摩滅	G-104	G002・058		
86	床1	甕	C		(16.0)		口1/3	黒～暗褐	石英、灰色粒	口唇LR縷、口縁無文・ハケメ残、頸部籐状、胴上部波状	ミガキ	G-63	G011		
87	床1	甕	A2		(17.6)		口1/14	暗褐～黒	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縷摩滅、頸部籐状、胴部ハケメのち縦羽状条痕	ハケメのちミガキ	G-113	G053		
88	床1	高杯				8.4	底3/4	朱	石英、白色粒	ミガキ・工具ナデ	ミガキ	G-86	G006	外面赤彩	
89	床1	高杯?				7.8	底1/2	橙褐	長石、白色粒	摩滅・ヨコナデ・工具ナデ	ナデ	G-84	G008		
90	床1	ミニフ?				3.6	底完	暗褐	雲母、灰・褐色粒	ケズリ、底部ナデ	ナデ	G-75	G011		
91	床1	甕			(6.1)		底1/2	暗褐	雲母、長石、白色粒	ミガキ	ミガキ	G-85	G002		
92	床2	鉢			(6.2)		底2/3	暗褐～赤褐	雲母、灰・褐色粒	上半朱彩・ミガキ、下半ケズリのちミガキ(赤彩なし)、底部ケズリ	ミガキ	44-1	G402	内面赤彩・2孔	
93	床2	鉢			(19.0)		口1/3	橙褐	灰・褐色粒	ミガキ摩滅	ハケメのちミガキ	G-99	G042	2孔(単位不明、外から穿孔)	
94	床2	壺?			(14.0)		口1/10	褐～赤褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ、片口付	ミガキ	46-6	46住430	内外赤彩	
95	床2	壺				4.4	底完	淡褐		摩滅	下半ハケメ	G-88	G012		
96	床2	台付甕				8.1	底完	淡褐～暗褐	灰・褐色粒	ハケメ・ヨコナデ・ナデ	ナデ	44-5	44住403		
97	床2	鉢				6.0	底3/4	暗褐～黒	雲母、灰・褐色粒	ミガキ摩滅、底部ミガキ摩滅	ミガキ摩滅	46-8	46住430・432	内面赤彩	
98	床2	鉢				7.8	底完	暗褐～暗赤褐	灰・褐色粒	ミガキ・ナデ・ケズリ	ミガキ	44-4	44住401	内外赤彩	
99	床2	甕			(6.4)		底完	暗褐	灰色粒	粗いミガキ・ケズリ、底部ナデ・ケズリ	粗いミガキ	G-69	G040		
100	床2	片口鉢			(10.8)		口1/3	暗褐	雲母、灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ハケメ	ハケメ	G-27	G033		
101	床2	甕			(12.2)		口1/5	暗褐	灰・褐色粒	口唇・口縁LR縷摩滅・山形沈線・ボタン状貼付、頸部籐状、胴上部波状のち垂下・ボタン状貼付	ミガキ摩滅	G-105	G044	台付甕の可能性	
102	床2	甕	B1		(17.4)		口一部	暗褐～黒	雲母、灰・褐色粒	口縁LR縷摩滅、頸部・胴上部波状	ハケメのち軽いミガキ?	46-4	46住439		
103	床2	甕	A1		(15.2)		口1/3	暗褐	灰・褐色粒	口唇波状、頸部波状、胴上部縦羽状条痕	ミガキ摩滅	44-7	44住400・411		
104	床2	甕	A1		(15.6)		口1/3	褐～暗褐	雲母、褐・淡褐色粒	口唇LR縷、胴部ハケメのち縦羽状条痕	ハケメ	G-30	G043、検711		
105	床2	壺			(10.4)		底1/2	黒～黄褐	灰色粒	胴下部ハケメ摩滅、底部ナデ	ハケメ摩滅・ナデ	G-59	G038・411	外側～底面黒変	
106	床2	甕	B1		(28.0)		口1/5	淡褐～暗褐	灰・褐色粒	口唇・口縁LR縷摩滅のち山形、頸部ハケメのちミガキ摩滅・籐状	ミガキ摩滅	46-1	46住441・442、G011・033・034・089		
107	床3	壺	A1				胴部片	褐～暗褐	灰・褐色粒	ハケメ・ミガキのち推定5単位懸垂横帯、胴下部ミガキのち筐横縷・重弧	ナデ摩滅・ハケメ	G-38	G148・151・152	内面上部黒変・下部剥離顯著	
108	床3	壺					胴部片	赤褐	石英、灰・褐色粒	上部縦方向のミガキ・下部貼付(4単位)・横方向のミガキ	工具ナデ・ハケメ	G-62	G149・152	外面赤彩	
109	床4	壺			(10.8)		口1/3	淡褐～褐	雲母、長石、灰・褐色粒	口唇LR縷、頸部ハケメ・沈線	ミガキ摩滅	G-36	G284		
110	床4	高杯				8.2	頸部片	茶褐～暗茶褐	雲母、長石、灰・褐色粒	ミガキ摩滅?・凸帯貼付・キザミ・ヨコナデ	ミガキ摩滅?	G-37	G284	内面赤彩痕	
111	床4	甕				6.6	底2/3	褐～灰褐	雲母、灰・褐色粒	ハケメのちミガキ・ナデ	ハケメのちミガキ	G-33	G276		

番号	地点	形式		寸法			残存度	色調	胎土	紋様・調整		実測No.	注記	備考
		器種	器形	器高	口径	底径				外	内			
112	床4	壺					頸部片	淡褐	雲母、灰～褐色粒	頸部LR縄・沈線4本、ミガキ摩滅	調整摩滅	G-2	G279・283	
113	床4	甕				(7.3)	底2/3	褐～灰褐	雲母、灰・褐色粒	ハケメのちミガキ(摩滅)・ナデ、底部ナデ	工具ナデ摩滅・ナデ	G-34	G272	
114	床4	壺	A1				胴部片	淡褐～暗褐	灰・褐色粒	ハケメのち刺突・沈線・重山形、下部ミガキ	ハケメ	G-10	G278・280	
115	床4	片口鉢			(12.0)		口1/4	淡褐～灰褐	雲母、灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ハケメのちミガキ?	ハケメのちミガキ	G-47	G286	
116	床4	甕				(8.0)	底2/3	淡灰褐	雲母、長石、白・灰・褐色粒	ハケメのちミガキ?、底部ナデ	ナデ	G-35	G279	
117	床4	壺				9.4	底3/4	淡褐～褐	雲母、長石、灰・褐色粒	ミガキ摩滅、底部ナデ	ハケメ・ナデ	G-52	G273・283	
118	床4	甕	A		(21.6)		口1/3	褐～暗褐	石英、灰色粒	口唇LR縄、頸部鎌状、胴部波状5段・垂下6単位、胴下部ハケメ摩滅	ハケメのち粗なミガキ	G-43	G275・277・284・286・702	119と同一個体か
119	床4	甕				(7.0)	底完	褐～暗褐	石英、灰色粒	ケズリのちミガキ、底部ナデのちミガキ	ハケメのち粗なミガキ	G-43	G275・277・284・286・702	118と同一個体か
120	床4	甕	A2	(26.0)	(22.4)	8.4	口5/12底一部欠	暗褐～黒	灰・褐色粒	口唇LR縄、胴上部ハケメのち縦羽状条痕・下部ミガキ、底部ナデ	ハケメのち密なミガキ	G-124	G269・283・284	
121	旧43住	ミヅフ	鉢	1.55	3.2	1.8	口・底完	暗褐	雲母、灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ナデ、底部ナデ	ナデ	G-73	G722	
122	旧43住	ミヅフ	鉢	2.25	3.6	2.4	口・底完	淡褐～褐	雲母、白・灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ミガキ、底部ナデ	ナデ	G-72	G724	
123	旧43住	壺	A2				頸胴部大片	黒～褐	雲母、灰色粒	頸部LR縄文・沈線、工具ナデのちハケメ・粗いミガキ	工具ナデ・ハケメ	43-6	G113・386・388・390	頸部焼成後穿孔1
124	旧43住	高杯?			(17.0)		口1/8	暗褐～黒	灰・褐色粒	ミガキ	ミガキ摩滅	43-4	43住391	内面赤彩、一部鉄分付着
125	旧43住	高杯?			(13.4)		口1/12	暗赤褐～黒	灰・褐色粒	口縁ヨコナデ・ケズリのちミガキ	ミガキ摩滅	G-100	G072	
126	旧43住	壺					頸胴部大片	黒褐	雲母、灰色粒	頸部LR縄のち横線5本・弧線2段、斜ハケメのち胴上部斜ミガキ・中位横ミガキ	ハケメのち工具ナデ	43-5	G073・108・114・377・385・387・392	
127	旧43住	壺			(11.2)		口1/4	暗褐	長石、灰・褐色粒	口唇LR縄摩滅、頸部LR縄摩滅	摩滅	G-7	G391	
128	旧43住	台付甕				5.6	底完	褐～暗褐	雲母、灰・褐色粒	ハケメ・ナデ・ヨコナデ・工具ナデ	ミガキ摩滅	43-3	43住378	
129	旧43住	甕	A1		(14.2)		口1/2	灰褐～暗褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、胴部ハケメのち縦羽状条痕	ハケメのちミガキ	43-1	G382	
130	旧43住	甕	B1		(12.2)		口3/4	褐～暗褐	雲母、灰色粒	口唇LR縄、口縁波状、頸部工具ナデ、胴上部波状、胴下部ハケメのちミガキ	ハケメのちミガキ	G-1	G112・113	台付甕の可能性
131	旧43住	壺?			(23.6)		口1/8	褐～暗褐	石英、灰・褐色粒	口唇笠ギザミ、口縁摩滅	ナデ摩滅			
132	旧43住	甕				8.8	底完	暗橙褐～黒	雲母、長石、灰・褐色粒	ハケメのちミガキ、底部ナデ	ハケメのちミガキ	43-2	43住372	
133	旧43住	鉢				6.2	底完	暗赤褐～黒	雲母、灰・褐色粒	ケズリのちミガキ、底部ミガキ	ミガキ	G-106	G074	内外赤彩
134	グリッド	鉢			(11.0)		口一部	橙褐	灰・褐色粒	ミガキ摩滅	ミガキ	46-3	46住441	
135	グリッド	甕	B1		(13.4)		口1/12	橙褐	雲母、白・灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁波状・貫通孔、胴部ハケメのち横羽状条痕	ハケメのちミガキ	46-2	46住441	台付甕の可能性
136	グリッド	壺			(17.2)		口1/5	暗褐	雲母、長石、灰・褐色粒	口縁LR縄摩滅のち山形、ミガキ摩滅	ミガキ摩滅	G-103	G088	
137	グリッド	高杯			(6.0)		底1/6	褐～暗褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ・ヨコナデ	ミガキ摩滅	G-110	G084	内面赤彩
138	グリッド	甕	B1		(16.6)		口1/8	淡褐～暗灰褐	灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁波状(一部短線)、頸部波状(一部垂下)	ハケメのちミガキ	48-1	G477	
139	グリッド	鉢				(7.0)	底1/2	暗赤褐～灰褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ、底部ナデ	ミガキ	G-109	G089	内外赤彩
140	グリッド	高杯			(20.2)		口1/2	赤褐	石英、褐色粒	ミガキ	ミガキ	G-80	G117	内外赤彩
141	グリッド	無頭壺			(12.4)		口1/8	暗褐～黒	雲母、灰色粒	口縁ヨコナデ、胴部ハケメのちミガキ摩滅	ハケメのちミガキ摩滅	G-66	G131	内外面一部黒変
142	グリッド	甕	A		(23.1)		口1/10	淡褐～暗灰褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄摩滅、口縁ヨコナデ・工具ナデのち波状	ミガキ	49-1	G483	
143	グリッド	台付甕				(8.2)	底完	橙褐～褐	雲母、灰・褐色粒	一部ハケメ・ナデ・ヨコナデ・工具ナデ・ケズリ	ミガキ	G-65	G136	
144	グリッド	壺					頸部片	褐	灰・褐色粒	頸部横線・LR縄・ハケメのちミガキ	工具ナデ・ミガキ	49-2	G482	
145	グリッド	壺					頸部片	淡褐～暗褐	雲母、白色粒	口縁ハケメのち沈線・刺突・波状、ハケメのちミガキ	ミガキ・工具ナデ	G-98	G261	
146	グリッド	高杯			(6.8)		底1/4	淡褐～褐	長石、白色粒	工具ナデ・一部ハケメ・ヨコナデ、一部ミガキ	工具ナデ	G-97		
147	グリッド	鉢?			(5.9)		底3/4	淡褐～灰褐	雲母、長石、灰・褐色粒	ミガキ・ナデ、底部ナデ	工具ナデのちミガキ	G-41	G305	
148	グリッド	壺			(10.6)		底1/5	淡褐～黒褐	雲母、灰・褐色粒	工具ナデのちミガキ、底部ミガキ	ハケメ	G-40	G305	
149	グリッド	高杯					杯脚部	淡灰褐～褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ摩滅、工具ナデ	ミガキ摩滅	G-46	G309	
150	グリッド	甕			7.6		底完	暗褐	灰・褐色粒	ミガキ・ケズリ?、底部ナデ	工具ナデ	G-9	G312	
151	グリッド	鉢?			(9.0)		底1/3	暗褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ摩滅・ケズリ、底部ナデのちミガキ	ミガキ摩滅	G-6	G313	
152	グリッド	壺			(14.0)		口1/6	淡褐	灰・褐色粒	口唇LR縄、口縁ミガキ摩滅、頸部沈線・LR縄摩滅	LR縄文・ミガキ摩滅	G-5	G313	口縁内面施文
153	グリッド	鉢			(8.6)		底1/8	暗褐	雲母、長石、灰・褐色粒	工具ナデ、底部ナデ	ミガキ	G-17	G324	内面赤彩
154	グリッド	甕			5.4		底完	暗褐	灰・褐色粒	ミガキ、底部ナデ	ナデ	G-8	G322	
155	グリッド	ミヅフ	壺	8.2	4.6	5.0	口縁・底一部欠	赤褐～褐	石英、灰・褐色粒	ヨコナデ・指ナデ・指頭圧痕・ミガキのち摩滅	ミガキ	G-70	G725	内面一部・外面赤彩
156	グリッド	壺	A1				脚部大片	暗褐	雲母、長石、灰・褐色粒	ハケメ・櫛波状垂下・櫛列点刺突・篋刺突、篋沈線・重弧、縄、ボタン状貼付	ハケメ・工具ナデ・指圧痕	G-4	G321・322	
157	グリッド	壺			(8.4)		口1/4	暗褐	雲母、灰・褐色粒	口唇LR縄、沈線・山形・縄	ミガキ	G-11	G356	
158	グリッド	壺	A2	25.2	(10.5)	(6.25)	口2/3底1/4	暗褐～灰褐	雲母、灰・褐色粒	口唇櫛列点?、頸部鉤押引・横線、ハケメのちミガキ、胴下部ケズリ	ミガキ・ナデ、ハケメのち指頭圧痕	G-32	G321	
159	検出面	壺					口わずか	褐	雲母、白色粒	口縁ヨコナデ・工具ナデ、頸部縄	工具ナデ	検-14	検700	
160	検出面	ミヅフ	壺		(3.4)		口1/3	淡褐	雲母、白色粒	口縁ヨコナデ、頸部ナデ	ナデ	検-11	検706	
161	検出面	高杯					杯脚部	朱	白色粒	ミガキ摩滅・工具ナデ・ナデ	ミガキ	検-10	検715	内外赤彩
162	検出面	ミヅフ				3.2	底一部欠	褐～灰褐	雲母、灰・褐色粒	ナデ	ナデ	検-3	検697	内外一部鉄分付着
163	検出面	ミヅフ				3.9	底一部欠	暗褐	石英、灰・褐色粒	工具ナデ、底部ナデ	工具ナデ	検-2	検693	
164	検出面	ミヅフ	高杯			4.3	底完	暗褐	雲母、灰・褐色粒	ミガキ・ハケメ・ヨコナデ・ナデ	ミガキ	検-1	検698	
165	検出面	高杯				5.8	底一部欠	淡褐～暗褐	雲母、灰・褐色粒	凸帯貼付のちギザミ・ヨコナデ摩滅	ミガキ摩滅	検-13	検697	表面摩滅・剝離激しい
166	検出面	高杯				6.0	底一部欠	淡褐	雲母、白色粒	貼付のちギザミ・ヨコナデ・ナデ、摩滅	ミガキ摩滅?	検-7	検697	
167	S9W6	壺?					破片	淡褐～黒	雲母、長石、灰・褐色粒	目沈線外から内に穿孔、鼻貼付のちナデ・鼻孔1、口唇中央にギザミ	ハケメ		731	人面付土器

番号	地点	形式	部位	紋様・調整		実測 No.	注記	備考	番号	地点	形式	部位	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
				外面									外面				
171	51住	壺	口	口唇LR縄、縄、ナデ		51-3	G122		222	51住	甕	頸胴	頸等簾状、胴櫛縦羽状、内：やや粗いミガキ	51-13	G177		
172	51住	壺	口	口唇縄、縄+笠山形・横線、ナデ		51-24	G182		223	51住	甕	胴	櫛波状多段、内：粗いミガキ	51-14	G177		
173	51住	壺	口	ナデ、櫛波状		51-27	G186		224	51住	甕	胴	ナデ、櫛縦羽状、内：粗いミガキ	51-22	G188		
174	51住	壺	口	LR縄、内：ミガキ		51-40	G238		225	51住	甕	胴	ナデ、櫛斜行条痕	51-28	G188		
175	51住	壺	口	LR縄、笠弧線摩滅		51-86	G511		226	51住	甕	胴	櫛波状+縦の櫛垂下	51-32	G234		
176	51住	甕B	口	口唇LR縄、LR縄+裏笠山形、頸櫛横線、内：ミガキ・ナデ		51-31	G234		227	51住	甕	頸胴	頸等簾状、櫛波状、内：ミガキ	51-33	G234		
177	51住	壺	口	口唇縄、LR縄+裏笠波状、ミガキ		51-41	G238		228	51住	甕	頸胴	頸櫛横線、胴櫛縦羽状	51-42	G238		
178	51住	壺	口	口唇LR縄、櫛波状		51-44	G238		229	51住	甕	胴	ハケメ、櫛波状、内：やや粗いミガキ	51-45	G238		
179	51住	壺	口	口唇LR縄、LR縄+笠山形、頸櫛横線、内：ミガキ		51-63	G497		230	51住	甕	胴	櫛波状+縦の櫛垂下、内：ミガキ	51-46	G238		
180	51住	無頭壺	口	口唇LR縄、LR縄、内：横ミガキ		51-115	G513		231	51住	甕	頸胴	櫛短線、ハケメ	51-48	G238		
181	51住	壺	口	櫛波状、ナデ		51-80	G511		232	51住	甕	頸胴	頸等簾状、胴櫛波状+笠縦山形の垂下	51-50	G451		
182	51住	壺	口	口唇LR縄、LR縄+笠山形、内：ミガキ		51-43	G238		233	51住	甕	胴	櫛波状+縦の笠波状、ナデのち縦ミガキ	51-51	G452		
183	51住	壺	口	口唇LR縄、LR縄+裏笠山形		51-118	G513		234	51住	甕	胴	櫛縦羽状、内：ミガキ	51-52	G453		
184	51住	壺	胴	ナデ、ミガキ、縄+笠弧線		51-2	G121		235	51住	甕	胴	櫛縦羽状、内：粗いミガキ	51-53	G454		
185	51住	壺	胴	LR縄+笠沈線、やや摩滅		51-5	G122		236	51住	甕	胴	櫛縦羽状	51-54	G455		
186	51住	壺	頸	LR縄+笠横線・山形		51-4	G121		237	51住	甕	胴	櫛波状+縦の櫛垂下、内：粗いミガキ	51-60	G475		
187	51住	壺	胴	笠沈線による懸垂		51-12	G177		238	51住	甕	胴	密な櫛波状	51-59	G475		
188	51住	壺	胴	縄文+笠重山形・ボタン状貼付		51-9	G174	外面朱彩	239	51住	甕	胴	櫛波状	51-61	G475		
189	51住	壺	頸	凸帯+縄、摩滅		51-8	G174		240	51住	甕	胴	櫛波状	51-56	G474		
190	51住	壺	胴	笠山形2段、笠刺突		51-6	G122		241	51住	壺	胴	LR縄文+笠山形・横線	51-57	G474		
191	51住	壺	胴	笠山形・横線摩滅、内：ミガキ摩滅		51-15	G177		242	51住	甕	胴	櫛縦羽状、内：ミガキ	51-58	G475		
192	51住	甕	胴	櫛波状、櫛波状+櫛垂下		51-17	G177		243	51住	甕	頸胴	頸等簾状、胴横羽状(斜行条痕)、内：ミガキ	51-67	G509		
193	51住	壺	胴	LR縄、縄+笠重山形、内：斜ハケメ		51-20	G181		244	51住	甕	胴	ハケメ、櫛波状	51-66	G509		
194	51住	壺	胴	LR縄+笠重山形		51-19	G181		245	51住	甕	胴	櫛波状、内：粗いミガキ	51-68	G509		
195	51住	壺	頸	縦の笠・櫛山形による懸垂、ミガキ		51-18	G178		246	51住	甕	胴	ハケメ、櫛縦羽状、一部ミガキ、内：ケズリ状後粗ミガキ	51-62	G494		
196	51住	壺	胴	櫛波状+笠山形		51-26	G183		247	51住	甕	胴	櫛縦羽状	51-70	G511		
197	51住	壺	胴	LR縄+笠山形、笠刺突・横線		51-36	G237		248	51住	甕	胴	櫛波状+ボタン状貼付	51-69	G509	台付甕?	
198	51住	壺	胴	LR縄文+笠横線+刺突		51-47	G238		249	51住	甕	胴	櫛縦羽状	51-72	G511		
199	51住	壺	頸	LR縄+笠重弧線・横線摩滅		51-49	G238	上下逆?	250	51住	甕	胴	櫛縦羽状	51-74	G511		
200	51住	壺	胴	LR縄+笠山形、笠刺突		51-29	G188		251	51住	甕	胴	櫛縦羽状	51-71	G511		
201	51住	壺	頸	凸帯上にLR縄		51-64	G508	外面全体朱彩痕残	252	51住	甕	胴	ハケメ	51-73	G511	外面炭化物付着	
202	51住	壺	頸	ナデ、凸帯上に笠キザミ		51-79	G511		253	51住	甕	胴	櫛波状、ハケメ、ナデ	51-77	G511		
203	51住	壺	頸	LR縄+笠横線		51-89	G511		254	51住	台付甕	胴	笠コの字重ね、ボタン状貼付、内：ハケメのちミガキ	51-78	G511		
204	51住	壺	頸	LR縄+笠横線		51-81	G511		255	51住	甕	胴	ハケメ、内：ハケメのちミガキ	51-75	G511		
205	51住	壺	頸	LR縄+笠横線		51-91	G511		256	51住	甕	胴	櫛波状、内：ハケメのち粗いミガキ	51-84	G511		
206	51住	壺	頸胴	LR縄+笠弧線、ていねいなナデ		51-108	G512		257	51住	台付甕	胴	笠コの字重ね、内：ミガキ	51-83	G511		
207	51住	壺	頸	LR縄+笠重弧線		51-110	G512		258	51住	甕	胴	櫛波状、内：粗いミガキ	51-85	G511		
208	51住	壺?	頸	櫛波状、櫛横短線、内：ミガキ		51-11	G176	甕?	259	51住	甕	頸	ハケメのち等簾状、内：ハケメのちミガキ	51-87	G511		
209	51住	壺	頸	ミガキ、凸帯上にLR縄		51-25	G181	外面朱彩	260	51住	甕	胴	笠縦羽状、内：ハケメのち粗いミガキ	51-88	G511		
210	51住	壺	胴	LR縄+笠山形・横線		51-37	G237		261	51住	甕	胴	櫛波状+垂下する笠山形	51-90	G511		
211	51住	甕?	口	口唇LR縄、笠横線?、内：ミガキ		51-107	G512	壺?	262	51住	甕	胴	櫛波状、内：縦ミガキ	51-92	G512		
212	51住	甕B	口	櫛波状		51-82	G511		263	51住	甕	胴	櫛波状、内：ミガキ	51-93	G512		
213	51住	甕B	口	口唇LR縄、頸櫛簾状、胴櫛波状、内：ミガキ		51-16	G177		264	51住	甕	胴	櫛縦羽状、内：ミガキ	51-96	G512		
214	51住	甕B	口	口唇LR縄、ナデ、頸櫛波状		51-23	G183		265	51住	甕	胴	櫛縦羽状、内：粗いミガキ	51-98	G512		
215	51住	甕A	口	口唇LR縄、ナデ・ハケメ、内：横ミガキ		51-10	G175		266	51住	甕	胴	櫛縦羽状、内：粗いミガキ	51-99	G512		
216	51住	甕A	口	口唇縄?、櫛波状多段		51-35	G235		267	51住	甕	胴	櫛縦羽状	51-97	G512		
217	51住	甕A	口	口唇押庄痕、頸櫛横線?		51-76	G511		268	51住	甕	胴	ハケメのち櫛波状	51-100	G512		
218	51住	甕A	口	口唇LR縄+笠キザミ、ナデ、		51-55	G463		269	51住	甕	胴	櫛縦羽状、内：ミガキ	51-101	G512		
219	51住	甕A	口	口唇笠キザミ、ナデ、		51-118	G513		270	51住	甕	胴	櫛波状	51-102	G312		
220	51住	甕	胴	ハケメのち櫛波状多段、内：やや粗いミガキ		51-1	G122		271	51住	甕	胴	櫛斜条痕、内：ミガキ	51-103	G312		
221	51住	甕	頸胴	頸等簾状、胴縦な櫛縦羽状、内：粗いミガキ		51-7	G174		272	51住	甕	頸	頸等簾状、櫛条痕、内：粗いミガキ	51-104	G512		

番号	地点	形式	部位	紋様・調整		実測 No.	注記	備考	番号	地点	形式	部位	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
				外面									外面				
273	51住	襖	胴	柳横条痕+柳縦垂下		51-109	G512		324	52住	壺?	胴	笠横線、笠刺突		52-110	G421	穿孔
274	51住	襖	頸胴	頸等簾状、胴柳縦羽状		51-105	G512		325	52住	襖A	口胴	ヨコナデ、柳横線、柳斜行条痕、内:ミガキ		52-9	G072	
275	51住	襖	胴	斜条痕(柳縦羽状?)		51-106	G512		326	52住	襖B	口	口唇笠キザミ、笠山形、柳波状		52-27	G094	
276	51住	襖	胴	柳縦羽状		51-112	G513		327	52住	襖B	口	口唇柳短線、柳波状		52-31	G097	
277	51住	襖	胴	柳縦羽状、内:ナデのちミガキ		51-113	G513		328	52住	襖B	口	頸柳波状		52-42	G410	
278	51住	襖	胴	柳縦羽状、内:ミガキ		51-114	G513		329	52住	襖A	口	頸柳横線?		52-43	G410	
279	51住	襖	胴	柳波状+縦の柳直線と柳波状垂下、内:横ミガキ		51-116	G513		330	52住	襖C	口	口唇LR縄、LR縄+2本笠波状		52-13	G104	
280	51住	台付襖?	胴	笠コの字重ね下端		51-21	G181		331	52住	襖A	口	口唇LR縄、柳縦羽状?		52-22	G139	
281	51住	襖?	胴	ミガキ、柳横線・同波状垂下、内:ミガキ		51-34	G234		332	52住	襖	口	頸太い柳山形		52-48	G412	
282	51住	台付襖	胴	笠コの字重ね		51-38	G237		333	52住	襖A	口	口唇笠キザミ、柳波状		52-51	G412	
283	51住	襖	胴	ハケメ、笠沈線(コの字重ねの変形?)		51-39	G237	台付襖?	334	52住	襖A	口	柳波状、柳縦羽状?		52-71	G423	
284	51住	襖	胴	柳波状+縦の柳垂下、内:ミガキ		51-95	G512		335	52住	襖B	口	ハケメ		52-69	G423	
285	51住	襖	胴	柳波状+縦の柳垂下+円形貼付、内:ハケメのちミガキ		51-94	G512		336	52住	襖A	口	口唇笠キザミ、柳横線		52-76	G423	
286	51住	台付襖	胴	笠コの字重ね下端		51-111	G512		337	52住	襖B	口	口唇笠キザミ		52-53	G412	
287	52住	壺?	口	口唇LR縄文、柳波状、頸柳横線、内:ミガキ		52-7	G072		338	52住	襖A	口	等簾状、柳斜行条痕		52-56	G412	
288	52住	壺	口	口唇LR縄		52-101	G543	小孔穿孔	339	52住	襖B	口	口縁柳波状、頸等簾状		52-82	G539	
289	52住	壺	胴	ハケメ、LR縄+笠山形・横線		52-1	G066		340	52住	襖B	口	笠山形		52-107	G545	
290	52住	壺	胴	ミガキ、笠複合鋸歯、柳波状		52-10	G073		341	52住	襖B	口	口唇縄、柳波状		52-60	G421	
291	52住	壺	胴	ミガキ、柳波状+笠鋸歯		52-11	G073		342	52住	襖B	口頸	等簾状、ハケメのち斜の柳条痕?		52-91	G541	
292	52住	壺	胴	笠鋸歯・斜線充填		52-16	G104		343	52住	襖B	口	口唇LR縄、LR縄+笠山形、等簾状		52-92	G542	
293	52住	壺	胴	ミガキハケメ、LR縄+笠横線		52-3	G071		344	52住	襖	胴	柳縦羽状		52-5	G171	
294	52住	壺	胴	LR縄+笠横線+笠刺突、内:ミガキ		52-6	G072		345	52住	襖	胴	柳波状+縦の柳直線垂下		52-14	G104	
295	52住	壺	胴	LR縄+笠重四角?、内:ミガキ		52-8	G072		346	52住	襖	胴	頸柳波状、柳斜行条痕		52-18	G105	
296	52住	壺	胴	LR縄+笠重山形+笠刺突		52-12	G103		347	52住	襖	胴	柳波状+縦の柳直線垂下、内:ミガキ		52-2	G070	
297	52住	壺	胴	笠区画+笠縦波状+柳縦直の懸垂		52-15	G104		348	52住	襖	頸	等簾状、内:ミガキ		52-4	G071	
298	52住	壺	胴	ハケメ、笠沈線の懸垂、摩滅		52-28	G094		349	52住	襖	頭	上部柳波状、柳縦羽状		52-21	G138	
299	52住	壺	胴	縄+裏笠横線		52-19	G105		350	52住	襖	頸	等簾状、柳波状		52-26	G094	
300	52住	壺	胴	縄+笠重弧線		52-29	G096		351	52住	襖	頸	柳横線+縦の柳直線垂下		52-33	G097	
301	52住	壺	胴	LR縄+笠山形		52-30	G097		352	52住	襖	頸	簾状?、柳波状+ボタン状貼付		52-32	G097	
302	52住	壺	胴	縄+笠山形・横線		52-35	G097		353	52住	襖	胴	縦の柳直線垂下+柳波状		52-34	G097	
303	52住	壺	胴	LR縄+2本笠横線+同笠刺突		52-36	G097		354	52住	襖	胴	粗い柳波状		52-17	G105	
304	52住	壺	胴	縄摩滅+笠横線		52-38	G410		355	52住	襖B	口	2本笠山形、柳波状		52-23	G139	
305	52住	壺	胴	笠重山形+笠刺突		52-54	G412		356	52住	襖	胴	頸等簾状(柳列点刺突)、柳縦羽状		52-37	G133	
306	52住	壺	胴	縦の笠山形と縦の柳山形垂下		52-41	G410		357	52住	襖A	口	口唇縄、頸柳波状、柳縦羽状		52-25	G094	
307	52住	壺	胴	笠横線+笠刺突		52-55	G412		358	52住	襖	胴	等簾状、柳縦羽状		52-20	G138	
308	52住	壺	胴	LR縄+笠重山形		52-64	G422		359	52住	襖	頸	頸柳横線、柳波状		52-39	G410	
309	52住	壺	胴	ハケメ		52-73	G423		360	52住	襖	胴	ハケメ+柳波状		52-40	G410	
310	52住	壺	胴	縄+裏笠(2本笠?)横線		52-79	G539		361	52住	襖	胴	ハケメ+柳縦羽状		52-46	G412	
311	52住	壺	胴	LR縄+笠横線、縄+笠重山形		52-88	G541		362	52住	襖	胴	柳縦羽状		52-44	G410	
312	52住	壺	胴	柳刺突、笠横線+柳横線		52-85	G539		363	52住	襖	胴	ハケメ+柳縦羽状?		52-45	G410	
313	52住	壺	胴	太い柳波状?、柳波状+柳横線		52-99	G543		364	52住	襖	胴	柳縦羽状		52-47	G412	
314	52住	壺	頸	LR縄+笠横線		52-77	G423		365	52住	襖	胴	ハケメ+柳波状		52-49	G412	
315	52住	壺	胴	笠山形		52-80	G539		366	52住	襖	胴	柳波状		52-50	G412	
316	52住	壺?	頸	斜条痕		52-84	G539		367	52住	襖	胴	柳波状		52-52	G412	
317	52住	壺	頸	凸帯+笠横線・キザミ		52-87	G540		368	52住	襖?	襖?	笠縦線		52-61	G421	
318	52住	壺	胴	LR縄+笠横線+笠刺突		52-97	G542		369	52住	襖	胴	等簾状?、柳縦羽状?		52-58	G421	
319	52住	壺	胴	笠縦線+縦の柳波状垂下による懸垂		52-100	G543		370	52住	襖	胴	ハケメ+柳斜行条痕		52-57	G412	
320	52住	壺	頸	縄+笠横線		52-106	G545		371	52住	襖	頸	簾状、柳斜の条痕		52-62	G421	
321	52住	壺	胴	LR縄+笠山形		52-103	G544		372	52住	襖	頸	柳横線、柳波状		52-65	G422	
322	52住	壺	頸	笠刺突、笠重弧線		52-102	G543		373	52住	襖	胴	柳波状		52-66	G423	
323	52住	壺	胴	柳横線、縦の柳波状垂下		52-105	G545		374	52住	襖	胴	ハケメ+柳波状		52-67	G423	

番号	地点	形式	部位	紋様・調整		実測 No.	注記	備考	番号	地点	形式	部位	紋様・調整		実測 No.	注記	備考
				外面									外面				
375	52住	襖	頸	ハケメ+等簾状		52-72	G423		426	溝302	襖C	口	口唇・口縁LR縄、等簾状		溝302-32	溝679	
376	52住	襖	胴	頸櫛波状、ハケメ+櫛縦羽状		52-74	G423		427	溝302	襖A	口	櫛波状、摩滅		溝302-33	溝679	
377	52住	襖	胴	簾状、縦の櫛直線垂下+ボタン状貼付、櫛波状		52-70	G423		428	溝302	襖A	口	口唇LR縄、櫛波状		溝302-34	溝680	
378	52住	襖	胴	櫛横線、縦の櫛直線垂下、櫛波状		52-68	G423		429	溝302	襖B	口	櫛波状、ナデ、内：粗いミガキ		溝302-36	溝681	
379	52住	襖	胴	櫛縦羽状		52-75	G423		430	溝302	襖A	口	等簾状、櫛縦羽状		溝302-38	溝682	
380	52住	襖	胴	櫛縦羽状		52-78	G423		431	溝302	襖B	口	櫛波状、等簾状、櫛縦羽状		溝302-40	溝683	
381	52住	襖	胴	等簾状、櫛波状		52-81	G539		432	溝302	台付襖	胴	LR縄+笠コの字重ね、内：横ミガキ		溝302-7	溝658	
382	52住	襖	胴	櫛波状		52-86	G540		433	溝302	襖	胴	櫛斜走短線		溝302-15	溝670	
383	52住	襖	胴	櫛縦羽状		52-90	G541		434	溝302	襖	胴	櫛横線、櫛波状+縦の笠波状垂下		溝302-25	溝672	
384	52住	襖	胴	櫛波状		52-89	G541		435	溝302	台付襖	胴	細笠複合鋸歯+円形貼付		溝302-20	溝672	
385	52住	襖	胴	頸櫛波状、櫛縦羽状		52-93	G542		436	溝302	襖	胴	櫛縦羽状		溝302-26	溝672	
386	52住	襖	胴	ハケメ+縦の櫛直線垂下+櫛波状		52-95	G542		437	溝302	襖	胴	櫛波状+縦の櫛直線垂下+円形貼付		溝302-30	溝673	
387	52住	襖	頸	等簾状		52-83	G539		438	溝302	襖	胴	櫛斜行条痕		溝302-27	溝672	
388	52住	襖	胴	ハケメ+櫛波状		52-96	G542		439	溝302	台付襖	胴	笠複合鋸歯+円形貼付		溝302-39	溝682	
389	52住	襖	胴	頸櫛横線、櫛縦羽状		52-94	G542		440	溝302	襖	胴	雑な等簾状、櫛斜行条痕		溝302-35	溝681	
390	52住	襖	胴	簾状？、櫛縦羽状		52-98	G543		441	溝302	襖	胴	等簾状(櫛刺突)・櫛縦羽状、内：粗いミガキ		溝302-42	溝683	
391	52住	襖	胴	櫛波状		52-104	G544		442	溝302	襖？	胴	櫛波状、櫛斜走短線		溝302-41	溝683	壺の可能性
392	52住	襖	胴	櫛波状		52-108	G545		443	溝302	壺	口	ナデ、無紋、内：LR縄、笠キザミ		G-92	G222	
393	52住	襖	胴	櫛波状+縦の櫛直線垂下		52-109	G545		444	溝302	壺	頸	笠横線+笠波状		G-98	G258	
394	52住	台付襖	胴	笠コの字重ね		52-24	G141		445	溝302	壺	頸	笠直線と櫛直線・山形の垂下による懸垂		G-105	G292	
395	53住	襖？	胴	縄		53-1	G552		446	溝302	壺	胴	ハケメのち笠山形・横線		G-107	G297	
396	53住	襖	胴	櫛波状		53-2	G553		447	溝302	襖B	口	口縁笠山形、櫛波状		G-97	G258	
397	土坑	台付襖？	胴	LR縄+笠コの字重ね		G-111	G573		448	溝302	襖A	口	口唇LR縄、頸櫛波状、櫛縦羽状		G-95	G246	
398	土坑	壺	胴	縦の笠山形垂下、笠横線+縄		G-113	G607		449	溝302	襖A	口	口唇笠キザミ、等簾状、櫛縦羽状		G-96	G247	
399	土坑	壺	胴	縦の笠山形垂下と円形刺突による懸垂		G-110	G565		450	溝302	襖	胴	櫛(斜～横走)短線		G-106	G290	
400	土坑	壺	胴	櫛波状+ボタン状貼付		G-112	G598		451	溝302	襖	胴	櫛波状+縦の笠波状2本垂下		G-99	G258	
401	溝302	襖B	口	口唇LR縄、櫛波状		溝302-2	G215		452	床1	壺	頸	笠横線+笠刺突、摩滅		G-1	G001	
402	溝302	襖B	口	LR縄？、櫛横線、内：ミガキ摩滅		溝302-5	溝652		453	床1	壺	胴	笠山形+笠横線		G-4	G003	
403	溝302	襖B	口	LR縄、ナデ、内：ミガキ		溝302-11	溝666		454	床1	壺	胴	櫛横線+櫛波状		G-6	G004	
404	溝302	壺	頸	櫛横線+縦の笠直線によるT字B		溝302-1	G253	外面朱彩痕	455	床1	壺？	胴	等簾状、笠による懸垂風		G-7	G004	
405	溝302	壺？	頸	LR縄		溝302-3	溝651		456	床1	壺	胴	笠横線+櫛刺突、笠横線+櫛横線		G-15	G011	
406	溝302	壺	頸	等簾状		溝302-12	溝670		457	床1	壺	頸	縄+等簾状+笠横線		G-25	G029	
407	溝302	壺	頸	笠横線・刺突、著しく摩滅		溝302-16	溝670		458	床1	壺	頸	LR縄+笠横線		G-20	G027	
408	溝302	壺	頸	凸帯上縄、著しく摩滅		溝302-18	溝672		459	床1	壺	頸	櫛横線+縦の笠直線垂下によるT字A		G-27	G029	
409	溝302	壺	胴	ミガキ摩滅、笠刺突、内：ミガキ摩滅		溝302-17	溝670		460	床1	壺	頸	ハケメ+短簾状？		G-10	G011	
410	溝302	壺	胴	笠横線、櫛波状？		溝302-19	溝672	外面朱彩	461	床1	襖B	口	口唇・口縁LR縄摩滅、等簾状		G-2	G002	
411	溝302	壺	胴	ハケメ、縄？+笠山形・横線		溝302-21	溝672		462	床1	襖A	口	等簾状		G-26	G029	
412	溝302	壺	胴	笠刺突+笠横線、笠重山形		溝302-29	溝673		463	床1	襖B	口	LR縄		G-8	G004	
413	溝302	壺？	胴	笠山形		溝302-22	溝672		464	床1	襖A	口	ヨコナデ、ハケメのち櫛波状		G-5	G004	
414	溝302	壺	胴	笠横線・山形、摩滅		溝302-37	溝681		465	床1	襖A	口	口唇LR縄、等簾状		G-13	G011	
415	溝302	襖A	口	笠横線+円形貼付		溝302-4	溝651	台付襖？	466	床1	襖A	口	口唇キザミ摩滅、等簾状		G-24	G029	
416	溝302	襖B	口	口唇縄摩滅+笠山形+円形貼付、内：ミガキ		溝302-6	溝658		467	床1	襖B	口	口唇キザミ、ヨコナデ		G-12	G011	
417	溝302	襖B	口	口唇LR縄、櫛波状、内：ミガキ		溝302-8	溝665		468	床1	襖B	口	口唇・口縁LR縄		G-9	G009	
418	溝302	襖A	口	口唇LR縄、櫛横線、内：ミガキ		溝302-9	溝666		469	床1	襖B	口	口唇LR縄、口縁LR縄+笠山形		G-21	G027	
419	溝302	襖A	口	口唇キザミ、ていねいなナデ、内：ミガキ		溝302-10	溝666		470	床1	襖	胴	櫛波状+縦の櫛直線垂下+円形貼付		G-23	G029	
420	溝302	襖A	口	口唇縄？+キザミ、ナデ		溝302-13	溝670		471	床1	襖	胴	櫛波状+縦の櫛直線垂下+円形貼付		G-32	G029	
421	溝302	襖A	口	口唇キザミ、ナデ		溝302-14	溝670		472	床1	襖	頸	頸櫛波状、櫛縦羽状		G-22	G027	
422	溝302	襖A	口	口唇キザミ、ナデ、櫛斜行条痕		溝302-23	溝672		473	床1	襖	胴	櫛波状、縦の櫛直線垂下		G-11	G011	
423	溝302	襖B	口	口唇縄キザミ、櫛横線、内：ミガキ		溝302-24	溝672		474	床1	襖	胴	櫛縦羽状		G-14	G011	
424	溝302	襖A	口	口唇縄摩滅、等簾状、内：ミガキ摩滅		溝302-28	溝672		475	床1	襖	胴	櫛縦羽状		G-3	G002	
425	溝302	襖B	口	口唇縄摩滅、笠重山形、内：ミガキ		溝302-31	溝674		476	床2	壺	口	外：無紋、内：LR縄+笠山形、突起に沈線		G-17	G015	

番号	地点	形式	部位	紋様・調整			実測 No.	注記	備考	番号	地点	形式	部位	紋様・調整			実測 No.	注記	備考
				外面										外面					
477	床2	壺	口	外：無紋、内：LR縄+笠山形、突起に沈線			G-31	G048		528	G	壺	胴	笠の単独鋸歯・横線			G-85	G171	
478	床2	壺	頸	円形貼付、笠横線+LR縄摩滅			G-43	G444		529	G	壺	胴	笠波状+笠横線			G-84	G084	
479	床2	壺	胴	ハケメのち笠キザミ・横線			G-33	G409		530	G	壺	胴	縄+笠弧線、笠横線、笠押引突			G-77	G123	
480	床2	壺	胴	ハケメのち笠横線・山形			G-109	G442		531	G	壺	胴	笠鋸歯+笠斜線充填			G-100	G262	
481	床2	壺	頸	LR縄			G-108	G442		532	G	壺	胴	笠横線、笠鋸歯			G-93	G226	
482	床2	壺	胴	LR縄+笠横線・斜線充填			G-37	G411		533	G	壺	胴	笠縄線内に縦の櫛直線と縦の笠山形による懸垂			G-87	G173	
483	床2	壺	胴	笠鋸歯			G-35	G411		534	G	壺B	口	口唇縄、口縁2本歯櫛波状、櫛横線			G-86	G172	
484	床2	壺	胴	櫛刺突+笠横線、笠山形間に櫛山形充填			G-34	G411		535	G	壺	胴	笠鋸歯・笠斜線充填			G-88	G173	
485	床2	壺	胴	櫛横線+櫛羽状、笠横線、ハケメ			G-38	G411		536	G	壺	胴	笠弧線、紋様不明			G-91	G202	
486	床2	甕B	口	LR縄+笠山形			G-16	G014		537	G	壺	胴	LR縄+笠重山形			G-76	G142	
487	床2	甕A	口	口唇縄?、櫛波状			G-39	G411		538	G	壺?	頸	笠横線・押引摩滅			G-19	G022	
488	床2	甕B	口	口縁櫛波状+円形貼付			G-36	G411		539	G	壺	頸	LR縄+2本笠(裏笠)横線			G-74	G143	
489	床2	甕A	口	口唇笠キザミ			G-32	G409		540	G	甕A	口	櫛波状、等簾状			G-101	G264	
490	床2	甕	頸	LR縄摩滅			G-41	G411		541	G	甕B	口	2本笠波状、等簾状			G-18	G022	
491	床2	甕	胴	櫛縦羽状			G-40	G411		542	G	甕A	口	口唇LR縄、頸笠(櫛?)横線			G-94	G230	
492	床2	台付甕	胴	コノ字重ね+円形貼付			G-30	G443		543	G	甕A	口	口唇LR縄、等簾状			G-75	G143	
493	床3	壺	胴	笠重弧線			G-80	G151		544	G	甕B	口	LR縄摩滅、等簾状摩滅			G-83	G084	
494	床3	甕B	口	口縁櫛波状+円形貼付、頸櫛波状			G-81	G158		545	G	甕A	口	口唇縄、櫛波状+櫛縦直線+円形貼付			G-78	G123	
495	床3	甕	胴	櫛波状			G-79	G151		546	G	甕A	口	頸櫛波状、櫛縦羽状			G-90	G119	
496	床4	壺	胴	笠刺突、笠横線+LR縄			G-103	G280		547	検	壺	検	笠横線+櫛横線			検-1	検702	
497	床4	甕B	口	LR縄摩滅+笠山形、等簾状			G-104	G285		548	検	壺	頸	凸帯上にLR縄			51(52)-14	G129	
498	床4	甕	頸	等簾状、櫛縦羽状			G-102	G280		549	検	壺	胴	縦笠線間に縦櫛波状充填の懸垂、間に笠山形垂下			51(52)-16	G131	
499	旧43住	壺	頸	笠横線+櫛刺突			G-50	G076		550	検	甕B	口	LR縄、櫛波状			検-5	検711	
500	旧43住	壺	胴	LR縄+笠重山形			G-53	G077		551	検	甕A	口	口唇LR縄、櫛波状			検-2	検700	
501	旧43住	壺	胴	LR縄+笠横線+笠弧線			G-47	G076		552	検	甕A	口	口唇縄、等簾状、櫛波状+円形貼付			検-4	検710	
502	旧43住	壺	胴	笠鋸歯			G-49	G076		553	検	甕B	口	口唇・口縁LR縄、櫛縦羽状			検-3	検710	
503	旧43住	壺	胴	LR縄+笠重山形			G-51	G076		554	検	甕	胴	櫛波状			51(52)-17	G132	
504	旧43住	壺	胴	ハケメ+櫛波状			G-52	G077		555	検	甕	胴	櫛波状			51(52)-12	G090	
505	旧43住	壺	胴	櫛波状+笠山形(鋸歯)			G-72	G109		556	検	甕	胴	櫛波状+笠刺突			51(52)-13	G129	
506	旧43住	壺	胴	縦の櫛波状垂下による懸垂			G-46	G075		557	検	甕	胴	櫛波状+縦の櫛直線垂下+円形貼付			51(52)-15	G131	
507	旧43住	壺	胴	LR縄+笠山形・横線、笠キザミ			G-48	G076		558	検	台付甕	胴	笠コノ字重ね			51(52)-18	G131	
508	旧43住	壺	胴	笠重弧線			G-55	G389		559	縄文	深鉢	胴	平行沈線による方形区画			G-28	G029	中期初頭
509	旧43住	壺	胴	笠波状			G-71	G393		560	縄文	深鉢	胴	無紋、粗製			G-42	G039	晩期
510	旧43住	壺	胴	櫛波状、笠横線			G-56	G389		561	縄文	深鉢	胴	縦条線地紋+沈線による唐草・剣先			G-82	G158	中期後葉
511	旧43住	甕B	口	口唇LR縄、櫛波状、簾状			G-65	G391		562	縄文	深鉢	胴	円形区画沈線、結節沈線			G-59	G389	中期中葉
512	旧43住	壺	胴	LR縄+2本笠横線			G-63	G391		563	縄文	深鉢	胴	沈線による区画、細沈線充填			検-6	検693	中期中葉
513	旧43住	壺?	頸	櫛短線?			G-66	G391		564	縄文	深鉢	胴	隆帯と沈線による区画			検-8	検710	中期中葉
514	旧43住	壺?	頸	凸帯上笠キザミ			G-69	G390		565	縄文	深鉢	胴	縦条線と勾玉状沈線			G-60	G389	中期後葉
515	旧43住	壺	胴	笠縦線間に縦の櫛波状充填+縦の笠波状による懸垂			G-73	G385											
516	旧43住	甕C	口	2本笠(裏笠)山形			G-70	G390											
517	旧43住	甕B	口	LR縄摩滅+笠山形			G-57	G389											
518	旧43住	甕B	口	等簾状、櫛波状			G-62	G391											
519	旧43住	台付甕?	口	櫛波状、笠コノ字重ね			G-67	G390											
520	旧43住	甕A	口	櫛縦羽状			G-58	G389											
521	旧43住	甕B	口	口唇LR縄、LR縄+笠山形			G-61	G391											
522	旧43住	甕	胴	頸櫛波状、櫛斜行条痕			G-44	G075											
523	旧43住	甕	胴	櫛波状+2本歯櫛の縦波状			G-54	G077											
524	旧43住	甕	胴	櫛横線、雑な櫛縦羽状			G-45	G075											
525	旧43住	甕	胴	櫛縦羽状			G-64	G391											
526	旧43住	台付甕	胴	笠コノ字重ね+円形貼付			G-89	G113											
527	旧43住	台付甕	胴	笠コノ字重ね			G-68	G390											

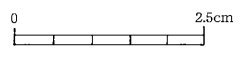
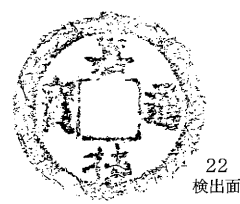
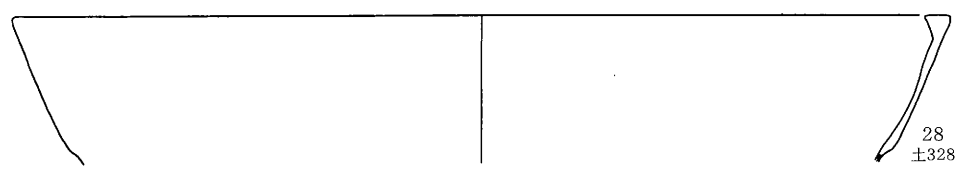
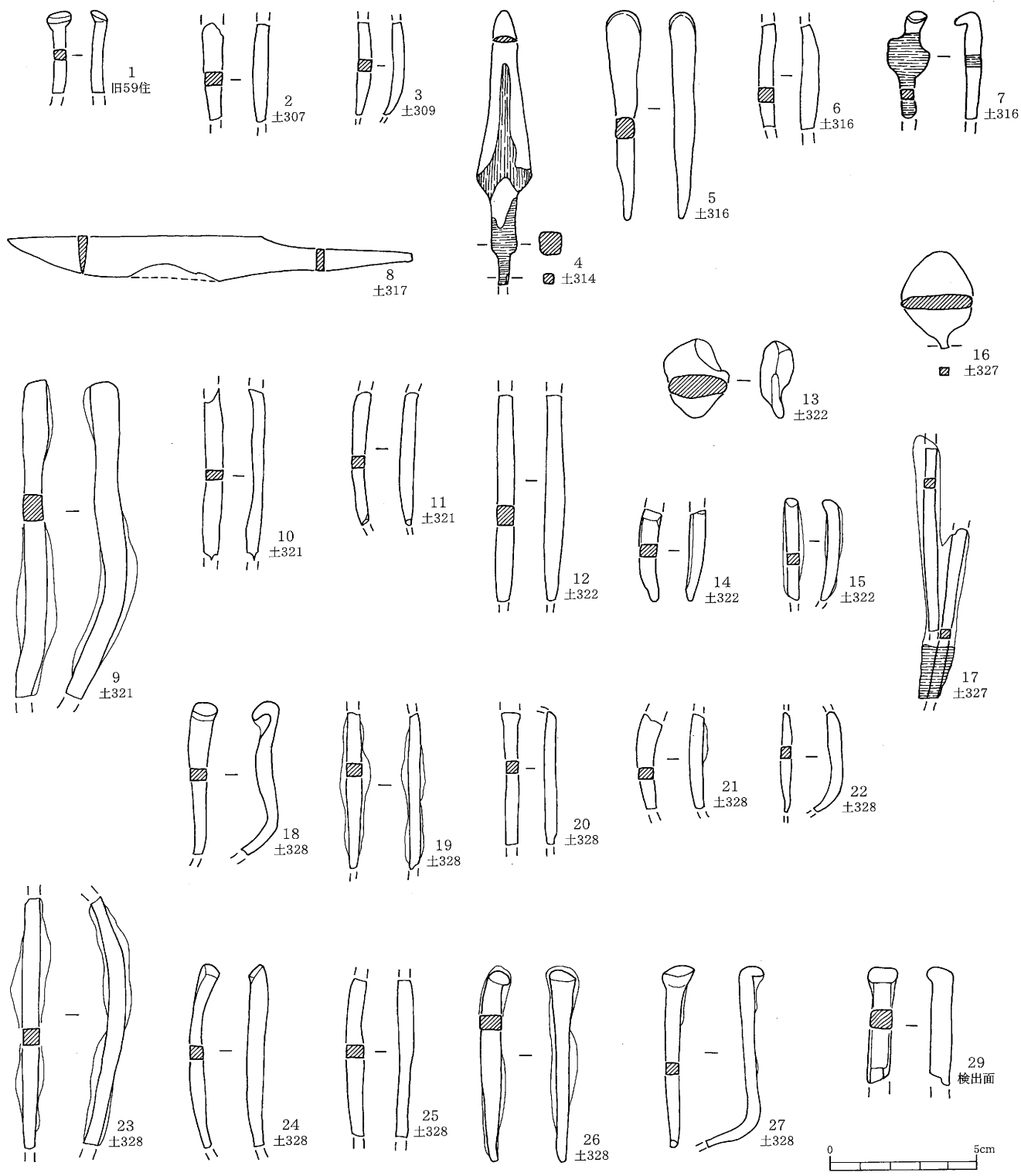
第6表 古墳時代土器観察表

No.	地点	種別	器種	残存度	口径	器高	底径	外面色調	調整(外面)	調整(内面)	備考	実測No.
1	検出面	土師器	台付甕	底1/6			7.4	淡褐色	ナデ, 端部ヨコナデ	ナデ	前期	検-9
2	土316	土師器	高杯	筒脚部のみ				橙褐色	ミガキ	工具ナデ		土-15
3	土327	土師器	高杯	杯部一部				橙褐色	ミガキ	ミガキ		土-19
4	溝302	土師器	高杯	口1/10	17.8			橙褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	上方縦ミガキ, 下方横ミガキ		溝-9
5	溝302	土師器	高杯	筒脚部のみ				橙褐色	ミガキ	ケズリ, 工具ナデ		溝-6
6	溝302	土師器	高杯	筒脚部のみ				黄褐~褐色	縦ミガキ	しぼり痕		溝-2
7	溝302	土師器	高杯	底1/2			13.4	橙褐~暗褐色	縦ミガキ, 脚端部ヨコナデ	ケズリ		溝-5
8	溝302	土師器	ミニチュア	口1/10底1/2	6.4	3.4	4.2	暗褐色	底部ナデ, 口縁ヨコナデ	ナデ		溝-8
9	溝302	土師器	杯C	口1/4	14.2			褐~暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ミガキ		溝-11
10	溝302	土師器	杯A	口一部	12			褐~暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ミガキ		溝-12
11	溝302	土師器	小型丸底壺	口1/6	8.6			暗褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ミガキ		溝-7
12	溝302	土師器	小型丸底壺	頸部				褐色	ミガキ	工具ナデ		溝-1
13	溝302	土師器	小形甕	口1/4	11			褐~淡灰褐色	ハケメ	工具ナデ		溝-3
14	溝302	土師器	甕	口1/6	13.6			暗褐色	ナデ, 口縁ヨコナデ	工具ナデ		溝-10
15	溝302	土師器	甕	口3/8	15.6			褐~暗褐色	工具ナデ, 口縁ヨコナデ	指ナデ, ハケメ		溝-4
16	S30W18	土師器	埴	底完				茶褐~暗褐色	ヘラケズリ	ハケメ状ナデ		G-49
17	S36W24	土師器	高杯	杯部一部				橙褐色~黒変	ヨコミガキ	ヨコミガキ		G-13
18	S36W18	土師器	高杯	口1/10	17.7			橙褐色	ミガキ, 口縁ヨコナデ	ヨコミガキ		G-54
19	S27W06	土師器	高杯	口1/6	17			淡褐~褐色	縦ミガキ	縦ミガキ		G-111
20	S36W24	土師器	高杯	杯部一部				橙褐色~黒変	ミガキ	ミガキ		G-18
21	S24W27	土師器	高杯	底1/6			16.2	暗褐色~黒変	ミガキ	ハケメ		G-117
22	S30W27	土師器	高杯	筒脚部のみ				褐~暗褐色	縦ミガキ, 口縁ヨコナデ	ナデ		G-39
23	S36W24	土師器	高杯	筒脚部のみ				橙褐色	縦ミガキ, 脚端部ヨコナデ	工具ナデ		G-55
24	試掘	土師器	高杯	筒脚部のみ				橙褐色	ミガキ	工具ナデ, しぼり痕, ハケメ		試-2
25	S33W15	土師器	高杯	筒脚部のみ				茶褐色	縦ミガキ, 脚端部ヨコナデ	ケズリ, ナデ		G-56
26	検出面	土師器	小型丸底壺	頸部				橙褐色	ミガキ	ミガキ		検-8
27	S21	土師器	甕	底完			3.2	暗褐色	工具ナデ, ケズリ, 端部ヨコナデ	工具ナデ		G-68
28	S30W18	土師器	甕	底完			2.9	淡褐~灰褐色	ナデ状のハケメ, 端部ヨコナデ	ハケメ状のナデ		G-48
29	S39W21	土師器	壺	口1/8	14.6			暗褐色	ヨコナデ	ヨコナデ		G-3
30	S36W24	土師器	甕	口1/3	17.4			淡褐~暗褐色	ミガキ	工具ナデ		G-57
31	S36W18	土師器	甕	口3/4底完	17.2	30.45	4.9	淡褐~灰褐色	ハケメ(のちミガキ?)	ハケメ		G-53
32	S27W21	須恵器	杯蓋	口1/3	13			暗灰色	回転ヘラケズリ, ロクロナデ	ロクロナデ	後期, MT15窯式	G-93

第7表 奈良平安時代・中世土器陶磁器・土製品観察表

時期	遺物No.	実測No.	出土地点	種別	器種	部分・残存度	口径	器高	底径	調整・胎土・色調・備考	注記	
奈良・平安	1	7	42-7	42住	灰釉陶器	広口瓶	頸~胴部			外:ロクロナデ, 下半回転ケズリ, 肩部まで施釉, 内:ロクロナデ	751	
奈良・平安	2	3	42-1	42住	土師器	杯AⅡ	口1/3底完	10.1	2.3	5	ロクロナデ, 回転糸切	752
奈良・平安	3	1	42-2	42住	土師器	杯AⅡ	口完底完	9	2.2	4.6	ロクロナデ, 回転糸切	752
奈良・平安	4	5	42-3	42住	土師器	碗	口完底完	9.55	2.8	5	ロクロナデ, 回転糸切, 付高台	752
奈良・平安	5	6	42-4	42住	土師器	杯AⅢ	口完底完	13.7	4	6.4	ロクロナデ, 回転糸切	752
奈良・平安	6	4	42-6	42住	土師器	杯AⅡ	口1/4底3/4	9.3	1.4	5.2	ロクロナデ, 回転糸切	757
奈良・平安	7	2	42-5	42住	土師器	杯AⅡ	口1/2底完	9.8	2.1	5	ロクロナデ, 回転糸切	760
奈良・平安	8			42住	須恵器	杯蓋	口縁部				混入	762
奈良・平安	9			42住	須恵器	杯	完形					764
奈良・平安	10		S18W24		土製品	轆羽口	端部				熔滓付着, 混入	376
奈良・平安	11		S18W24		土製品	轆羽口	端部				熔滓付着, 混入	376
奈良・平安	12		S36W24		土師器	?	体部				古墳以前か?	344
奈良・平安	13		S36W24		須恵器	杯蓋?	体部					345
奈良・平安	14		S36W24		須恵器	杯	底部				回転糸切	345
奈良・平安	15		S36W24		黒色土器A	?	体部					345
奈良・平安	16		S36W24		須恵器	杯	口縁部					345
奈良・平安	17		S36W24		須恵器	杯	底部				回転糸切	345
奈良・平安	18		S36W24		土師器	杯A?	口1/2	16.6			ロクナデ, ヨコナデ	350
奈良・平安	19	8	S36W24		須恵器	風字碗					内外面暗灰色, 胎土やや粗。縦21.5, 横16.0, 高さ4.3cm	
奈良・平安	20		検出面		須恵器	杯	底部				美濃須衛窯(1~5期:特に2期)	693
奈良・平安	21		検出面		須恵器	杯蓋	体部				美濃須衛窯(1~5期:特に2期)	715
奈良・平安	22		土304		黒色土器A	杯	底部				回転糸切	563
奈良・平安	23		土317		須恵器	杯	底部					577
奈良・平安	24		土317		須恵器	杯	口縁部					577
奈良・平安	25		土317		須恵器	杯	口縁部					577
奈良・平安	26	9	土-14	土324	土師器	杯AⅡ	口5/6	9.35	2.05	5	ロクロナデ, 回転糸切	581
中世	1			P308	陶器	甕	体部				東海系無釉陶器(常滑系)	613
中世	2	14	G-61	S24W33	陶器	捏鉢	口1/12	27.7			口縁肥厚, 口唇に溝, 粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。Ⅵ類。13C後半以降。75と接合	222
中世	3			S36W24	土師器	皿					手捏ね成形。在地産。13~14C	344
中世	4			S36W24	陶器	壺甕類	体部				東海系。	346
中世	5			S39W21	陶器	甕	口縁部				須恵器?	354
中世	6			土316	土師器	皿	体部~底部				手捏ね成形。在地産。13~14C	576
中世	7			土321	陶器	?	体部				灰釉掛る。山茶碗13C後半?	578
中世	8			検出面	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	691
中世	9			検出面	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	693
中世	10			検出面	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	695
中世	11			検出面	陶器	捏鉢	体部				精胎, 外面褐色, 内面自然釉。東海系	695
中世	12			検出面	陶器	壺甕類	体部				東海系無釉陶器(常滑窯系)	695
中世	13			検出面	陶器	捏鉢	体部				精胎, 外面褐色, 内面自然釉。東海系	697
中世	14			検出面	陶器	?	体部					697
中世	15			検出面	陶器	皿?	体部				灰釉。古瀬戸系?20と同一個体	697
中世	16			検出面	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系	697
中世	17			検出面	陶器	四耳壺	肩部				灰釉。耳部欠損。古瀬戸系陶器, 前期様式	701

時期	遺物No.	図No.	実測No.	出土地点	種別	器種	部分・残存度	口径	器高	底径	調整・胎土・色調・備考	注記
中世	18			検出面	陶器	捏鉢	体部				外面下半ケズリ。粗胎。13C。猿投窯系	703
中世	19			検出面	陶器	捏鉢	口縁部				口縁肥厚、口唇に溝。粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。Ⅵ類。13C後半	711
中世	20			検出面	陶器	皿?	口縁部				灰釉。ロクロ成形。15と同一個体?古瀬戸系陶器?前期様式。釉調は14Cの可能性	711
中世	21			溝302	陶器	?	体部				灰釉。東海系施釉陶器(古瀬戸系陶器)?	682
中世	22			土302	陶器	捏鉢	口縁部				口縁肥厚、口唇に溝。精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系	561
中世	23			土307	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系	565
中世	24			土307	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系	565
中世	25	10	土-2	土307	陶器	捏鉢	口1/10	22			口縁下強く押さえ、端部外反気味。外淡灰色、内淡灰色。粗胎。13C。産地不明	565
中世	26			土309	陶器	捏鉢	体部				外面下半1~2段のケズリ。粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	567
中世	27			土309	陶器	捏鉢	体部				外面下半ケズリ。粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	567
中世	28			土309	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	567
中世	29			土309	陶器	壺甕類	体部				東海系無釉陶器(常滑系)。30と同一個体	567
中世	30			土309	陶器	壺甕類	体部				東海系無釉陶器(常滑系)。29と同一個体	567
中世	31			土311	青磁	碗	体部				蓮弁紋。13C半ば?	568
中世	32	11	土-1	土311	陶器	碗	底2/3			6.2	山茶碗。高台底部に粗穀圧痕。外淡青灰~淡灰褐色、内淡灰褐色。東濃産。丸石3号窯式?13C前半	569
中世	33	12	土-9	土311	青磁	碗	口1/6~体部	11.8			鎚蓮弁紋。13C半ば?	570
中世	34			土316	陶器	甕	肩部				2条の沈線。東海系無釉陶器(常滑系)	576
中世	35			土316	陶器	甕	体部				東海系無釉陶器(常滑系)	576
中世	36			土316	陶器	捏鉢	口縁部				口縁肥厚、口唇に溝。粗胎。東海系。13C後半	576
中世	37			土316	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	576
中世	38			土316	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	576
中世	39			土316	陶器	捏鉢	口縁部				口縁下押さえ、面取り。粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	576
中世	40			土316	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系	576
中世	41			土316	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系	576
中世	42			土316	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	576
中世	43			土316	陶器	捏鉢	口縁部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	576
中世	44			土316	陶器	捏鉢	口縁部				端部外面面取り。粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C前半	576
中世	45			土316	陶器	?	底部				高台 13C。捏鉢でも山茶碗でもない。	576
中世	46			土316	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	576
中世	47			土316	土師器	皿	口縁部				手握ね成形。在地産。13~14C	576
中世	48			土316	土師器	皿	口縁部				手握ね成形。在地産。13~14C	576
中世	49			土316	青磁	碗	体部				龍泉窯。13C半ば	576
中世	50			土316	青磁	碗	体部				鎚蓮弁紋。間弁。龍泉窯。13C半ば	576
中世	51	16	土-5	土316	陶器	捏鉢	口1/10	26.8			端部外面面取り。粗胎。外淡灰色、内淡灰色。東海系無釉陶器(猿投窯系)。Ⅱ類。13C前半	576
中世	52	15	土-6	土316	陶器	捏鉢	口縁部	26			外面下半横ケズリ、口縁肥厚、口唇に溝。精胎。外淡灰白色、内淡灰色。土316の中ではやや新しいか?東海系(中津川産)。Ⅵ類	576
中世	53	17	土-7	土316	陶器	捏鉢	口1/5	30			片口付。口縁下押さえ、不定方向ナデ。粗胎。外淡灰~暗灰色、内灰~暗灰色。東海系無釉陶器(猿投窯系)。Ⅴ類。13C	576
中世	54	18	土-4	土316	陶器	摺鉢	口1/8	28.8			摺り目1単位8本。粗胎(黒色粒多混入)。在地産須恵質摺鉢。珠洲の模倣	576
中世	55	19	土-3	土316	陶器	摺鉢	底部		12.3		付高台。粗胎。外淡灰色、内淡灰色。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	576
中世	56			土321	陶器	甕	肩部				東海系無釉陶器(常滑系)。14C後半~15C	578
中世	57			土321	陶器	壺甕類	体部				東海系	578
中世	58			土321	陶器	壺甕類	肩部				東海系	578
中世	59			土321	陶器	甕	体部				東海系無釉陶器(常滑系)。14C後半~15C	578
中世	60			土321	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	578
中世	61			土321	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	578
中世	62			土321	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	578
中世	63	13	土-8	土321	陶器	甕	口1/10	31			外:茶褐色、内:茶褐色。常滑系。13C半ば	578
中世	64			土321	青磁	碗	体部				龍泉窯。13C後半~14C初頭?67と接合	578
中世	65			土322	陶器	捏鉢	体部				体部下半ケズリ?粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	579
中世	66			土322	陶器	?	体部					580
中世	67			土322	青磁	碗	体部				64と接合。龍泉窯。13C後半~14C初頭?	580
中世	68		土-11	土322	陶器	卸皿または折縁深皿	底1/10			9.5	灰釉。外:淡灰色、内:淡灰色。東海系施釉陶器(古瀬戸系陶器)	580
中世	69			土322	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系	580
中世	70			土322	陶器	壺甕類	体部				東海系無釉陶器(常滑系)	580
中世	71			土328	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系	589
中世	72			土328	陶器	捏鉢	体部				粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C	589
中世	73			土328	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系無釉陶器(常滑系)	589
中世	74			土328	陶器	捏鉢	口縁部				口縁下押さえ。粗胎。東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C。Ⅲ類	589
中世	75	14	G-61	土328	陶器	捏鉢	体部				東海系無釉陶器(猿投窯系)。13C後半以降。2と接合	589
中世	76			土328	陶器	捏鉢	体部				精胎。外面褐色、内面自然釉。東海系	589
中世	77			土328	陶器	?	体部				内外面錆釉。時期不詳。大窯(16C以降)?	589
中世	78			土328	青磁	碗	体部				鎚蓮弁紋。間弁。龍泉窯。13C半ば	589
中世	79			土328	青磁	碗	体部				鎚蓮弁紋。間弁あるか?龍泉窯。13C半ば	589



第23図 金属器

第8表 金属製品一覧表

No.	出土地点	遺構の種類	時期	器種	重量	形状・形態、残存状況及び計測値	備考
1	旧59住	不明	不明	鉄釘	1.94g	頭部のみ残存。	
2	土307	井戸址	中世	棒状不明品	2.55g	鉄釘か？全長32mm、断面径7mm	
3	土309	井戸址	中世	棒状不明品	0.83g	鉄釘か？	
4	土314	土坑	中世	鉄鏃	12.53g	基部から約90度折れ曲がる。図では伸ばして表示。	
5	土316	井戸址	中世	鉄釘	2.98g	先端部破損。	
6	土316	井戸址	中世	棒状不明品	3.67g	鉄釘か？頭部、先端部共に破損。	
7	土316	井戸址	中世	鉄釘	8.53g	完形。	
8	土317	竪穴状遺構	中世	刀子	13.15g	刃部中央破損。	
9	土321	井戸址	中世	棒状不明品	2.05g	鉄釘か？	
10	土321	井戸址	中世	鉄釘	4.46g	状態良好。先端部破損。	
11	土321	井戸址	中世	棒状不明品	32.90g	鉄釘か？	
12	土322	井戸址	中世	塊状不明品	4.64g		
13	土322	井戸址	中世	棒状不明品	7.40g	鉄釘か？	
14	土322	井戸址	中世	鉄釘	1.72g	先端部のみ残存。	
15	土322	井戸址	中世	鉄釘	2.55g		
16	土327	竪穴状遺構	中世	塊状不明品	8.09g	表面が錆で覆われ、裏面は滑らか。	
17	土327	竪穴状遺構	中世	棒状不明品	14.54g	2本の鉄釘が癒着したものか？	
18	土328	井戸址	中世	棒状不明品	12.09g	鉄釘か？	
19	土328	井戸址	中世	鉄釘	7.10g	完形。	
20	土328	井戸址	中世	鉄釘	6.22g	先端部破損。	
21	土328	井戸址	中世	鉄釘	5.98g	頭部、先端部共に破損。状態良好。	
22	土328	井戸址	中世	鉄釘	2.43g	錆付着少量。先端部破損。	
23	土328	井戸址	中世	鉄釘	3.95g	先端部破損。	
24	土328	井戸址	中世	鉄釘	4.96g	頭部、先端部共に破損。	
25	土328	井戸址	中世	鉄釘	2.15g	頭部、先端部共に破損。	
26	土328	井戸址	中世	鉄釘	1.90g	頭部、先端部共に破損。	
27	土328	井戸址	中世	鉄釘	3.90g	先端部破損。	
28	土328	井戸址	中世	鉄鍋	15.23g	内耳鍋破片か。状態良好。口縁1/26残存。口径33.0cm。	
29	検出面	検出面	？	鉄釘	6.05g	先端部破損。	
30	検出面	検出面	中世	銅銭	2.23g	直径25mm。「嘉祐通宝」の銘（北宋で初鑄年1056）。	

第9表 自然遺物一覧表

No.	所属	遺構等の時期	種類	樹種・所見等	注記・出土地点	備考
1	42住	平安	炭化物	針葉樹の樹皮（杉？）片少々	42住No.12. 990521	
2	42住	平安	炭化物	不明	42住No.13. 990521	
3	42住	平安	炭化物	スギ	42住No.14. 990521	
4	42住	平安	炭化物	スギ	42住No.15. 990521	
5	42住	平安	炭化物	スギ	42住No.16. 990521	
6	42住	平安	炭化物	コナラ小片	42住No.17. 990521	
7	42住	平安	炭化物	スギ？（保存状態悪く不明）	42住No.18. 990521	
8	42住	平安	炭化物	スギ	42住No.19. 990521	
9	42住	平安	炭化物	微小にて不明	42住No.20. 990521	
10	42住	平安	炭化物	微小にて不明	42住No.21. 990521	
11	42住	平安	炭化物	スギ	42住No.22. 990521	
12	42住	平安	炭化物	コナラ小片	42住No.23. 990521	
13	42住	平安	炭化物	コナラ小片	42住No.24. 990521	
14	S18W27	弥生	紅ガラ	Fe ₂ O ₃ 黄褐色～赤色	43住No.19. 990604	
15	S18W27	弥生	紅ガラ	Fe ₂ O ₄ 黄褐色～赤色	43住No.19. 990604	
16	S15W24	弥生	土	特になし	43住No.3. 990604	
17	S15W24	弥生	炭化物	コナラ	50住No.11. 990604	
18	51住	弥生	炭化物	コナラ小片多数	50住No.20. 990609	
19	51住	弥生	土	焼土焼レキのみ	51住炉埋壘. 990623	
20	53住	弥生	土	特になし	53住No.3. 990626	
21	S09W15	弥生	土	禾本科（アシ？）の炭化物少々	S09W15No.1. 990621	
22	S09W15	弥生	土	焼土と酸化鉄の沈殿物	S09W15. 990615	
23	S18W24	弥生	土	焼土とその周りに酸化鉄の沈殿物が付着	S18W24. 990623	
24	S21W21	弥生	炭化物	コナラ	S21W21. 990626	
25	S24W09	弥生	炭化物	コナラ	S24W09. 990524	
26	S30W06	弥生	炭化物	コナラ	S30W06. 990604	
27	検出面	？	木片	コナラ	検出面. 990521	
28	土307	中世	炭化物	スギ	土307. 990521	
29	土307	中世	木片	スギ	土307. 990531	
30	土307	中世	木片	スギ材と樹皮	土307. 990531	
31	土315	平安・中世	炭化物	スギ	土315. 990520	
32	土316	中世	木片	スギ材と樹皮	土316No.1. 990528	
33	土316	中世	木片	スギ材と樹皮	土316No.2. 990528	
34	土316	中世	木片	スギの樹皮	土316No.3. 990528	
35	土316	中世	木片	スギの樹皮	土316No.4. 990528	
36	土316	中世	木片	スギの樹皮	土316No.5. 990528	
37	土316	中世	木片	スギの樹皮	土316. 990528	
38	土321	中世	木片	スギの樹皮	土321No.1. 990601	
39	土321	中世	木片	スギの樹皮	土321No.2. 990601	
40	土321	中世	木片	スギの樹皮	土321. 990531	
41	土321	中世	木片	スギの樹皮	土321. 990601	
42	土327	平安・中世	炭化物	スギ	土327. 990526	
43	土328	中世	木片	スギの樹皮	土328No.1. 990531	
44	土328	中世	土	炭の微小片	土328No.5. 990602	
45	土328	中世	土	スギ炭の微小片	土328No.6. 990602	
46	土328	中世	木片	スギの樹皮	土328. 990601	
47	土346	弥生	炭化物	コナラ	土346. 990624	
48	溝302	古墳時代	炭化物	スギ	溝302W30. 990621	
49	溝302	古墳時代	土	特になし	溝302W30No.1. 990622	

4 石器

1. 石器群の概要

百瀬遺跡第Ⅳ次調査では検出面は不明であるものの弥生時代中期末、古墳時代中期、中世に帰属すると考えられる遺構が検出されると同時に、高密度の遺物包含層が確認された。3mグリッド単位で取り上げられた個体及び、検出面出土として取り上げられた個体が57%と全体の過半数を占めるものの、総点数1674点、総重量494,800.9gの石器が回収された。また第302号溝では古墳時代後期の土器が出土したことから小形石器の回収を目的とし、遺構覆土はすべて土嚢袋に採取され、その総数は443袋にのぼった。水洗篩い作業を実施した結果、所謂白玉15点を含む総点数479点、総重量298.8gの石器が回収された。本項では水洗篩いにより回収された石器群は割愛し、現場段階において回収された1674点の石器群を対象とした^(註1)。

石器の認定基準、回収基準及び回収精度が不明であり、なおかつ、検出面が不明であり、またグリッド回収遺物も帰属層準が不明であることから、弥生中期石器群、古墳中期石器群及び中世石器群の厳密な分離は困難と判断した。その上で接合・母岩識別作業を行った結果、接合資料26例56点を含む同一母岩資料37例83点、(接合率3.3%,平均接合個体数2.15点,母岩識別率4.9%,単独率95.1%)を確認し得た。

2. 石材概観^(註2) (第14・16表)

回収された石器群の点数比においては黒耀岩(37.4%)が圧倒的多数を占め、次いで硬砂岩(12.9%)、細粒硬砂岩(10.9%)が多い。組成率が1%を越える石材としては他に、花崗岩、礫質砂岩、珪質泥岩、変質凝灰岩、凝灰岩、変質粘板岩、チャートがある。接合資料が確認された石材としては、黒耀岩(1.4%)、溶質凝灰岩(16.0%)、花崗閃緑岩(11.1%)、花崗岩(2.3%)、蛇紋岩(13.3%)、細粒硬砂岩(4.3%)、硬砂岩(6.5%)、変質粘板岩(5.9%)、粘板岩(14.3%)、チャート(5.0%)、雲母片岩(100.0%)がある^(註3)。

3. 器種概観^(註4) (第14・15表)

回収された石器群の点数比においては10%を越えるものとして剥片、微細剥離痕のある剥片、礫片、礫片複合がある。点数比が1%以上10%未満の器種としては石核、楔状石核、楔状剥片、鏃形石器、二次加工のある剥片、打製斧形石器、磨製鏃形石器、自然礫、礫片1類、礫片2類がある。所謂定形的な器種を主体とするその他の器種についてはその点数比は1%に満たなかった。

4. 母岩別資料概観(第13表,第24~26図)^(註5,6)

中世に帰属すると考えられる遺構より出土した石器群を除いたすべての、すなわち、その多くが弥生時代に帰属すると考えられる石器群に対し接合・母岩識別作業を実施したところ、接合資料21例46点を含む同一母岩資料31例71点を確認し得た。また、井戸址等中世に帰属すると考えられる遺構より出土した石器群においては、接合資料5例10点を含む同一母岩資料6例12点を確認し得た。ここではその多くが弥生時代に帰属すると考えられる石器群において確認し得た、遺構間かもしくはそれに準ずる接合資料を概観しておきたい。

FGHSa01 R06 [693+706] (第26図) 切り合いを持たず約2mを隔てるSB53及びSK351に分布する、細粒硬砂岩製礫片及び礫片2類の遺構間接合資料である。残存率は約1/4程度である。

Ob02 R08 [1398→733→723] (第25図) 約20mを隔てるS30W6グリッド及び古墳時代中期とされるSD302W24-27に分布する、黒耀岩製剥片3点の接合資料である。残存率は約1/8程度と推定される。まず1398が通常剥離され、続いて733背面右側の剥離痕に対応する欠落剥片が通常剥離される。その後1398剥離軸より約45~90度の打面転移がなされ733が通常剥離される。733は主要剥離面形成後、斑晶により打点部側が折れている(未回収)。その後1398剥離軸より約180度の打面転移がなされ、723背面左側の剥離痕群に対応する欠落剥片群が通常剥離され、723が通常剥離される。個体の分離順序及び平面分布から、1398がS30W6グリッドにおいて剥離され、その段階で石核がSD302W24-27に搬入され、その場で733及び723が連続して剥離されたと考えるのが妥当であろうか。本石器群中唯一の分離順序が確定する母岩である。

Ob03 R09 [736+1065] (第25図) 約6mを隔てる古墳時代中期とされるSD302W27及びS21W18グリッドに分布する、黒耀岩製楔状剥片2点の接合資料である。残存率は1/16程度と推定される。接合状態では通常剥離による剥片を素材とした楔状剥片であり、両極剥離中に分離したものと考えられる。両個体共に接合面を切る両極剥離痕が認められる。

FGHSa03 R13 [809+1127] (第25図) 約12mを隔てるS9W9グリッド及びS24W6グリッドに分布する、細粒硬砂岩製楔状石核2点の接合資料である。残存率は1/4以下と推定される。摺り面に沿った剥落面で接合しており、両個体共に接合面を切る両極剥離痕が認められる。809には接合面及びそれを切る剥離痕群をさらに切る折れ面が認められる。

5. 小結

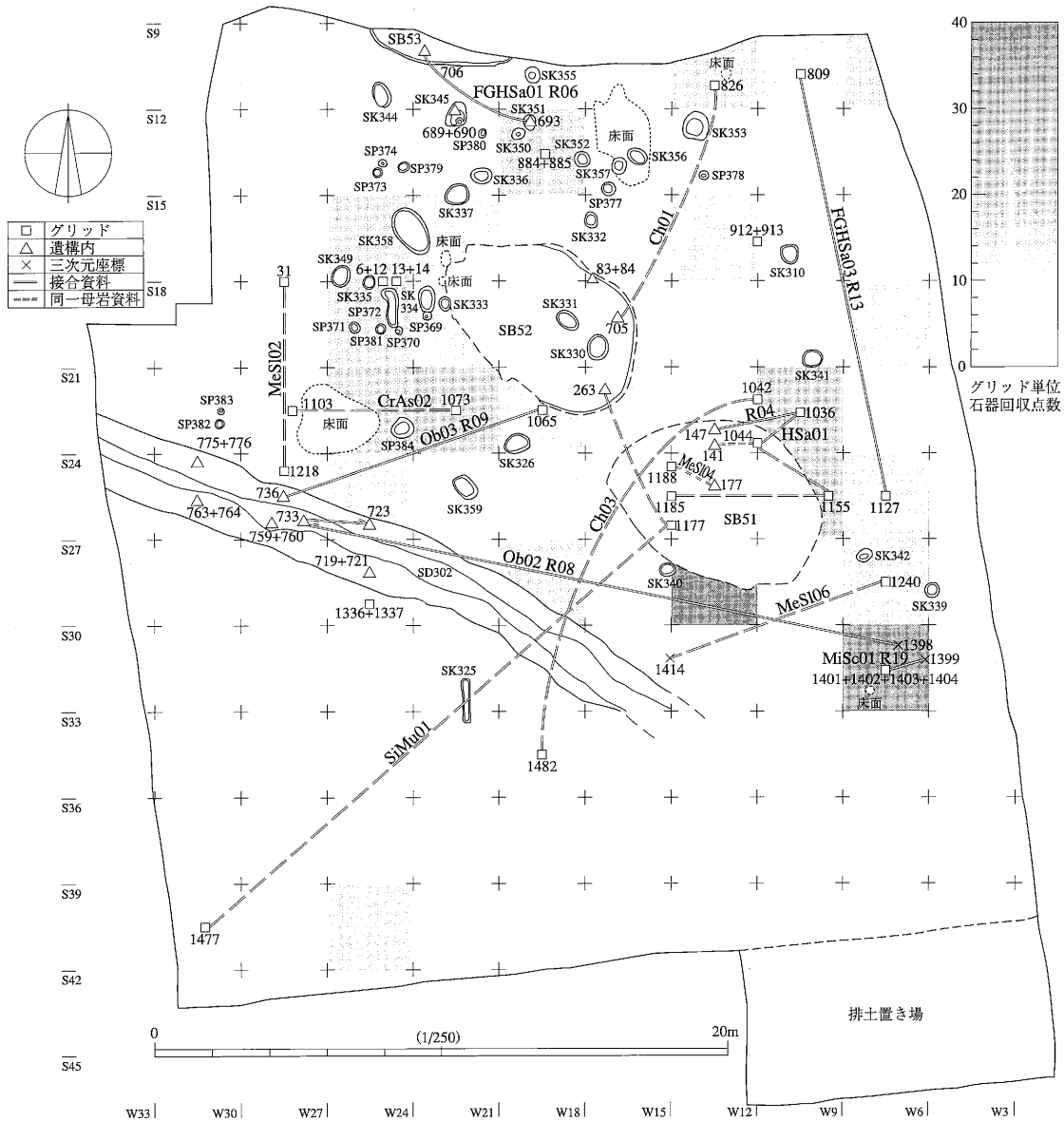
百瀬遺跡第IV次調査では検出面が不明であり、遺構の検出も困難な堆積状況、さらには遺物包含層の存在等、不利な条件が重なった中で、不明確な認定基準及び回収基準により石器が回収された。接合・母岩識別作業の結果、接合・同一母岩資料を確認し得たものの、層序不明のグリッド単位で回収された個体が多いことから三次元座標の判明する個体は著しく少なく、平面的な関係の示唆に止まらざるを得ない^(註7)。

【補註】

- 註1) しかしながら、接合・母岩識別作業は石器の認定基準、回収基準及び回収精度に直接的影響を受ける為、石器の認定基準、回収基準共に不明である本石器群の資料価値は自ずと限定されてくる。また同様の理由から、石器群としての組成論も意味を成さないことを先にお断りしておきたい。
- 註2) 黒耀岩についてはある程度の回収率には達しているものと考えられるものの、黒耀岩以外の石材については任意の取捨選択の上回収された為、すべての石材種が回収されたとも言え切れず、質量共に不明といわざるを得ない。
- 註3) 石材鑑定にあたっては森 義直氏より有益な御教唆を頂いた。記して御礼申し上げます。
- 註4) 回収率のある程度保証される黒耀岩製の個体についてはある程度の回収率が予測されるものの、黒耀岩以外の個体については任意の取捨選択の上回収された為、すべての器種が回収されたとも言え切れず、質量共に不明といわざるを得ない。また、器種分類基準は紙幅の制約から割愛した。下記文献等を参照して頂きたい(太田 1998,2000)。
- 註5) 第24図においては接合・同一母岩資料のうち、検出面回収個体を含むものはプロットしていない。また、グリッド回収個体の集計においては複数のグリッド単位で取り上げられた個体は割愛し、3mグリッド単位で回収されたものに限定した。
- 註6) 第25・26図においては個体識別番号、石材略号、器種略号、出土遺構を記した。また、接合資料については母岩番号及び接合番号を付してある。
- 註7) いうまでもないが、現場段階で任意の取捨選択がなされた石器群に対していかなる操作をしようとも、母集団の復元は不可能である。

【主要引用・参考文献】

太田圭郁 1998「石器・石製品」『境窪遺跡・川西開田遺跡Ⅰ・Ⅱ』松本市教育委員会 pp75～pp105
 太田圭郁 2000「石器」『平瀬遺跡Ⅱ』松本市教育委員会 pp93～pp122
 加島泰祐 2001「調査概要とまとめ」『平北遺跡Ⅵ』松本市教育委員会 pp10



第24図 母岩別資料分布図

遺構略号	遺構名
SB	住居址
SD	溝状遺構
SF	焼土範囲
SK	土坑
SP	ピット
SQ	遺物集中範囲
SU	埋藏
SV	自然流路
SX	不明
TG	グリップ
TK	検出面
TT	トレンチ
TY	排土
TZ	試掘
P	住居址床面ピット

第10表 遺構略号一覧

石材略号	石材名	石材略号	石材名	石材略号	石材名
Ob	黒耀岩	CoSa	礫質砂岩	Tu	凝灰岩
BQRh	黒雲母石英質流紋岩	TuSa	凝灰質砂岩	SaSl	砂質粘板岩
Rh	流紋岩	CGHsa	粗粒硬砂岩	MeSl	変質粘板岩
BAn	黒色緻密安山岩	FGHsa	細粒硬砂岩	Sl	粘板岩
An	安山岩	Hsa	硬砂岩	Ch	チャート
Do	粗粒玄武岩	Sa	砂岩	Ph	千枚岩
TuBr	凝灰角礫岩	SiMu	珪質泥岩	CrSc	結晶片岩
CrAs	溶質凝灰岩	Mu	泥岩	ChSc	緑泥片岩
GrDi	花崗閃緑岩	SaSh	砂質頁岩	MiSc	雲母片岩
QuDi	石英閃緑岩	SiSh	珪質頁岩	Ho	ホルンフェルス
Di	閃緑岩	Sh	頁岩	BiGn	片麻岩
GrPo	花崗斑岩	SiTu	珪質凝灰岩	Qu	石英
QuPo	石英斑岩	MuTu	泥質凝灰岩	Jad	翡翠
Gr	花崗岩	Sc	輝緑凝灰岩	Jas	碧玉
Po	玢岩	GTu	緑色凝灰岩	Ta	滑石
Se	蛇紋岩	MeCGTu	変質粗粒凝灰岩		
Co	礫岩	MeTu	変質凝灰岩		

第11表 石材略号一覧

器種略号	器種名
MS	原石
C	石核
F	剥片
BC	楔状石核
BF	楔状剥片
Ch	破片
FP	鏢形石器
Dr	錐形石器
Sp	ヒ形石器
Sc	スクレイパー状石器
RF	二次加工ある剥片
MF	微細刻離痕ある剥片
FA	打製斧形石器
PA	磨製斧形石器
PP	磨製鏢形石器
PK	磨製包丁形石器
P	礫
PT	礫片
PT1	礫片1類
PT2	礫片2類
PTC	礫片複合
P1	礫石器1類
P2	礫石器2類
P3	礫石器3類
PC	礫石器複合
Di	皿状石器
Ws	砥石状石器
Ac	管状石器
Si	錘状石器1
KW	錘状石器2
Su	硯形石器
Bo	有孔石製品

第12表 器種略号一覧

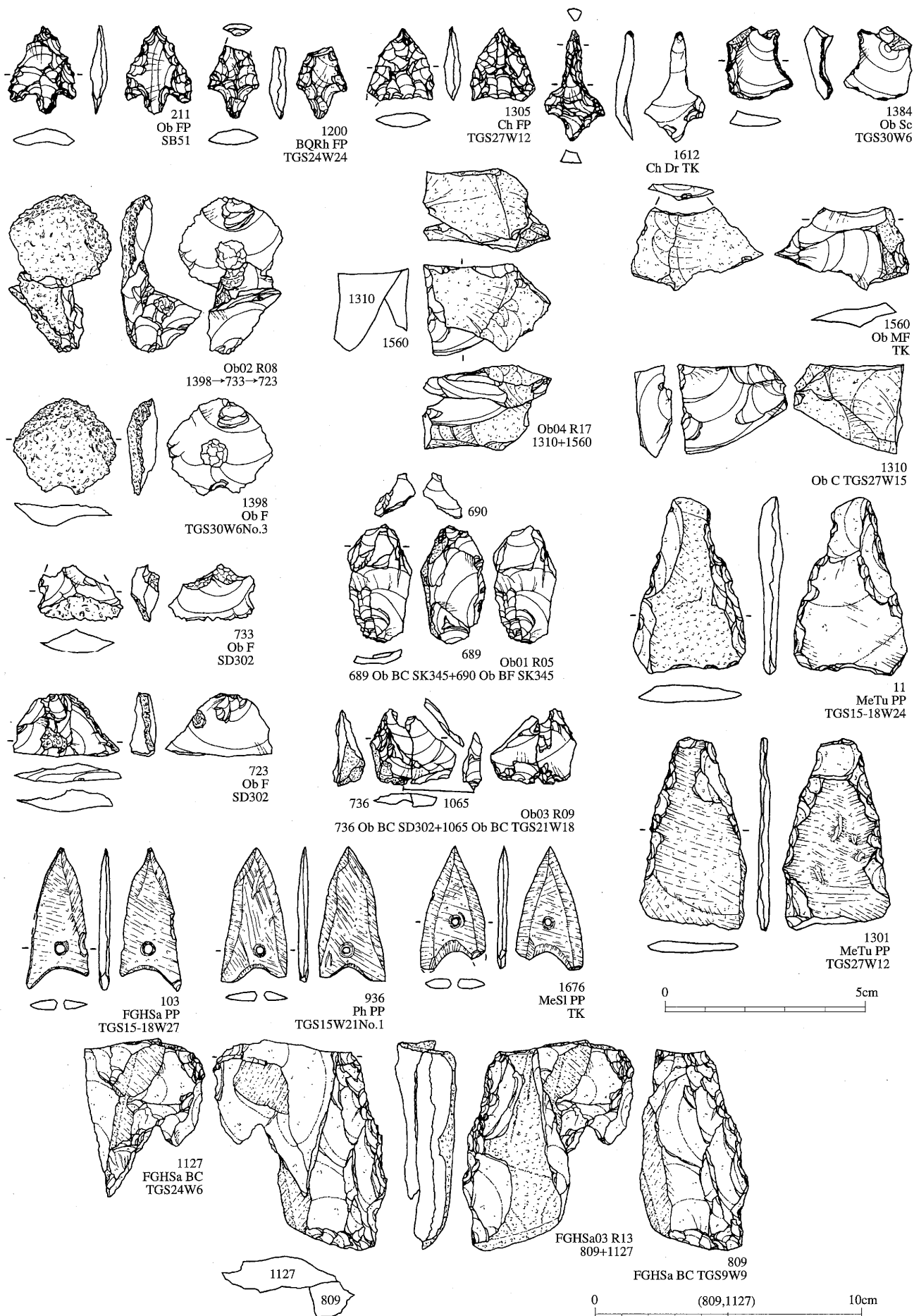
母岩ID	母岩番号	接合番号	総個体数	接合個体	ID (非接合)	出土遺構1	時期
1	MeSi01	R01	2	2	6,12	6(TGS15W24SW S18W24NW),12(TGS15W24SW S18W24NW)	弥生
2	GrDi01	R02	2	2	13,14	13(TGS15W24SW S18W24NW),14(TGS15W24SW S18W24NW)	弥生
3	MeSi02		2	0	(31),(1218)	31(TGS15W27S S18W27N),1218(TGS24W27)	弥生
4	MeSi03	R03	2	2	83,84	83(SB52S15W15),84(SB52S15W15)	弥生
5	Hsa01	R04	6	2	(141),147,1036, (1044),(1155),(1185)	147(SB51S21W12),1036(TGS21W9),141(SB51S21W12), 1044(TGS21W9-12),1155(TGS24W9),1185(TGS24W12-15)	弥生
6	MeSi04		2	0	(177),(1188)	177(SB51S24W12),1188(TGS24W12-15)	弥生
7	SiMu01		3	0	(263),(1177),(1477)	263(SB52SE),1177(TGS24W12-15),1477(TGS39W30)	弥生
8	Ob01	R05	2	2	689,690	689(SK345),690(SK345)	弥生
9	FGHsa01	R06	2	2	693,706	693(SK351),706(SB53木)	弥生
10	Ch01		2	0	(705),(826)	705(SB52NE,826(TGS9W12)	弥生
11	Ch02	R07	2	2	719,721	719(SD302W24,721(SD302W24)	弥生
12	Ob02	R08	3	3	723,733,1398	723(SD302W24),733(SD302W27),1398(TGS30W6No.3)	弥生
13	Ob03	R09	2	2	736,1065	736(SD302W27),1065(TGS21W18)	弥生
14	CrAs01	R10	2	2	759,760	759(SD302W27),760(SD302W27)	弥生
15	Hsa02	R11	2	2	763,764	763(SD302W30),764(SD302W30)	弥生
16	FGHsa02	R12	2	2	775,776	775(SD302W30),776(SD302W30)	弥生
17	FGHsa03	R13	2	2	809,1127	809(TGS9W9),1127(TGS24W6)	弥生
18	FGHsa04	R14	2	2	884,885	884(TGS12W18),885(TGS12W18)	弥生
19	MeSi05	R15	2	2	912,913	912(TGS15W9-12),913(TGS15W9-12)	弥生
20	Se01		2	0	(1039),(1606)	1039(TGS21W9),1606(TK)	弥生
21	Ch03		2	0	(1042),(1482)	1042(TGS21W9-12),1482(TGS33W18)	弥生
22	CrAs02		2	0	(1073),(1103)	1073(TGS21W21),1103(TGS21W27)	弥生
23	MeSi06		2	0	(1240),(1414)	1240(TGS27W6),1414(TGS30W15No.1)	弥生
24	Se02	R16	2	2	1308,1601	1308(TGS27W15),1601(TK)	弥生
25	Ob04	R17	2	2	1310,1560	1310(TGS27W15),1560(TK)	弥生
26	Si01	R18	2	2	1336,1337	1336(TGS27W24),1337(TGS27W24)	弥生
27	MiSc01	R19	5	5	1399,1401,1402, 1403,1404	1399(TGS30W6No.6),1401(TGS30W6),1402(TGS30W6), 1403(TGS30W6),1404(TGS30W6)	弥生
28	Hsa03	R20	2	2	1458,1649	1458(TGS36W27),1649(TK)	弥生
29	CrAs03	R21	2	2	1513,1514	1513(TK),1514(TK)	弥生
30	Ph01		2	0	(1621),(1622)	1621(TK),1622(TK)	弥生
31	MeSi07		2	0	(1654),(1674)	1654(TK),1674(TK)	弥生
32	Hsa04	R22	2	2	392,424	392(SK321),424(SK321)	中世
33	Hsa05	R23	2	2	568,658	568(SK328),658(SK328)	中世
34	Hsa06		2	0	(574),(663)	574(SK328),663(SK328)	中世
35	Hsa07	R24	2	2	585,666	585(SK328),666(SK328)	中世
36	Hsa08	R25	2	2	587,640	587(SK328),640(SK328)	中世
37	Gr01	R26	2	2	619,646	619(SK328),646(SK328)	中世

第13表 母岩別資料一覧

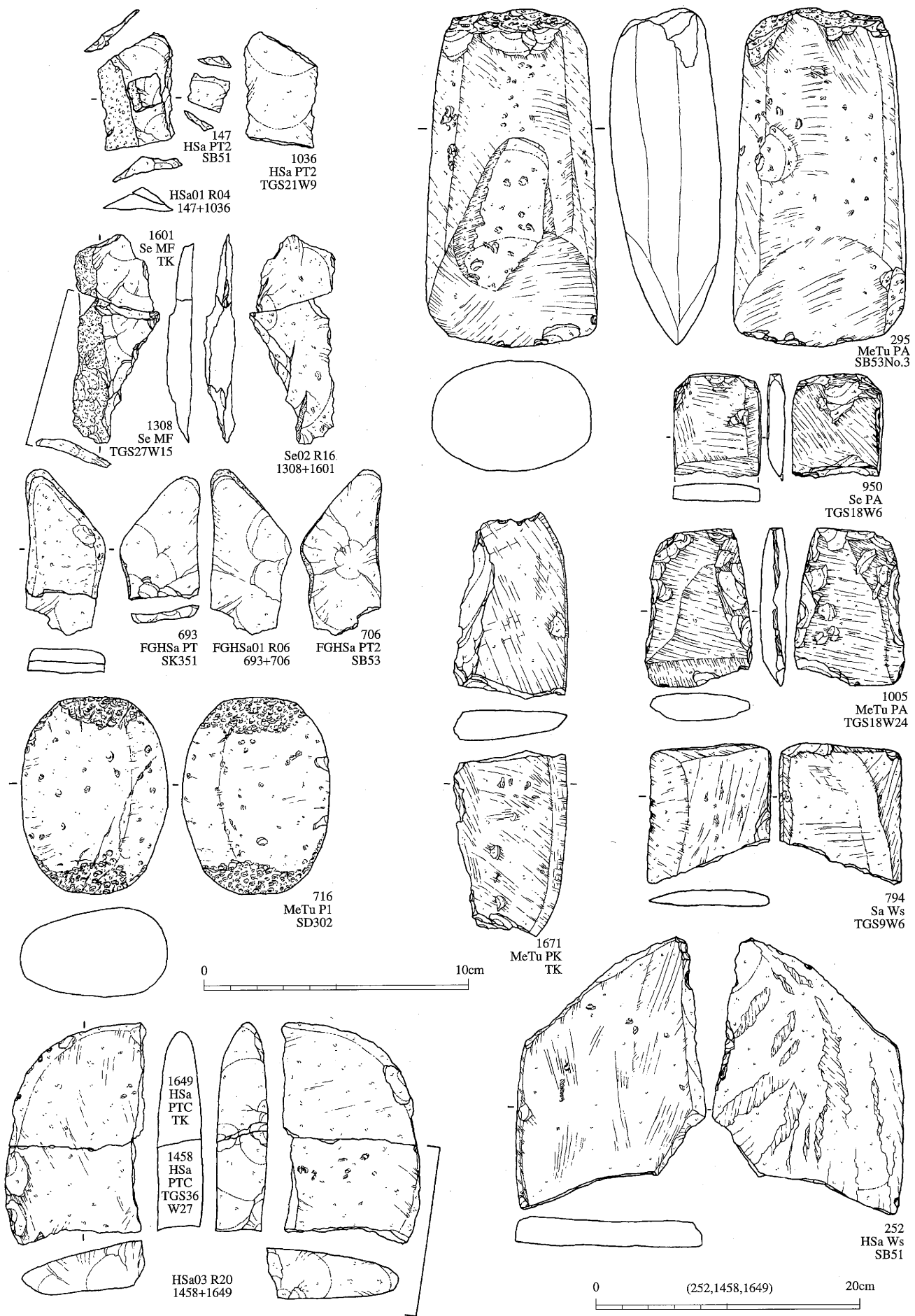
接合・同一母岩資料のうち検出面回収個体を含むものは第24図にプロットしていない。

石材略号	MS	C	F	BC	BF	FP	Dr	Sc	RF	MF	FA	PA	PP	PK	P	PT	PT1	PT2	PTC	P1	P2	PC	Ws	計	接合個体数	接合率	石材略号	
Ob	13	70	191	81	17	26	2	4	44	172						5			1					626	9	1.4%	Ob	
BQRh		1				1													3						2	0	0.0%	BQRh
Rh			1													1	5		1					10	0	0.0%	Rh	
An																			1					2	0	0.0%	An	
Do												2												3	0	0.0%	Do	
TuBr																			2					2	0	0.0%	TuBr	
CrAs															3	19	3							25	4	16.0%	CrAs	
GrDi															3	9	5			1				18	2	11.1%	GrDi	
QuDi															15	9	15	2	21	1				63	0	0.0%	QuDi	
QuPo															1	2	2		7					12	0	0.0%	QuPo	
Gr															7	10	18	1	49	1	1			87	2	2.3%	Gr	
Se			4																					15	2	13.3%	Se	
Co															2	2			1					5	0	0.0%	Co	
CoSa			1												9	16	3	1	5					35	0	0.0%	CoSa	
TuSa															1	7	1	1	2	1				13	0	0.0%	TuSa	
FGHsa			2	53	4					12	4	8	1	5	12	67	9	3	1	2	1			184	8	4.3%	FGHsa	
Hsa				9						5	1				12	31	66	10	77	2		3	1	217	14	6.5%	Hsa	
Sa			1	2											2	8	3		4				3	23	0	0.0%	Sa	
SiMu				2						2														4	0	0.0%	SiMu	
SaSh				1																				1	0	0.0%	SaSh	
SiSh				2					1	1														4	0	0.0%	SiSh	
Sh															10	2								12	0	0.0%	Sh	
SiTu				2														1						3	0	0.0%	SiTu	
MeTu			1	11	1					10		1	2	24	1				1	1	2		1	56	0	0.0%	MeTu	
Tu			1												4	29			1				5	40	0	0.0%	Tu	
SaSl															2									2	0	0.0%	SaSl	
MeSl			2	42	1	1				13	5	5	11		14	3	2		1			1	101	6	5.9%	MeSl		
Sl			4							3	1	1			1	2	1		1					14	2	14.3%	Sl	
Ch			2	11	1					3	1	5	3		3	5	3		2					40	2	5.0%	Ch	
Ph				7						4				7	1				1					20	0	0.0%	Ph	
MiSc																	5							5	5	100.0%	MiSc	
Ho															1	1	1	1						4	0	0.0%	Ho	
Qu			5	4	2	1									2	8	4							26	0	0.0%	Qu	
計	13	84	348	90	19	30	3	5	97	191	18	11	47	2	90	253	143	21	181	9	5	3	11	1674	56	3.3%	計	
石材略号	MS	C	F	BC	BF	FP	Dr	Sc	RF	MF	FA	PA	PP	PK	P	PT	PT1	PT2	PTC	P1	P2	PC	Ws	計	接合個体数	接合率	石材略号	

第14表 石材単位器種組成



第25図 百瀬Ⅳ出土石器(その1)



第26図 百瀬IV出土石器 (その2)

VI 調査のまとめ

調査結果から百瀬遺跡が従来の範囲より北側に広がること、弥生時代中期末と中世の遺構と遺物の密度が高いこと、古墳時代中期と平安時代末期の遺構と遺物もみられることがわかった。以下では各時代毎に今回の調査の意義を述べていく。

縄紋時代 今回は中期土器のわずかな出土があったのみだが、第2次調査では早期・後期の遺物と遺構が検出されており、百瀬遺跡の範囲内に縄紋各時期の集落が点在することが窺える。

弥生時代 土器・石器を中心に多量の遺物が出土したが、調査地全体を当期の遺物包含層が厚く覆い、大半はここからの出土のため、帰属遺構の特定ができないか、遺物がまとまって出土した「床面」やグリッドなどかなり曖昧な名称で捉えることしかできなかった。時期は前述のとおり弥生時代中期末で、かつて百瀬式と型式設定されたものと同じである。最終的に、この時期の遺構は3軒の住居址と約40基の土坑ピットを確認したが、遺構確認面も覆土も同様な遺物包含層の土という状況を認めざるを得なかった。本遺跡における他地点の調査では弥生時代遺構はかなり明瞭に遺構確認面が捉えられており、今回は特異な例といえよう。その原因としては、今回の地点が、本遺跡を載せる段丘状地形が消滅する若干低い位置にあたり、遺跡の北限区域であったことを挙げたい。すなわち、拠点的な集落の縁辺部にあって、居住地よりは廃棄エリアとして主に利用されていた可能性、あるいは段丘下で流路などの微弱な影響をうけていた可能性を考えたい。

出土遺物で特記される人面土器は、近年、栗林式土器圏での出土が散見されるもので、松本市内では初の発見例となった。壺の一部であろう。また、石器においては黒曜石を伴い、磨製鏃は成品とあらゆる工程の未完成品や剥片が多量に出土したのに対し、磨製斧は成品と破損品のみの確認に止まった。この傾向は松本市域における中期後半～末の遺跡に共通し、後期前半になって磨製斧が組成から失われる一方で磨製鏃は残り、同様の状況を継承している。石材供給の点から栗林式を見直そうとする近年の研究動向の一助となろう。

古墳時代 遺構に伴うものが少なく溝302上層や溝302以南の検出面上で遺物のみみられるのみである。時期は前期と後期に属する遺物が多少みられるが大半は中期に属する。溝302の性格は不明であるが当遺跡では初めて中期の遺構を検出した。溝302覆土の水洗によって得られた滑石製白玉はこの時期に属すると推定している。

平安時代 2～5次地点で遺構と遺物が検出されている。特に3次地点、5次地点では竪穴住居址が合計19軒検出され集落の中心であったと考えられるが、今回の4次地点では当該期の遺構は少ない。特徴としては風字硯が出土したこと、平安時代後期の遺物が遺構内にまとまってみられたことなどが挙げられる。風字硯は周辺での出土例が少ない。遺構からの出土ではないので帰属時期を限定はできないが、出土状況、周辺遺跡での出土例、3次、5次地点の集落の時期から考えて前期の可能性が高い。形態は海と陸を仕切る突帯に穿孔のある特殊なものである。42住で出土した土器群はこれまでの調査であまりみられなかった平安後期の土器群である。

中世 これまでの調査では2次地点と3次地点で当該期の竪穴状遺構と墓址と考えられる土坑が検出されている。出土遺物の時期はほぼ13世紀後半に属しており、4次地点でも同時期に属する遺構と遺物を検出している。当遺跡が13世紀後半の集落址であることがわかる。ただし、2次・3次地点に比べ遺構数・遺物数とも多く、建物址・井戸址などこれまで確認されなかった遺構もみられることから、集落の中心のひとつであったと考える。特徴としては井戸址が多いことが挙げられ、未完掘を含めると合計7基を数える。切り合い関係があまり見られず出土遺物の時期もあまり変わらないことから、同時期もしくは近い時期に存在していたことが考えられる。また、土328出土の鉄鍋は中世前半期の煮炊具を考える上で貴重な資料になるだろう。中世前半期の煮炊具は周辺では松本市里山辺の南方遺跡で土鍋と石鍋がみられるのみである。ただし、松本市中山千石出土の内耳鉄鍋と形態、寸法が類似しており松本市史では15～16世紀代に属する可能性が指摘されていること、また共伴遺物はほぼ13世紀代に属すると考えられるが錆蝕の陶器片は13世紀代にはみられない遺物であることなどから、鉄鍋が別の時期の遺物である可能性も残る。出土例が少なく確実なことはいえない。類例を待ちたい。

最後になりましたが今回の調査を実施するにあたり多大なご理解とご協力をいただいた株式会社アイディールならびに松電商事株式会社の皆様、また発掘調査に参加された協力者の皆様に感謝申し上げます。

参考文献

- 野村一寿 1996 「第5章 掘り出された中世の暮らし」 『松本市史 第2巻 歴史編Ⅰ 原始古代中世』
松本市教育委員会 2000 『松本市文化財調査報告No144 松本市竹淵南原遺跡Ⅱ』

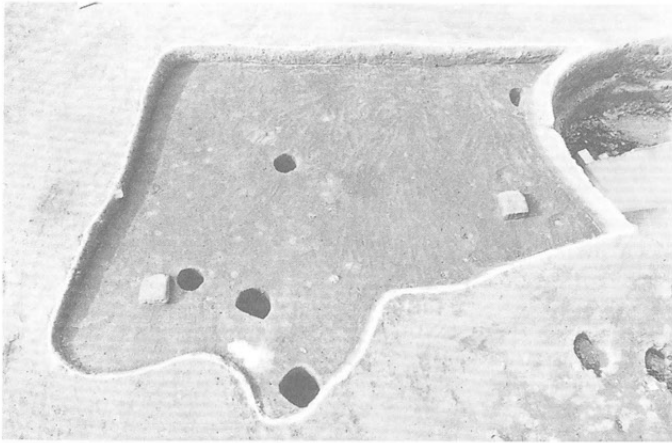


調査地全景（弥生面、写真上方が西）



調査地全景（南上空から写す。左上方の道路は県道新茶屋・塩尻線）

写真図版 2



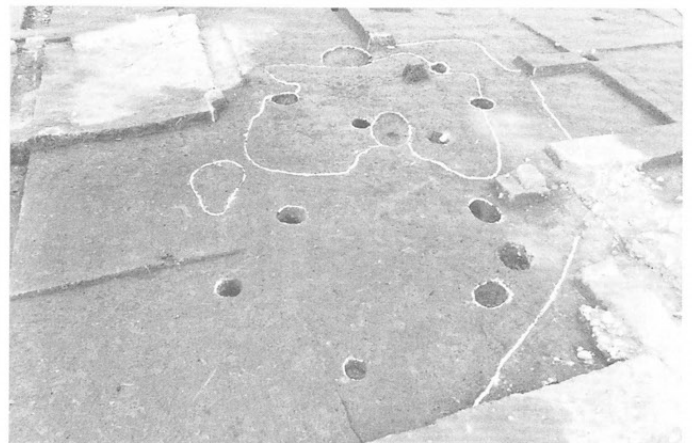
42住完掘



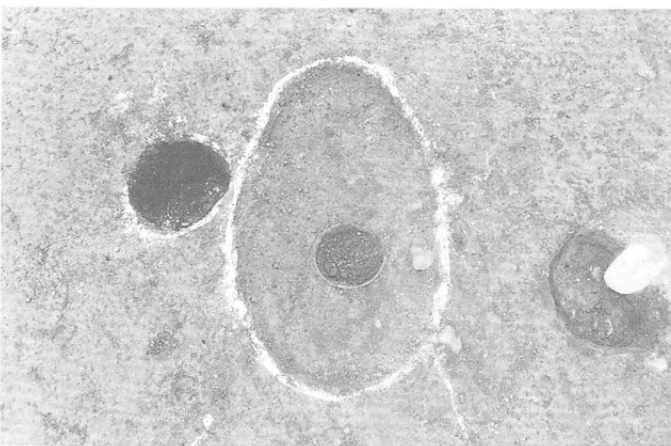
42住遺物出土状況



51住完掘（北から）



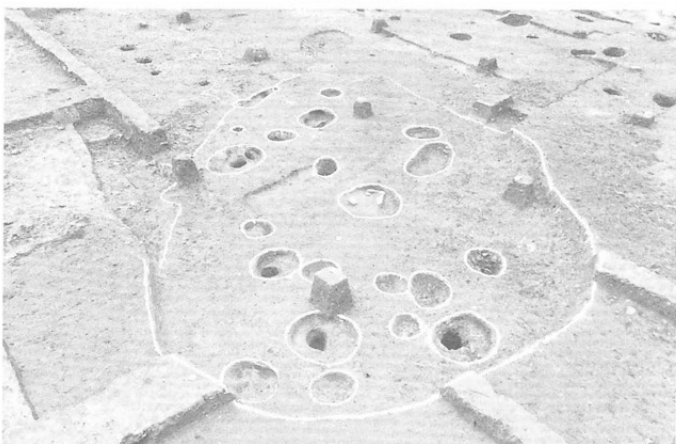
51住完掘（西から）



51住炉址



51住炉址断面



52住完掘（南西から）



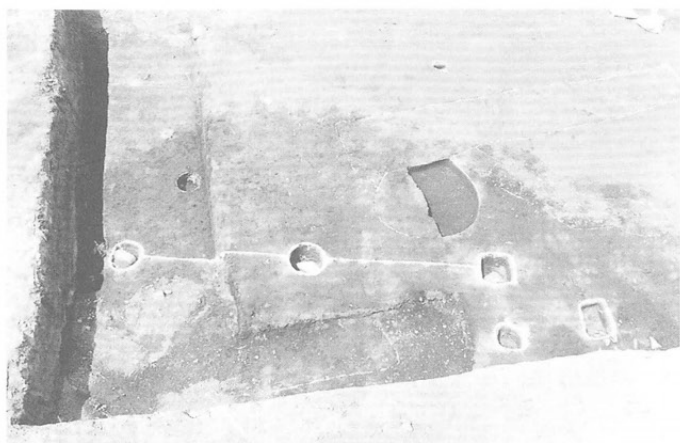
52住完掘（北東から）



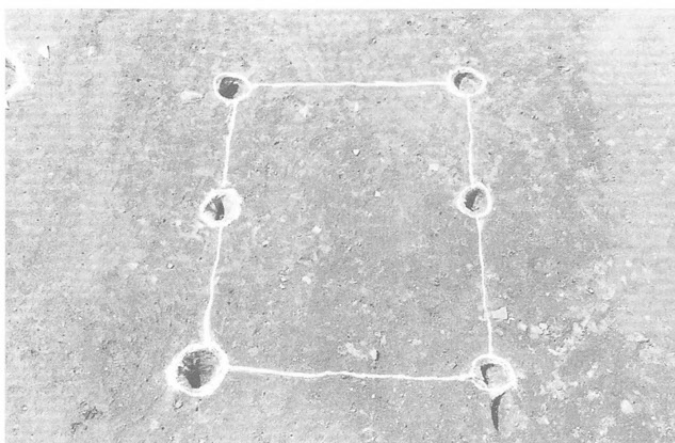
52住炉址



53住遺物出土状況



建301



建302



土302完掘



土302礫出土状況

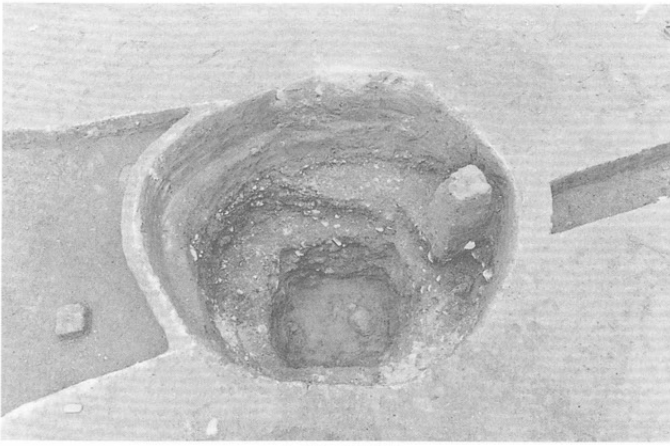


土311完掘



土326上層礫出土状況

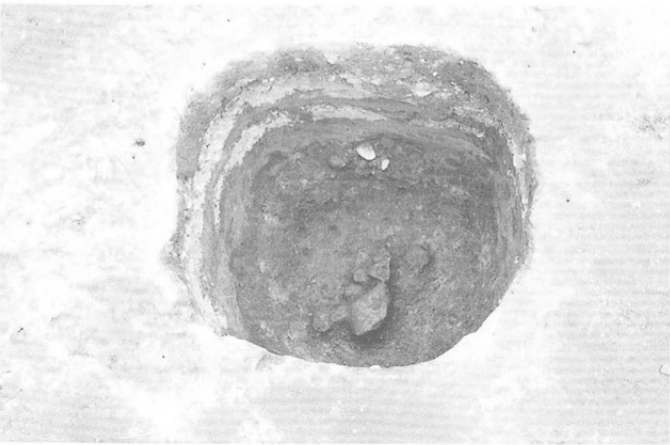
写真図版 4



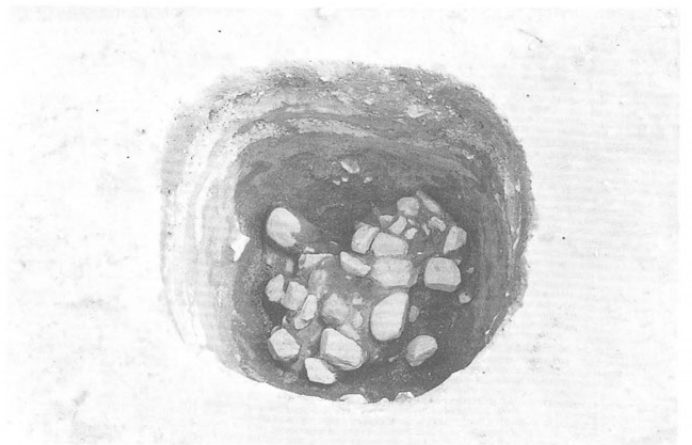
土316完掘



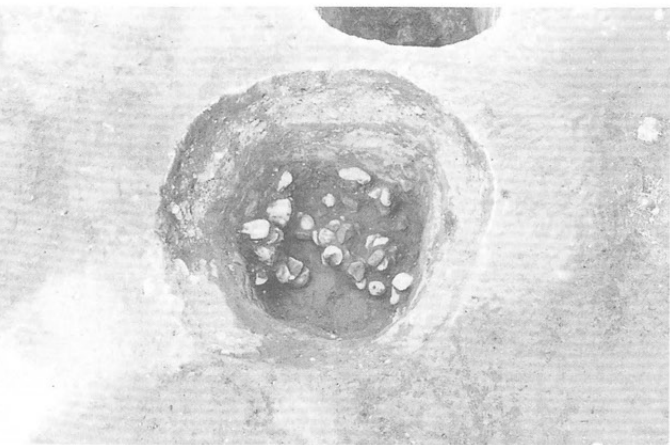
土316底部井戸杵痕



土322完掘



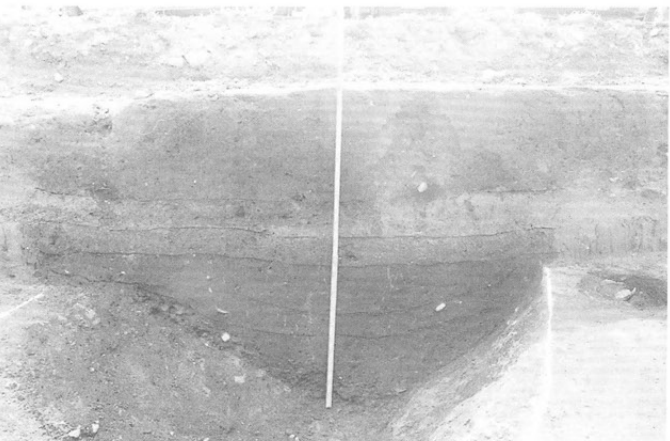
土322下層礫出土状況



土321下層礫出土状況



陶碗（風字碗）出土状況



溝302西端土層



調査風景（南から）



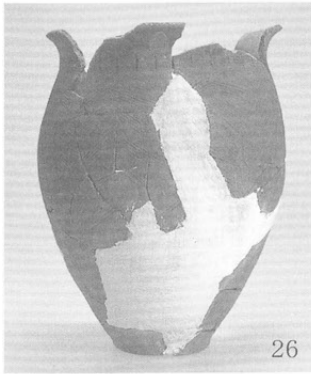
9



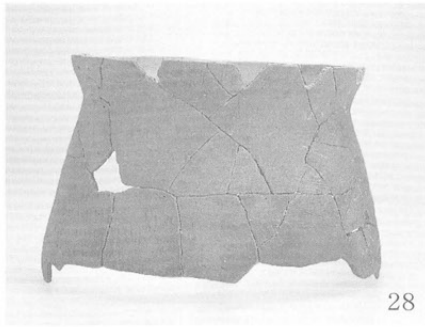
22



24



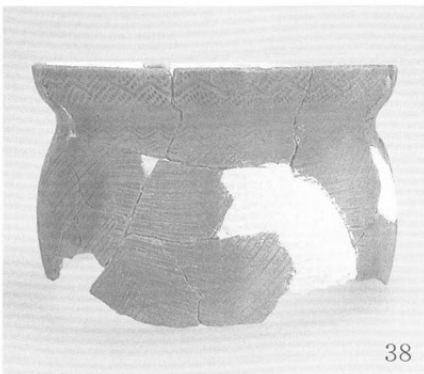
26



28



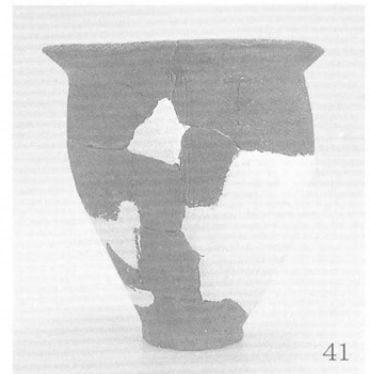
33



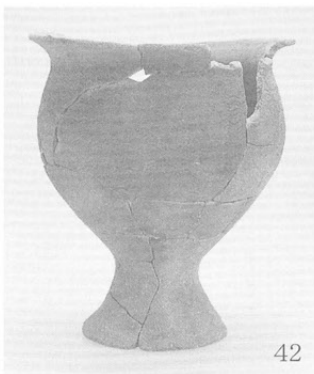
38



39



41



42



54



107



118

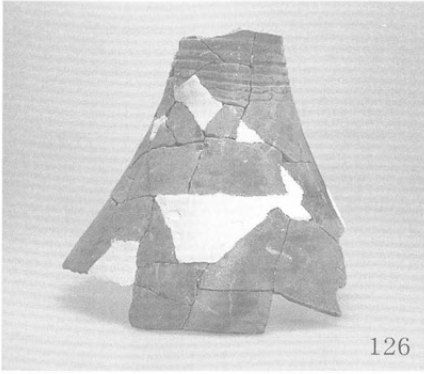


120



123

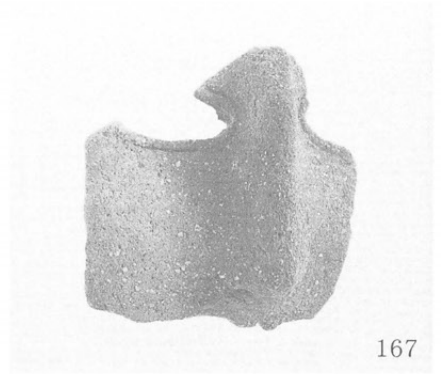
弥生土器 写真(1)



126



158



167



弥生土器・土製品小形品

左上：128、その左下：75、その右：121、その下：122
中央：155、その右：90、その右下：50

弥生土器 写真(2)



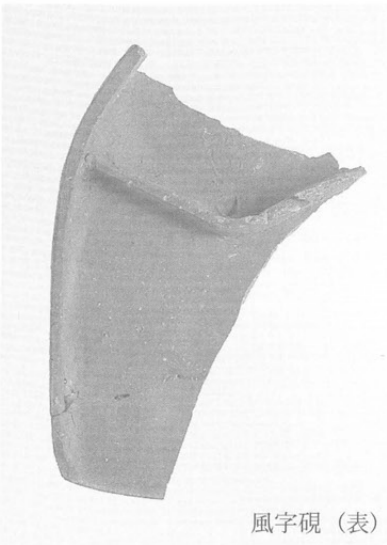
古墳31



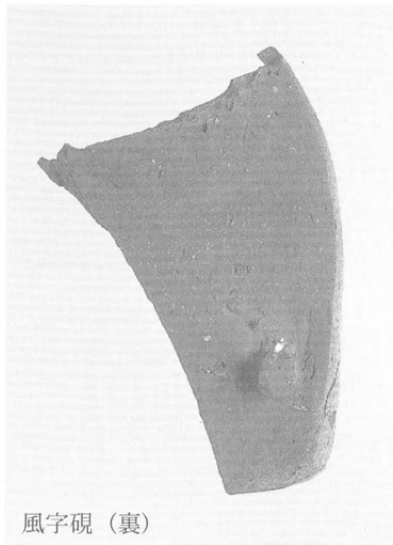
古墳32



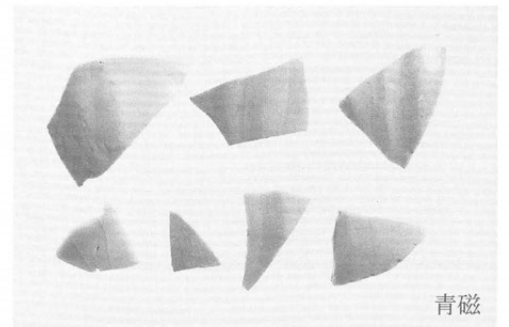
42住出土品



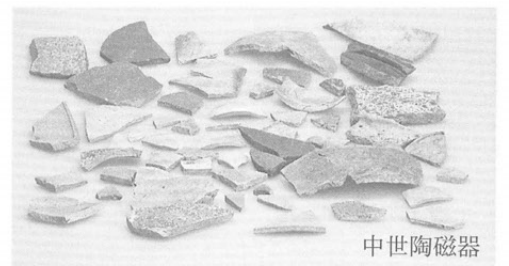
風字硯 (表)



風字硯 (裏)

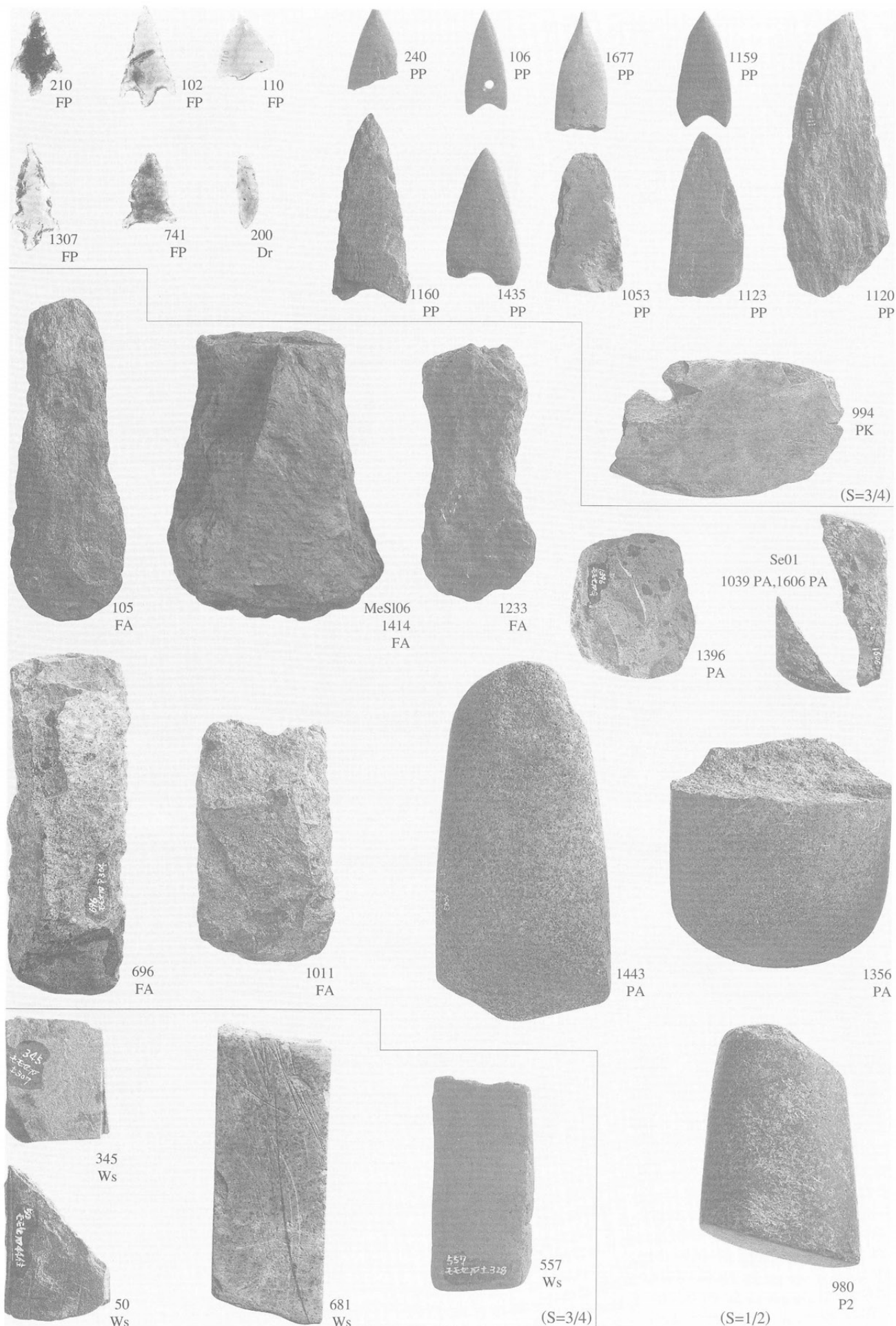


青磁

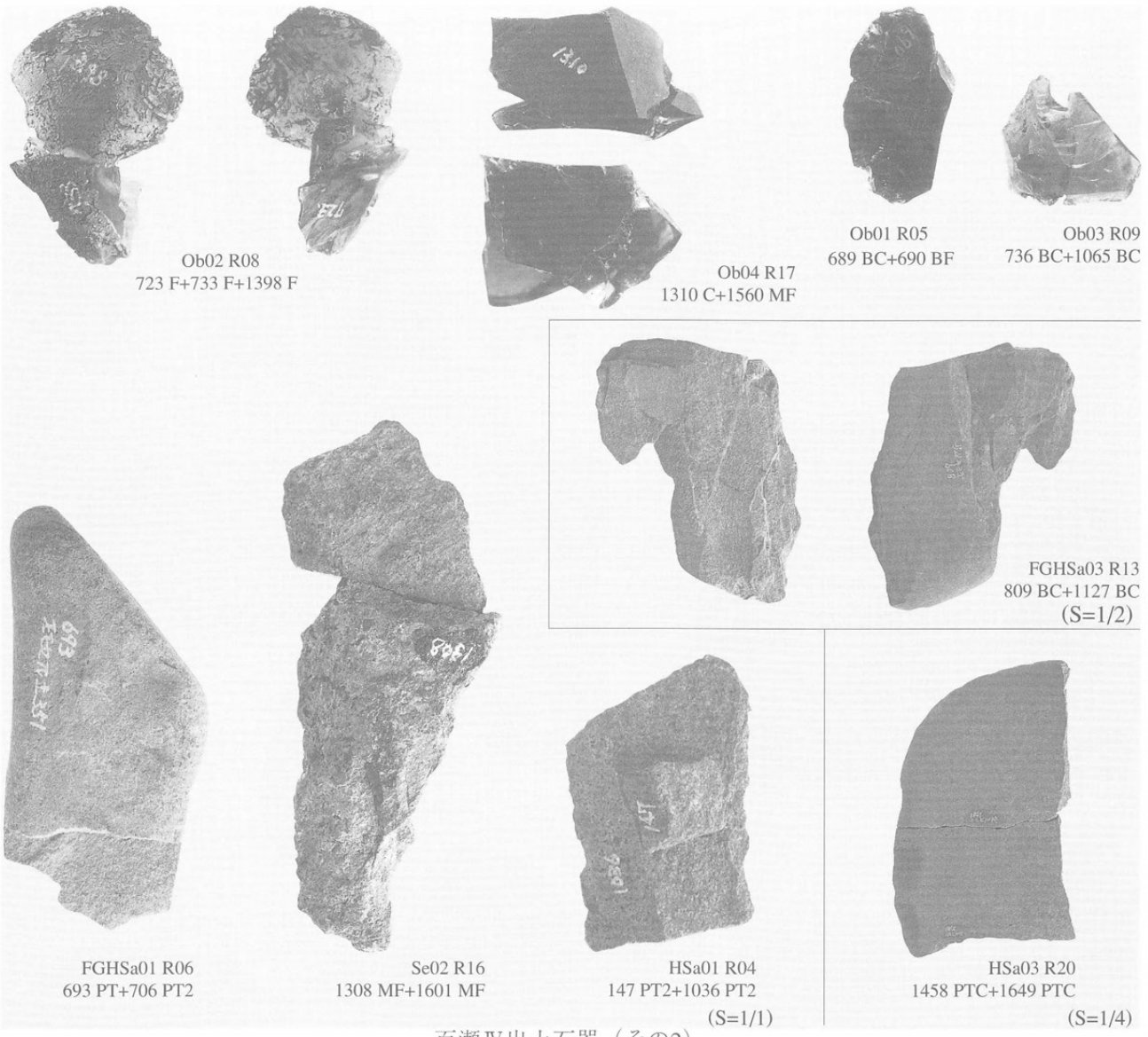


中世陶磁器

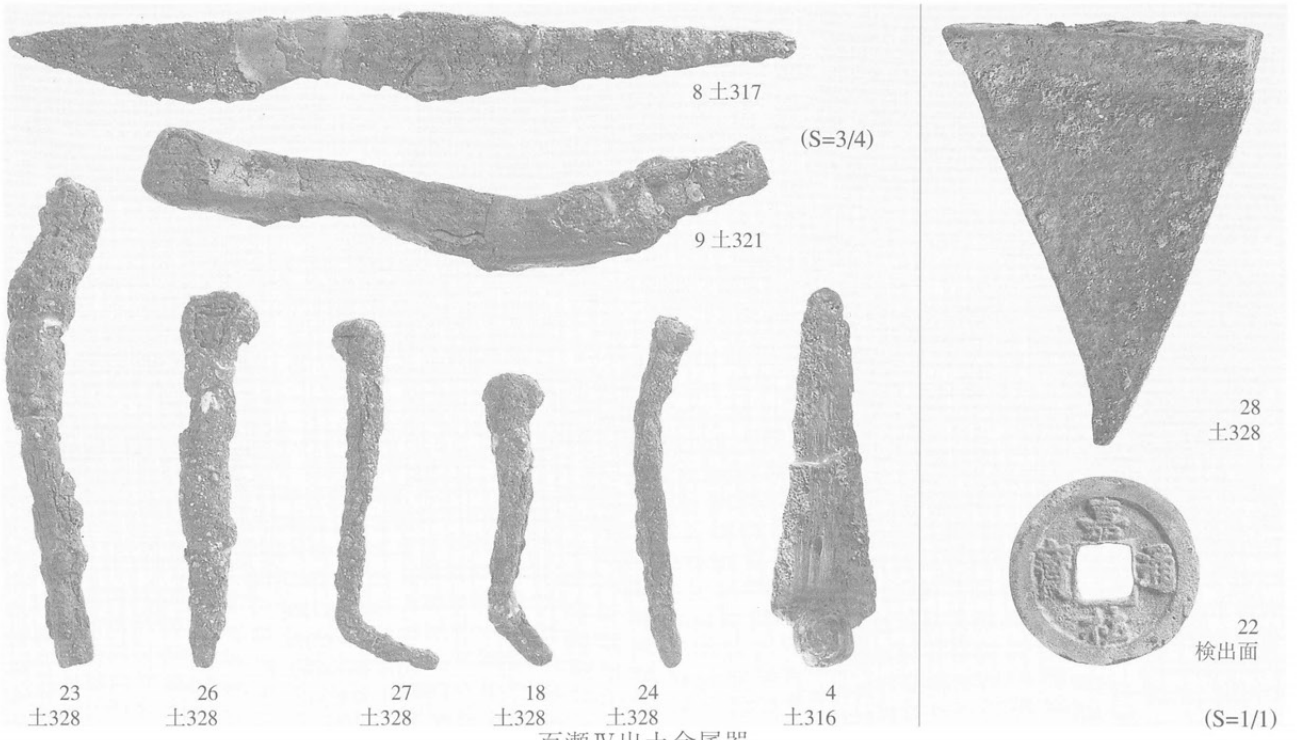
古墳～中世土器・陶磁器



百瀬IV出土石器 (その1)



百瀬IV出土石器 (その2)



百瀬IV出土金属器

長野県松本市 百瀬遺跡Ⅳ 緊急発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし ももせいせき4 きんきゅうはくつちようさほうこくしょ
書名	長野県松本市 百瀬遺跡Ⅳ 緊急発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	No.151
編著者名	赤羽裕幸 荒木龍 太田圭郁 直井雅尚
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号 (記録・資料保管:松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL 0263-86-4710)
発行年月日	2001(平成13)年3月23日 (平成12年度)

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ももせ 百瀬	こまぎとよおか 松本市寿豊丘 118-2-1他	20202	317	36度 11分 0秒	137度 58分 30秒	19990513~ 19990710	973㎡	店舗建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
百瀬	集落跡	縄紋	なし	縄文土器(中期初頭~後葉) 石器	弥生中期末、平安後期と中世の集落址を確認した。弥生時代は遺構は少ないが大量の土器・石器が出土。中世は建物址と井戸が確認され、多彩な陶磁器、鉄器が出土した。弥生の人面付土器や平安時代の風字硯の出土が目される。	
		弥生	竪穴住居址 土坑 ピット	3軒 26基 14基		弥生土器(中期末~後期前半) 人面付土器片 石器(原石・石核・剥片・鎌形・錐形・打製斧形・磨製斧形・磨製鎌形・磨製石包丁形・礫石器・砥石状)
		古墳	溝址	1条		土師器(前・中期)、須恵器(後期) 土製品(ミヅヲ土器) 石製品(白玉15点)
		奈良・平安	竪穴住居址 ピット	1軒 3基		土師器、須恵器、灰釉陶器 陶硯(風字硯1) 鉄滓
		中世	建物址 柱穴列 竪穴状遺構 井戸址 土坑 ピット	2棟 1基 3基 7基 1基 37基		陶器(東海系施釉陶器・東海系無釉陶器・須恵質陶器)、磁器(青磁) 石器 鉄器(鉄釘・刀子・鉄鎌・鉄鍋・不明鉄製品) 銭貨(嘉祐通宝1)
		時期不明 (平安~中世?)	土坑 ピット	9基 17基		

松本市文化財調査報告 No.151

長野県松本市

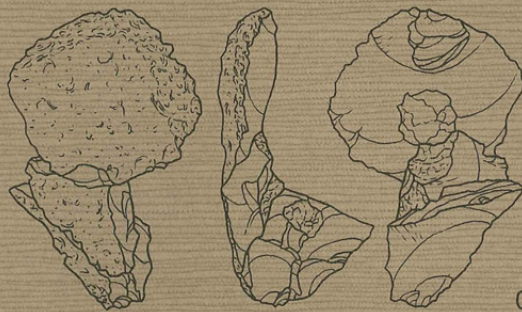
百瀬遺跡Ⅳ

—緊急発掘調査報告書—

発行日 平成13年3月23日

発行 松本市教育委員会
〒390-8620 長野県松本市丸の内3番7号

印刷 川越印刷株式会社
〒390-0875 長野県松本市城西1-5-21



MOMOSE site 4th
Refitted artifacts
0b02 R08 723+733+1398